

外務省政務局

千九百十九年巴里講和會議ノ經過ニ關スル調書（其六）

（自四月一日至四月十五日）

大正八年五月十五日調

## 目 次

### 經過一覽

### 經過詳報

一、講和打合會(五國外相會議等).....	七
二、國際聯盟委員會.....	二七
三、損害補償委員會.....	四九
四、開戰責任及制裁調查委員會(責任委員會).....	六五
五、港灣水路及鐵道ニ關スル國際研究委員會(交通委員會).....	六九
六、財政委員會.....	七七
七、經濟委員會.....	九五
八、國際勞動法委員會.....	一〇五

月	日	會 議 の 性 質	議 事
四 月 一 日		五 國 外 相 會 議	
四 月 二 日		損 害 補 償 委 員 會 第 一 分 科 會	第三讀會ヲ終リタル國際勞働法制ニ關スル協約 案附議 牧野全權ノ陳述
四 月 三 日		新財政委員會第一分科會(第十次)	第二十七次會合開催ノ咎ノ處一日延期トナル 備考 會議不進行ニ關スル伊國「クレスビー」 氏ノ談
		損 害 補 償 委 員 會 第 一 分 科 會	甲、戰前債務決済問題 (經濟委員會トノ聯絡)
		損 害 補 償 委 員 會 第 二 分 科 會 (第二十七次)	乙、起草委員會ノ修正案及追加案審議(承前) 無期延期トナル
		敵國ヲシテ賠償ニ充ツル爲引渡サシムヘキ船舶 ノ範圍及引渡ノ方法ニ付討議(未了) (議事ハ次回ニ跨ル)	
		甲、米國委員ノ提案	
		乙、分科會ノ決議	
		甲、前回會議乙ノ續	
		乙、諸問題回答案第二讀會	
		(二) 獨國債務辨済順位問題	
		(三) 割讓地ト獨逸公債トノ關係及割讓地 内官有財產ノ處分	
		(三) 第七、八、九次本分科會決議條項	

○千九百十九年巴里講和會議經過一覽 (其六)

交 通 委 員 會(第二十一次)

—

四月六日	交通委員會(第二十三次)	最高會議へノ報告文案決議 附記、講和豫備條約挿入約款案ヲ最高會議へ提	港、河川、鐵道ニ關スル總括的約款案審議(承前) (一) 經濟委員會トノ協議報告 (二) 航行自由ノ件
四月五日	交通委員會(第二十二次)	敵國ヲシテ賠償ニ充ツル爲引渡サシムヘキ船舶 ノ範圍及引渡ノ方法ニ付討議(承前)	國際河川ノ件 (三) 國際河川ノ件 (四) 「ナエックスローヴアック」ノ鐵道案 平和假條約挿入決定事項 (通商關係ノ分)
四月四日	新經濟委員會	甲、第一分科會及第四分科會報告附議 乙、戰前債務決済問題 丙、當分休會	獨逸ノ沿岸貿易ニ關スル件
四月一日	損害補償委員會第二分科會(第六次)	新財政委員會(第三次)	

(◎附、委員會ノ經過餘報  
聯盟規約修正ニ關スル既掲以外ノ重要事項  
一、一定期間戰備禁止ノ件削除  
二、新草案第十五條第八項  
三、新草案第二十條  
四、新草案第二十六條  
五、國際聯盟案文確定

(條文添附)

新財政委員會第四分科會(第四次)

四月十二日

賠償財政聯合委員會

四月十四日

波蘭委員會

四月十五日

波蘭外相會議

- (既往六回ノ決議事項)  
 甲、被占領地及割譲地ニ流通スル敵國貨幣問題  
 乙、塊匈銀行ノ銀行券等ニ關シ聯合國最高會議ニ對スル建議案  
 (講和打合會ノ部ニ在リ)  
 波蘭東方國境問題  
 甲、「ライン」地方ニ在ル聯合國占領軍ノ費用支辨ニ關スル件  
 乙、阿片取引ノ制限ニ關シ平和條約ニ插入スキ諸項目ニ關スル件  
 丙、白國中立ニ關スル平和條約插入條項  
 丁、埃及並蘇士運河問題  
 戊、附、摩洛古並山東問題  
 附、獨逸ラント軍需品ニ關スル化學的過程ヲ通  
 獨逸側代表者招致ノ件等

四月十五日

波蘭外相會議

四月十五日

波蘭東方國境問題

不  
明

國境問題ニ關スル諸調査委員會

(講和打合會ノ部ニ在リ)

獨逸邊境諸國境界問題

甲、波蘭獨逸間國境

乙、白耳義國境

丙、丁抹國境

丁、「チエック、スローヴァツク」國境

(講和打合會ノ部ニ在リ)

「テツシエン」問題委員會

(講和打合會ノ部ニ在リ)

會議以外ノ重要事項

一、講和豫備會議進捗難ニ對スル米國側ノ態度

(講和打合會ノ部ニ在リ)

二、四國會議開催ニ關スル帝國委員ノ質問

(講和打合會ノ部ニ在リ)

三、人種的差別撤廢問題ニ關スル英國側トノ其後ノ内交渉

(四月十一日最終ノ聯盟委員會ニ於ル本問題ノ  
ト記事共ニ國際聯盟委員會ノ記事中ニ在リ)

四、戰爭責任問題(特ニ獨帝處分問題)ニ對スル日本委員ノ態度ニ付米國大統領ノ斡旋(責任委員會ノ部ニ在リ)

ト記事共ニ國際聯盟委員會ノ記事中ニ在リ)

## 講 和 打 合 會

### ○講和豫備會議進捗難ニ對スル米國側ノ態度

(四月九日巴里發電)

米國大統領ハ目下米國船渠ニ入港ナル「ジョージ、ワシントン」號ヲシテ「ブレスト」港ニ回航スヘキ旨突如電命ヲ發セリ  
尙ホ同號ハ二週日内ニ回航スヘシト信セラレ居ル處右命令ノ動機ニ就テハ

(一) 講和豫備條約ノ内容ハ二週間以内ニハ決定サルヘキ見込ニシテ獨逸トノ講和談判ニ際シ大統領自ラ當地ニ殘留シテ  
其ノ折衝ニ當ルノ要無ク大統領トシテハ寧ロ一日モ速ニ歸米シ講和條件ヲ具シテ臨時議會ニ臨ムコト肝要ナリ故ニ右ノ  
舉出テタルナリニ

(二) 大統領ト英佛伊三國首相等トノ間ニ兎角議纏マリ兼不殊ニ近來其ノ不健康ト共ニ大統領ノ神經興奮ノ度ヲ加ヘ遂ニ  
一種ノ威嚇手段(主トシテ佛國側ニ對シ)トシテ此ノ措置ヲ執ルニ至リタルナリ

トノ二様ノ消息ヲ傳フルモノアリ

右ニ關シ四月八日米國全權委員「ヘンリー、ホワイト」氏ノ珍田全權ニ語ル所左ノ通

我々米人ハ一定ノ理想ヲ懷キ歐洲人ヲ援ケ之ト共ニ講和事務ニ當ラムトシテ來佛シタル次第ナルカ豫備會議ノ實情ハ豫  
想ニ反シ各國各様ノ要求主張ヲ爲シ協議容易ニ纏マラナルコト御承知ノ如シ殊ニ佛國政府代表者ノ如キハ殆ント慾求飽  
ク所ヲ知ラサルノミナラス宛然一種ノ恐獨病ニ囚ハレタルカ如キ有様ニシテ其ノ要求ナルモノハ一トシテ獨逸ノ復讐ヲ  
未然ニ防カムトノ焦慮ニ出テサルハナシ例ヘハ賠償問題及「ザール」炭田問題ノ如キ將又「ライン」左岸ニ於ケル獨逸軍備  
撤廢問題及聯合軍駐屯問題ノ如キ何レモ如上ノ見地ニ胚胎シ居レリ其ノ中炭田問題ハ北佛炭田復舊ニ至ルマテ獨逸ノ主  
權ニハ關係ナク單ニ「ザール」炭田ノ開掘權ヲ佛國ニ與フルコトニ話合着キ又軍備撤廢問題モ何トカ解決ノ途ナキニ非サ

ルへシト雖現下ノ形勢ニテハ駐屯軍問題ハ困難ヲ感シ居レリ佛國ノ要求ハ一定ノ年限ヲ期シテ聯合軍ヲ「ライン」左岸ニ駐屯セシメ以テ獨逸ノ來襲ニ備ヘムトスルニ在リ聞ク所ニ依レハ「フォツシユ」元帥ハ職ヲ賭シラ之ヲ争ヒツ、アル趣ニテ「クレマンソウ」氏ハ飽クマテ强硬ノ態度ヲ持シテ讓ラス又一方ニ於テ「ロイド、ショージ」氏ノ如キハ左視右盼確定ノ態度ナキト同時ニ自己ノ主張ハ例ヘハ賠償問題ノ如キ又「カイゼル」問罪問題ノ如キ輕忽ニモ選舉運動ニ利用シタル行懲リ上頑強ニ之ヲ固守シテ毫モ妥協ノ精神ヲ現サス又伊國ノ要求ニ係ル「フュウメ」ノ問題ハ其横暴ニシテ到底同意シ能ハサルコト勿論ナル處之レ亦頑強ニ主張シテ媳マス之ヲ要スルニ難件ノ解決ニ數週ヲ要スルカ如キ現狀ニテハ何時講和準備ヲ整ヘ得ヘキヤ見据エ付キ難シ去リ迪我々米人ハ以上ノ諸問題ニ付與國ニ強壓ヲ加フル能ハサルハ勿論ナルト同時に我々ノ非理ナリト信スルモノニ同意スルノ義務ナキコト又云フヲ俟タス從ア講和豫備會議ニシテ愈々行詰ルカ如キ場合ニハ米國ハ會議總會ヲ催シ其ノ理由ヲ告白シテ引揚ヲ斷行シ米獨間ノ交渉ニ從事スルノ外ナカラシ尤モ今日方ニ斯ル引説リノ事態ニ到達シタリト云フニハアラス昨今賠償問題ニ付テハ多少展開ノ模様見エタルヲ以テ或ハ必シモ悲觀ヲ要セザルヤモ知ルヘカラス云々

同日「ランシング」氏ト他用ヲ以テ面談ノ際氏モ本件ニ談及シタルカ其ノ語ル處「ホワイト」氏ノ如ク詳細ニ亘ラサルモ歸着スル處ハ同一ナリ要スルニ上級兩氏ノ内話ヨリ察スレハ今回「ウヰルソン」大統領ノ執リタル處置ハ講和準備促進ノ目的ニ出テタル一種ノ威嚇手段ナリト推測セラル、ト同時ニ右談話中ニ於テ氏ノ興奮セル語氣態度ニ微スルニ米國側ニ於テ昨今ノ(脱)ハ蔽フヘカラサル事實ニシテ事ノ成行如何ニ依リテハ本件ハ決シテ虛喝ヲ以テ終ラサルヘシ然レトモ各般ノ關係ヲ綜合考查スルニ會議ノ前途必ス(脱)達スヘシトハ思考シ難ク何トカ茲ニ妥協ノ途ヲ講シテ講和準備ノ歩武ヲ進捗スルコト

、観測セラル

## ○四國會議開催ニ關スル帝國委員ノ質問

(四月十日巴里發電)

### (一) 松井委員ノ佛「ビション」氏トノ會議 (三月二十九日)

三月二十四日以後五國會議ヲ開クコトナク「ウヰルソン」大統領、「ロイド、ショージ」、「クレマンソウ」並「オルランド」四國首相ハ毎日大統領旅館或ハ陸軍省ニ會合シ豫備條約ノ大綱ヲ協議シツ、アリ仍テ右模様(脱)ノ理由等ニ關シ松井大使ヨリ「ビション」ニ問質サムトシタル處同氏ハ第二期豫算討議及外交問題等ニ關シ長ク議會ニ引止メラレ其ノ機會ナク漸ク二十九日朝松井大使ヲ引見ス仍テ松井大使ヨリ右ノ理由ヲ同相ニ付質問シタルニ「ビション」ハ右所謂四國總理會議ナルモノハ公然ノ會議ト云フヘキモノニアラス云ハ、相談會ナリ小人數ニテ相談スル方速ニ話ヲ纏ムルニ便利ナルト一一ハ先頃五國會議ニテ祕密漏洩ニ關シ八釜敷問題起リタルヨリ斯クハ人數ヲ限リタル次第ナリト答ヘタリ  
仍テ松井大使ハ新聞ニ依レハ豫備條約案ハ現ニ右四總理會議ニテ討議セラレツ、アリ近々同案成立スルニ至ルヘシトノコトナルカ同條約案ニ付テハ日本モ當然相談ニ預ルヘキモノト諒解シ居リ又日本ノ特ニ重大ナル關係ヲ有スル獨逸殖民地又ハ青島ノ問題等ノ事柄ハ如何ニ相談セラルヘキヤト問ヒタルニ「ビション」ハ條約案ノ大綱丈ケハ餘リ手間取ラサル積リナルカ一應調製ノ上ハ勿論日本ニモ相談スヘク又獨逸殖民地ノコトハ問題ニナリ居ラス討議ノ問題ハ重ニ獨逸ノ國境及損害補償ノ諸點ナリト云ヘリ

松井大使ハ更ニ右ニ付國境問題ハ五國會議ニテ決定セラルヘキヤ將又總會議ナルヤ假令ハ「アドリアチック」問題ノ如キ隨分而倒ナルモノナルカ如何ト尋ネタルニ五國會議ニテハ御承知ノ通リ右國境問題ノ決定方法ニ付何等決定シ居ラス「アドリア」問題ノ如キ佛國ノ關スル限リ伊太利トノ條約ヲ嚴守スルモ「ウヰルソン」大統領ハ別ニ意見ヲ有スト答ヘタリ  
松井大使ハ更ニ右四國會議ニ關シテハ當地本邦通信員等モ隨分神經過敏ニテ四國ハ日本ヲ除外シ居ルモノ、如ク速断シ其

ノ意味ニテ日本へ打電セル向モアルヘク又日本ニ於テモ事情ヲ諒解セズ不平ヲ唱フルモノアルヘキニ付實情ヲ聽取リタル上本邦ニ電報シ何等誤解ナキ様致シ度ク(脱)會見ヲ求メタル次第ナリト述ヘタル處「ビション」ハ至極尤ナリ日本ヲ除外スルカ如キ念慮毛頭ナク此點充分諒察アリタシト返答セリ

## (二) 本件ニ關スル覺書往復(四月一日及二日)

右會見後松井大使更ニ事情ヲ明白ニスル爲「ビション」ト會見セムコトヲ希望シ居タルモ三十日以後風邪ノ爲外出ヲ禁セラレタルニ付四月一日長岡參事官ヲシテ外務省官房長 Grand 「ルグラン」ヲ訪問シ「五大國會議開催停止之ニ代ルニ四大國會議ヲ以テセラレタル處帝國講和全權ハ何等四大國ニ於テノミ利害關係ヲ有スル事項ニ與カルノ意思ヲ有セサルモ帝國ニ直接ノ關係ニ付テハ勿論一般的問題ト雖帝國全權ニ相談ナクシテ決議ヲ進メラル、コトハ特ニ帝國カ倫敦宣言ノ一員タル關係ヨリ見テモ之ナカルヘキヲ希望ス」トノ覺書ヲ手交シ以テ帝國全權ノ趣旨先方へ貫徹方取計ハシメタル處今四月二日ヲ以テ「一般的利益ニ鑑ミ五大國會議停止以來米英佛韓伊各代表者ノ討議事項ハ歐洲内部ノ領土問題及ヒ他ノ歐洲限りノ問題ニシテ之等四國會議ハ單ニ特殊難件ニ關スル決定ヲ速ニスル目的ニ出アタルモノニシテ若シ苟モ日本ノ特殊利害ニ關シ又ハ一般的ニ上ル時期ニ至レハ直ニ日本全權ノ出席協力ヲ誠心歎迎スルモノナリ」トノ覺書回答ニ接セリ

## ○四月十五日五國外相會議

一、日 時 四月十五日午後

佛、米、伊外相ノ外

英「サー、ロバート、ポルテン」卿(「バルフォア」卿ノ代理トシテ)

日、牧野全權

### 一、内 容

甲、「ライン」地方ニアル聯合國占領軍ノ費用支辨ニ關スル件

#### ○「スバー」委員會ノ報告

Wegeur 「ウエガーン」將軍ヨリ問題ノ經過ヲ報告ス曰ク

「占領軍ノ維持費ハ休戦條件ニ從ヒ獨逸側ヨリ支拂フコトト相成居ル處如何ナル標準ニテ其ノ費額ヲ見積リ如何ニ之ヲ支拂ハシムヘキカニ付本會議ノ決定ヲ請ハムトス「スバー」ニアル聯合國委員會ハ軍ノ維持費中ニ軍隊輸送費軍人ノ給料ヲモ含メ人及馬匹ノ維持ニ要スル總額ヲ獨逸ヨリ支拂ハシムル方針ヲ決定シ之ヲ「フォツシユ」元帥ニ提出シタリ然ルニ右計算ニ依ル時ハ軍ノ維持費一ヶ月六億法ニ達シ今日迄ノ費用約三十億法ノ巨額ニ上ルヲ以テ同將軍ハ斯ノ如キ莫大ノ金額ヲ維持費トシテ獨逸ニ請求スルコトヲ見合セ占領軍ノ維持ニ直接必要ノ費用ノミヲ差當リ支拂ハシメ其ノ他ノ部分ハ賠償金中ニ含マシムルコトトシ度キ希望ニテ聯合國委員會トノ意見一致スルニ至ラス是本會議ノ決定ヲ請フ所以ナリ」ト

○此ニ於テ一應本件ニ關スル財政委員會ノ意見ヲ聽取シタルモ同委員會ニ於テモ各國ノ意見ニ別レ全ク合致スルニ至ラサル趣ノ報告アリ

○「ランシング」ハ本件審議ノ權限ハ或ハ最高軍事會議ノ權限ニ屬スト云々或ハ最高經濟會議ニ移スヘシト主張シタルカ○結局本件カ外相會議ノ權限ニ屬スル問題ナリヤ否ヤ否ニ付首相會議ノ決定ヲ俟チテ更ニ審議スルコトトナレリ

乙、阿片取引ノ制限ニ關シ平和條約中ニ插入スヘキ諸項目ニ關スル件

○米國案ノ内容

英國側原案ニ對シ米國ノ修正案提出セラル其ノ要旨ハ獨逸ヲシテ一九一二年海牙ノ阿片條約ニ加入セシメ平和條約批准後三ヶ月以内ニ右條約執行ノ爲メ必要ナル法規ノ公布ヲ約セシメ更ニ本條約ニ加入シ居ラサル同盟國ヲシテ同様ノ義務ヲ負擔セシメムトスルニアリ

## ○起草委員會へ送附

多少ノ議論ノ後英米兩國案ヲ一括シテ起草委員會ニ送附シ一案ト爲スコトニ決ス

## ○帝國委員ノ留保

牧野全權ハ右三ヶ月ノ期間カ日本ノ特殊ノ地位ニ鑑ミ短キニ失スルコトヲ述ヘ相當長キ期間ヲ附セラレムコトヲ留保シ置ケリ

## 丙、白國中立ニ關スル平和條約挿入條項(英佛米案)

○自國中立ノ保證ニ關スル一八三九年ノ條約ニ代ルヘキ新制度ヲ獨逸ニ承認セシムル條項ヲ平和條約中ニ挿入スルノ件ニ付英佛案ニ對シ米國ヨリ修正案ノ提出アリ「ランシング」氏ハ單ニ獨逸ヲシテ白國ノ新タナル地位ヲ承認セシムルノミナラス更ニ進ンテ獨逸カ開戦當初白國ノ中立ヲ侵害シタル事實ヲ認メシムトスル點ハ米國案カ原案ト異ル要點ナリト説明シ主義ニ於テ一同異議無ク

## ○各案ヲ一括シテ起草委員會ニ送附スルコトニ決定

## 丁、埃及並蘇士運河問題、附摩洛哥並山東問題

## イ、英國提案

本問題ニ關スル英國提案ハ埃及ニ於ケル英國ノ宗主權ヲ承認シ領土特權「テリトリアル、ブリビレッヂ」ノ撤廢ヲ認メ並蘇士運河條約ノ條項ニ從ヒ土耳其皇帝ノ有スル權利ヲ英國政府ニ移轉スル旨ヲ承認スル旨ヲ平和條約中ニ挿入スルニアル處

## ロ、米「ランシング」氏ノ此等領土ニ關スル一般的規定ヲ設クルノ說

右英國提案ニ對シ「ランシング」氏ハ領土問題ヲ如斯ク個々ノ條文ニテ規定スル代リニ一般的規定ヲ以テ獨逸ハ自己固有ノ領土以外ノ領土權ヲ拠棄スル旨ヲ約束セシムルコト適當ナリト思考スル旨ヲ述ヘ

ハ、佛「ビション」氏ノ英國案支持並摩洛哥ニ關スル主張  
 「ビション」氏ハ若シ米國ノ提議ノ如ク概括的ノ規定ヲ設クル場合ニハ土地ニ附行スル多數ノ問題ヲ包括スル如キ條項ヲ設クルコト極メテ困難ナリ英國ノ提案ハ領土權ニ關係アルモノニ非ス唯特權ノミニ關スル問題ナリトテ英國案ヲ支持スルト同時ニ摩洛哥問題ニ關スル佛國ノ主張ハ本件同様特殊ノ條項トシテ條約案中ニ挿入セラルヘキコトヲ主張シタリ

## ニ、「ランシング」

「ランシング」ハ更ニ此種ノ問題ハ單ニ摩洛哥、埃及ニ關スルノミナラス例ヘハ支那ニ於ケル獨逸領問題、支那及暹羅ニ於ケル治外法權問題ノ如キ全ク本件ト同一性質ノモノナリト思料スト云ヘルニ依リ

## ホ、牧野委員ノ對「ラ」氏反對陳述

牧野全權ハ膠州灣ハ純然タル獨逸領土ト異リ租借地タル性質ヲ有ス本問題ニ付キテハ日支兩國間ニモ別種ノ取極アリ旁々本件トハ趣ヲ異ニスルヲ以テ獨逸ト特別ノ取極ヲ爲ス必要アリト思考スト述ヘタルニ  
 ヘ、「ランシング」氏ハ支那ハ現ニ山東ノ還附ヲ要求シツツアリト遮リタルヲ以テ

ト、牧野全權更ニ山東ノ土地ヲ支那ニ還附スルコトハ日本ニ於テ何等異存ナク已ニ日支間ノ條約ニテ其ノ趣旨ヲ明白ニナシ居リ平和條約ニ於テ獨逸ヨリ一應日本ヘ讓リ受クル形トナシ然ル後支那ヘ還附スルコト致シ度キ所存ナリト述ヘタル處

チ、「ランシング」氏ハ重ネテ日本ハ「トラステー」(受託者)トシテ山東ヲ獨逸ヨリ讓受タル意思ト了解シテ然ルヘキヤト云ヘルニ付キ

リ、牧野全權ハ云ハスク云フコトヲ得ヘシト答ヘタル處  
 メ、「ランシング」氏ハ果シテ然ラハ同盟諸國カ「トラステー」(受託者)トシテ受取ルコトトナスモ差支無キニ非スヤト

ル、牧野委員ハ本問題ハ日支兩國間ニ條約ノ明文ヲ以テ已ニ解決セラレ居リ全ク兩國間ノ問題ニ屬スルヲ以テ同盟諸國ト關係無キモノナリト答ヘタリ

ヲ、「ビショーン」ノ提議

此時「ビショーン」氏ハ問題ハ全然本件ト關係脱ト注意シ佛國側ヨリ「ランシング」ノ主張ニ副フ様獨逸ハ他國ノ領土ニ於テ有スル總テノ「デリトリアル、ブリビレツヂエス」(領土特權)ヲ拠棄スト云フ意味ノ條文ヲ插入スヘキ乎ト提案シワ、「ボーデン」卿竝ニ摩洛哥委員會側ヨリ如斯キ概括的規定ヲ設クルコトヲ極メテ危險ニシテ且ツ困難ナルコトヲ述べ

ヘ

カ、又「ソンニノ」男ハ埃及問題ニ關スル委員會ノ設置ヲ提議シタルモ成立セス

ヨ、「ボーデン」卿ハ重ネテ右ノ如キ概括的規定ヲ作成スルコトニ同意スヘキモ起草委員會ニ於テ埃及問題ヲ十分掩ヒタル規定ヲ作成シ得サル場合ニハ英國案ヲ首相會議ニ附議セラルルコトト致シタシト希望シ

タ、「ランシング」提議

「ランシング」氏ハ先ツ一般概括的規定ヲ作成シ其後ニ各國ニ於ケル此種ノ問題ヲ附記スルコトセハ如何ト提議シ一同ノ賛成アリタルニ依リ

レ、牧野委員ノ留保

牧野全權ハ右提議ニシテ採用セラルル場合ニハ山東問題ハ特殊ノ關係ニ在ルニ鑑ミ別個ノ問題トシテ別ニ條約文ヲ挿入スルコト可然シテ思料スルカ故ニ此點ハ留保致シ度シト斷言シ置ケリ

戊、獨逸ヲシテ戰爭中軍需品又ハ其ノ原料ノ製造ニ使用シタル總テノ「ケミカルプロセス」(化學的過程)ヲ聯合國ニ通知スル義務ヲ負擔セシムル軍事條項追加ニ關スル件

◎附記 獨逸側代表者招致ノ件等  
本日ノ會議ニ於テ「バルフォア」ノ語ル處ニ依レハ彌々來ル四月二十五日迄ニ獨逸代表者ヲ「ベルサイユ」ニ招致スヘク其ノ前日位ニ聯合國側ノ講和總會議ヲ催シ獨逸側ヘノ提出條件ヲ附議スヘキ各國首相間ノ豫定ナリト「バルフォア」自身ハ夫迄ニ用意紙ヲ可キヤ確信ハナキモ兎ニ角右ノ豫定ニテ進行シツアリト云フ

膠州灣問題ハ五六日以内ニ議題ニ上ル見込ナリ

## ○獨逸邊境諸國ノ獨逸トノ境界問題

(四月七日及十六日巴里發電)

五國會議ハ今次ノ戰爭ニ關聯シテ起リタル人種問題ニ關聯シ其ノ境界ヲ調査スル爲メ「チエク、スローヴァツク」(波蘭)「ユウゴー、スラブ」(羅馬尼亞)「白耳義丁抹」等諸問題ニ付各委員會ヲ任命シ委員會ハ是等諸國ノ境界及之ニ關聯スル問題ヲ講究シ其ノ査定セル處ヲ起草委員ニ附託シテ豫備條約案ヲ作成シ理由書ト共ニ報告書トシテ更ニ五國會議ノ任命セル中央領土委員會ノ審査ヲ經テ五國會議ニ提出スルコト、ナリタリ

五國會議ハ追フテ更ニ右條約案ヲ審議スヘク從ツテ現ニ五國會議ニ提出サレタル條約案ハ確定案ニ非ス且ツ之ヲ總括スヘキ條約ノ形式モ未定ナルモ目下各國ハ獨逸トノ豫備條約締結ヲ急キ居ルニ付委員會提出ノ豫備條約案中獨逸關係ノ分ヨリ順次記述スヘシ

## 甲、波蘭獨逸間國境

一六

本件ニ關シテ調書四第三七頁波蘭委員會(第四、五、六次會合)記載ノ通ナルカ尚獨波國境ニ關スル波蘭委員ノ報告ヲ摘要スレハ左ノ如シ

波蘭委員會カ獨波國境ニ關シ五國會議ニ提出シタル報告中注意スヘキ點左ノ通

(二) 委員會カ獨波ノ國境ヲ劃定スルニ付テハ主トシテ人種上ノ限界ニ重キヲ置ケル外宗教歷史波蘭ノ國防、獨波兩國ノ經濟關係交通手段ヲ斟酌シタリ

(一) 委員會ハ次キノ理由ニ基キ「ダンチツヒ」ヲ波蘭ニ歸屬セシム

(イ) 海港ニ關スル波蘭ノ希望ハ聯合國モ之カ不當ナラサル次第ヲ認メ居レル處此希望ヲ満タスニハ「ダンチツヒ」ヲ措キヲ他ニ無キコト

(ロ) 「ダンチツヒ」及ヒ其「ヒンターランド」(背後地)タル「トルン」ニ至ル「ビスチユラ」川一帶ノ地域ヲ波蘭ニ歸屬セシムルモ東普魯西ノ爲メ獨逸トノ間ニ貨物ノ自由通過ヲ認ムルニ於テハ東普魯西百六十萬ノ獨逸人ノ利益ヲ充分ニ保護シ得ヘキニ反シ之ヲ依然獨逸ノ領有トセムカ獨逸ハ終ニ波蘭ニ對シ敵意ヲ有スヘキヲ以テ約二千五百萬ノ波蘭人ノ海トノ交通ハ到底確保セラサルヘシ

(ハ) 「ダンチツヒ」ニ在住スル獨逸商人ト雖同港カ波蘭ノ港トシテ發展スルニ依リ却テ利スル處アルヘキナリ

(ニ) 「ダンチツヒ」ノ商業ハ普魯西政府ノ勢力ニ依リ戰前ハ壓迫セラレ居タルカ同港カ波蘭ニ歸屬シ從來ノ障害モ撤廢セラルレハ其ノ人口モ著シク增加スヘク而シテ右増加ハ同港「ヒンターランド」ニ住スル波蘭人ニ依リテ行ハルヘシ

(ホ) 「ダンチツヒ」市ヲ東普魯西ニ殘シ「ノイフアールワツセル」Neufahrwasser港ノミヲ波蘭ニ與フヘシトノ說アリタルモ市ト港トハ一帶ヲナシ離スヘカラサルモノナルヲ以テ委員會ハ此說ヲ採用セサリキ

(三) 委員會ハ「ダンチツヒ」ヨリ「デイルシャウ」Dirschau「ムラワ」Mlawo經テ「フルソー」ニ至ル鐵道線ヲ波蘭ニ歸屬セシムルヲ必要ナリト認ム右ハ波蘭カ海ヘノ確實ナル出口ヲ有スル必要上又該鐵道線ハ波蘭各地方ノ交通手段トシテノミ其ノ經濟上ノ價値ヲ有スルコト及ヒ該線ハ「ワルソー」ト海港トノ最モ近キ線路ナルコトノ三ノ理由ニ基クモノナリ

右ノ次第ニ依リ「アルレンシユタイン」縣ノ南端同鐵道ノ沿線ハ「ブレビシット」ヨリ除外シ決定的ニ波蘭ニ歸屬セシム(「アルレンシユタイン」縣ハ波蘭人多數ヲ占ムルモ新教徒ナルヲ以テ「ブレビシット」ニ依リ其ノ所屬ヲ決セシムルコト・ナリタルコトニ關シテハ三月六、七、九日ノ波蘭委員會記事(ロ)ノ(1)參照)

(四) 「ニエメン」河ハ「リトニア」人ト普魯西亞人トノ人種上ノ境界ナルヲ以テ同線ヲ以テ東普魯西亞ノ東北國境タラシメ同線ト現露獨國境トノ間ニ介在スル地方ハ「ブレビシット」ニ依リ其ノ所屬ヲ決スルコトトス

(五) 報告ハ獨波國境ニ關シ豫備條約ニ挿入セラルヘキ條文案十條ヲ掲ク

第一條ハ波蘭ノ西國境

第二條ハ東普魯西ト波蘭トノ國境ヲ規定ス大體三月六、七、九日ノ波蘭委員會記事報告ノ通

第三條、第四條、第七條「アルレンシユタイン」Allenstein、「オント」Oletzko地方カ「ブレビシット」ニ依リ其所屬ヲ決セラルヘキコト並右「ブレビシット」ノ條件等ヲ規定ス即

獨逸官憲及軍隊ハ本條約批准後十五日以内ニ右ノ地方ヲ撤退シ五國代表者五名ヨリ成ル聯合國委員會管理行政ノ下ニ置キ同委員會ハ一定條件ノ下ニ同地方ニ於テ投票ヲ行フ投票權ハ本條約批准ノ時滿二十歲ニ達シ且該地方ニ生レタルカ又ハ委員會ノ定ムヘキ一定ノ時期ヨリ住所又ハ居所ヲ有スル男女ニ與ヘラレ投票ノ結果ハ Gemeinde 每ニ投票數ノ多數ニ依リ決スルモノトス

第五條、獨逸ハ前記「ニエメン」河以北ノ地方ニ關スル權利利益ヲ聯合國ノ爲ニ拋棄シ聯合國カ右地方ニ付執ルヘキ

第六條ハ第一條第二條所定ノ國境實地確定ノ爲メ本條約批准後十五日内ニ聯合國委員五名獨波委員各一名ヨリ成ル委員會ヲ組織スル旨ヲ規定ス

#### 第八條、第九條、波蘭及獨逸人ノ國籍ノ取得喪失ヲ規定ス

外國ニ在ル獨逸人民タル波蘭人ハ外國法ノ規定ニ反セザル限一定條件ノ下ニ波蘭國籍ヲ取得ス

#### N、白耳義國境問題

白耳義問題委員會ニ於テ獨逸白耳義ノ國境ヲ修正スルト共ニ白耳義主權ニ加ヘタル制限ヲ解除スル爲千八百三十九年四月十九日白耳義和蘭ニ關スル三個ノ倫敦條約ヲ改正スルノ必要ヲ認メ尙和蘭カ「ニエスニー」Escut 左岸及「リムブルグ」Limburg ハ白耳義ニ讓渡スル場合ニハ和蘭ノ爲「ヒムベ」Ems 河口及「グニッケ」Geldre 地方ニ於テ代償地ヲ求ムヘシ別電ノ通り豫備條約案ヲ規定セリ

#### ARTICLE 1.

Germany recognizes full sovereignty of Belgium over the whole of contested territory, Monet called Moresnet neutre.

#### ARTICLE 2.

Germany renounces, in favour of Belgium, all rights and title of its territory of Prussian Moresnet situated in the west of road from Liege to Aix-la-Chapelle; where road bounds this territory it will belong to Belgium.

#### ARTICLE 3.

Germany renounces, in favour of Belgium, all rights and title over the territory composing the whole of circles

#### (Kreise) of Malmedy.

During the six months after coming into force of this treaty, register will be opened by Belgian authorities at Eupena and Malmedy in which inhabitants of the above territory will be entitled to record in writing desire to see the whole country or part of it remains under German sovereignty.

Results of this public expression of opinion will be communicated by Belgian Government to the League of Nations and Belgium undertakes to accept decision of the League.

#### ARTICLE 4.

A commission of seven persons, five of whom will be appointed by the five Allied and Associated Powers, one by Germany, and one by Belgium, will be set up fifteen days after the coming into force of this treaty to settle new frontier line between Belgium and Germany, taking into account economic factor and means of communication.

Decision will be taken by a majority and will be binding of the parties concerned.

#### ARTICLE 5.

When the transfer of the sovereignty over the territories referred to above has become definitive, German nationalals habitually resident in the territories will definitely acquire Belgian nationality *ipso facto*, and will lose their German nationality.

Nevertheless, German nationals who became resident in the territories after the 2nd Aug. 1914, will not obtain Belgian nationality without a permit from the Belgian Government.

Within the two years following the definitive transfer of the sovereignty over the territories assigned to Belgium under the present treaty, German nationals over 18 years of age habitually resident in these territories will be entitled to opt for German nationality.

Option by a husband over his wife and option by parents will cover their children under 18 years of age. Persons who have exercised the above right to opt must, within the ensuing twelve months, transfer their place of residence to Germany.

They will be entitled to retain their immovable property in the territories acquired by Belgium. They may carry with them their movable property of every description. No export or import duty may be imposed upon them in connection with the removal of such property.

## ARTICLE 7.

Belgium will acquire territories referred to above free and quit of all obligations attaching thereto.

## ARTICLE 8.

Germany undertakes to accept such restriction of her frontier in the estuary of the Ems as the Netherlands may claim, and the League of Nations may sanction, with the object of securing to the Netherlands adequate freedom of access through her own territorial waters to the port of Delfzyl.

## ARTICLE 9.

Germany undertakes to accept any other modification of her frontier with the Netherlands which the League of

Nations may consider necessary; provided that such modification shall not in any case extend beyond the territories included in the circles (Kreise) of Cleves, Gronau, Rees and Borken.

Duty of the League of Nations to give inhabitants of these territories opportunity of expressing desire to remain under German sovereignty.

## 四、丁抹國境問題

丁抹問題委員國、北部「シヨンベウヰツヒ」、1體ニシテ衆民投票ニ依リ丁抹ニ屬スくキヤ否ヤヲ決セシメ（豫備條約第一條第三項）中部「ルヘンベウヰツヒ」、中前記地區ニ隣接スル諸地方ニ於テハ各地方毎ニ衆民投票ヲ行ハシムベスル丁抹政府ノ要求ヲ容レタルノ「ナラス中部」シヨンベウヰツヒノ衆民投票ノ地區ヲ擴張シ（第一條第五項）尙丁抹政府ハ南「シヨンベウヰツヒ」ノ領有ヲ欲セサリシ爲「キーネ」運河問題ハ全然分離サンタリ豫備條約要領左記ノ通り第一條 獨逸丁抹間ノ國境ハ人民ノ希望ニ依リ定ム「タウカ爲「シヨンベウヰツヒ」Schleie 河口ヲ同河ニ沿ウテ「シヨンベウヰツヒ」Schleswig 市ハ南ニ達フ「キーネ」Reide 河ニ沿ウテ「ボリングスチッヒ」Hollingstedt ハシ「ヘルム」Husum 縣ノ東及南境界「トイネルシヨンベウヰツヒ」Eiderstedt 縣ノ南境界ニ沿ウテ「フリードリッヒスベアヒ」Friedrichstadt ハ及シ南轉シテ「トイネル」Eider 河ニ直下シ同河ニ沿ウテ北海ニ至ル線ト現獨逸丁抹國境間ノ領域内ノ住民ハ次ノ條件ニ從ムテ投票ヲ行ハシム

一、本條約調印後十日以内、獨逸軍隊及官憲ハ前記ノ地區ヲ撤退ベシ

右地區内ニ設立サンタル勞兵會ハ同期日内ニ解散セシムヘク同地域内ニ出生セルモノニアラシシテ本條約成立ノ當時職務ヲ行ヒ又ハ一九一九年三月一日後ニ於テ職務ヲ去リタル會員ハ同地區ヲ撤退セシム

右地區ハ直ニ五強國カ三名那威瑞典兩國カ各一名ヲ任命スル五名ノ乗員ヨリ成ル國際委員會ノ權力ノ下ニ置カルヘク右委員會ハ一般行政ノ權能ヲ有シ必要ノ場合ニハ強力ヲ用フルヲ得シ委員會ハ投票ノ自由誠實祕密ヲ確保スル

凡テノ措置ヲ採ルヘシ委員會ノ決議ハ多數決ニ依ル獨逸ハ委員會及投票ノ費用ノ半分ヲ負擔ス

## 二、投票者ノ資格左ノ如シ

(A) 本條約調印ノ日ニ滿二十歳ニ達シタル男子及女子

(B) 衆民投票地區内ニ出生シタルモノ獨逸官憲ニ追放サレタル爲メ現ニ同地區内ニ住所ヲ有セサルモノ又ハ千九百年(・)一月一日以前ニ同地區内ニ住所ヲ定メタルモノ

右地區内ニ出生シタルモノニシテ獨逸軍隊ニ在ルモノハ投票ニ參加セシムヘシ

二、「アルゼン」Alsen 島南端ヨリ「フレンスボルグ」Flensborg 湾ヲ經テ「クツブエルミューン」Kupfermühle ニ至リ「フロスニー」Frosley ノ南ヲ過ギ「シャイデベック」Scholebek、「シューデル、アウ」Suder Au、「ウイード、アウ」Wied

Au ノ流ニ沿クテ北海ニ至リ「シルテ」Sylt 島ノ北端ニ及ブ線以北ノ地域ニ於テノ獨逸官憲軍隊撤退後三週間内ニ投票ヲ行フ投票ノ結果ハ右地域全體ヲ付投票ノ多數ニ依リテ之レヲ決定シ其ノ丁抹ニ有利ナル時ハ同政府ハ國際委員會ト協議ノ上此ノ地域ニ文武官憲ヲ派遣スルヲ得ヘシ

四、「アムニム」Amrum、「ヒューネ」Führ ロ島ノ南ヨリ「ゾホルム」Soholm 河ニ沿ウテ Soholm 市ニ達シ「ローナステヂ」Lohorstede、「オーバナチヨ」Osternachoo ヲ迂回シ「フレルブ」Frörup ヲ經テ「ジクム」Sygum ノ東ニ於テ「バルチック」海ニ達スル線以北ノ地域ニ於テハ前項ノ投票後五週間内ニ投票ヲ行ヒ管區「グマイエンバ」(Gemeinde)

毎ニ投票ノ多數ニヨリ其結果ヲ定ム

五、前項地域ノ南方「シユライ」Söhlei、「アイデル」Eider 線以北ノ地域ニ於テハ前項ノ投票後二週間内ニ投票ヲ行ヒ各區毎ニ投票ノ多數ニ依リ其結果ヲ定ム

第二條 五強國ハ國際委員會カ投票ノ結果ニ基キ之レニ地理上經濟上ノ事情ヲ參酌シ國境ヲ定メタル報告ニ依リ國境ヲ確認ス此ノ時以後獨逸丁抹兩國政府ハ其ノ領域内ニ自國ノ文武官憲ヲ派遣スルヲ得

獨逸ハ聯合諸國ニ前項ノ領土ヲ譲渡シ聯合諸國ハ之ヲ丁抹ニ還附ス

第三條 住民ノ國籍變更ニ關シ白耳義ニ關スル條約案第五條ト略ボ同一ノ規定ヲ設ク但シ第二項ニ於テ一九一八年十月一日後ニ住所ヲ定メタルモノト規定ス

第四條 國籍選擇ニ關シ白耳義ニ關スル條約案第六條ト略同ノ規定ヲ設ク但シ丁抹ニ還附セラルヘキ地區内ニ出生シ現ニ獨逸國籍ヲ有スルモノハ同地區内ニ住所ヲ有セサルモ丁抹國籍ヲ選擇シ得ヘキ規定ヲ加ヘタリ

第五條 領土ノ還附ニヨリ丁抹ノ引受クヘキ獨逸國債額及性質ハ平和條約ヲ以テ定ム

六、「チエツク、スローヴァツク」國境問題

「チエツク、スローヴァツク」問題委員會ハ「チエツク、スローヴァツク」國ト獨逸トノ國境ハ大體舊獨塊兩國境界ニ依ルコト、シ「ガラツ」地方ニ於ケル獨逸國境ノ突出部及「ライヘンベル」Reichenberg、「エゲル」Eger 兩地ニ於ケル舊塊國々境ノ突出部ヲ修正スル案ヲ提出セルモ四月四日首相會議ハ兩國ノ國境ハ舊獨塊國境ニ依ルコトニ決セリ豫備條約案大略左ノ通

第一條 獨逸國政府ハ「カルバツト」連山ノ南方「ルーテン」人ノ自治地方ヲ含ム「チエツク、スローヴァツク」國ノ完全ナル獨立ヲ承認シ聯合諸國及ヒ關係諸國カ定ムヘキ同國ノ國境ニ同意スシ  
第二條 委員會原案ハ「ノイスタット」Neustadt 東方約八「キロメートル」ノ點ヨリ舊「ボヘミヤ」及上部奧地利兩州ノ境界ニ至ルマテノ國境ヲ修正セルモ前述ノ通首相會議ハ之ヲ變更從ツテ國境變更ニ關スル條項モ改作セラル、コトトナルヘシ

## ○「テツシエン」問題委員會

一、內容 「テツシエン公國諸州所屬決定」

(四月九日巴里發電)

波蘭委員會二月二十四日ノ會議(一)ノ(ロ)ニ關シ「テッショヘ」Teschen問題ハ波蘭「チエツク、スローヴアツク」兩國ニ關係アルヲ以テ結局兩國委員會聯合討議スルコト・ナリ同地ニ派遣セラレタル聯合國委員ノ報告ノ専門家ヨリ成レル小委員會ニ附託サレタルカ元來「テッショヘ」公國ハ「ビニヌベタ」Bielsk「フリデック」Frydek、「テラシム」Teschen、「ライスクツ」Freistadtノ四州ヨリ成リ「フリデック」Frydek州ノ殖民ハ「チエツク」人多ク他ノ三州(「フライスタツト」Freistadt州ノ西南部所謂炭坑地方ヲ除ク)ハ概シテ波蘭ニ入ルコトヲ欲セサルノ狀態ニ在リ一方炭坑地方ノ所屬如何ハ兩國共甚タ重キヲ置ク等ノ事情アリ右委員會ニ於テハ「ビエルスカ」Bielsk州ハ波蘭ニ他ノ三州ハ「チエツク、スローヴアツク」ニ編入シ之ニ充分ノ自治ヲ與フルコト及ヒ「オストラウ」Ostrau炭坑地方ハ「チエツク、スローヴアツク」ニ併合セラルモ石炭ハ從來通リ波蘭へ輸出センムルコトノ妥協案英佛米委員ノ間ニ成立セルカ伊國委員ハ之ニ對シ反対シタルモ委員會ノ多數ハ之ヲ承認シタリ尙「ラチボル」Ratibor ヲ波蘭領内ニ編入スルコトモ委員會ニ於テ決セリ

## ○波蘭委員會

(四月二十四日發電)

### 一、內容 波蘭東方國境問題

波蘭委員會ハ三月二十日ノ會議ニテ波蘭ノ東方國境ヲモ審査スルニ決シ英佛米伊ノ専門委員ヨリ成ル小委員會ヲ任命シ之ヲシテ研究セシメタルカ四月十四日(火)ノ本委員會ハ右小委員會ノ提案ニ基キ大體左記ノ國境線ヲ聯合國最高會議ニ提議スルニ決シタリ

右境界線ハ東普魯西亞ト舊露領「スワルキー」Szwarki 州北部行政區劃線トノ交叉點ニ發シ同北部線ニ沿ヒ「ブンスク」Punsk ノ稍々東ヲ通リテ南東シ「ガラズスヤ」Galadusya 湖ヲ横リテ「ゼガリー」Zegary 「マルゼニキ」Berzniki 「ゼルワ」Zelwa ノ稍々東ニ沿ヒテ南下シ「マリーチヤ」Marycha (「チヨルノバンシャ」Chernohorja 河ニ沿ヒ「ワルカイシユキー」

Warwischki ニ至リ其レヨリ殆ト南ニ直下シ「クロド」Grodo ノ西南「ヤール、ベダ」Kiel Basin ノ北東ヲ通り南東シテ「スヴィスロツホ」Svislach 河ニ達ス其レヨリ更ニ同線ニ沿ヒテ「ヤロウカ」Yalowka 「ムークボラ」Mukopowo ノ附近ヲ通リテ南下シ「レスナブラ」Lesna-Prawa 河ニ至リ更ニ南西ニ走リ「ブレスト、リトウスク」「ブルーベ」Bielsko 鐵道線ヲ横リ「ウォルカ」Wolka—「ムエスツァトカ」Pieszatka—「ムツルブツエ」Stulbec 及「ウイールボル」Wiernobole ノ各村ノ東ニ沿ヒテ(アタ) Bug 河ニ會シ同線ヲ南ニ下リテ問題トナヘル (ヨールカ) Kholm ヲ波蘭ニ入レ同市ノ東「ブグ」河ト「ネレトワ」Neretwa 河トノ會合點ニテ終ル

右國境線ハ人種的區分ニ重ヲ置キシモノニ付査定ノ際ト大體ニ於テ同様ノ原則ニ基キテ定メタルモノナルカ三月十九日ノ聯合國最高會議ニ於テ東「ガリシャ」地方ニ於ケル「ウクライナ」人ト(脱)「ボー」(脱)ニ非レハ同地方ニ關スル兩國民ノ要求ヲ聽取ラサルコトニ決シタルヲ以テ波蘭委員會ニ於テモ東「ガリシャ」問題ニ手ヲ着ケス右ノ如ク差當リ單ニ「コルム」地方迄査定(脱)次第也

## 國際聯盟委員會

### ○國際聯盟委員會

一、日 時 四月十日

一、内 容 起草委員ノ手ヲ離レタル聯盟規約案討議

起草委員ニ回附セラレシ國際聯盟案最近其ノ手ヲ離ルルニ至リシヲ以テ四月十日(火)四國ノ聯盟委員總會ヲ「ホタル、クリヨン」ニ開キ「ブレアンブル」(前文)ヲ除キ第十條マデ可決セリ(後掲文參照)但シ

(一) 前文ノ討議延期

「ブレアンブル」ノ討議ハ各條ノ討議ヲ終ル迄延期セラレタリ右ハ人種差別待遇問題ニ關スル我方ト英國側トノ打合未了ナリシ事情間接ノ原因ヲ成スモノナリ

(1) 軍備制限案各國採否ノ件

第八條第四項 After these plans shall have been adopted by the several governments (各國政府ニ於テ此等ノ方案ヲ採用シタル以上ハ)ノ文句ニ付「セシル」卿ハ佛國委員ノ答ニ對シ實行委員會ノ作成スル案ハ諸國政府ニ於テ之ヲ採用スル時始メテ實施セラルヘキモノナリトノ趣旨ヲ述ヘ之ニ對シ佛國委員ハ採用セサル國アラハ如何ナル結果ト成ルヘキヤトテ頗ル疑悞ノ念ヲ表示セルモ「セシル」卿ハ各國ハ採否ノ自由アリト明答セリ

(ii) 「モンロウ」主義承認

○「ウヰルソン」大統領ハ聯盟案第十條

Nothing in this Covenant shall be deemed to affect the validity of international engagements such as treaties of

arbitration or regional understanding like Monroe Doctrine for securing the maintenance of peace (本規約ノ規定ハ平和維持ノ確保ヲ目的トスル仲裁裁判條約ノ如キ國際協約若ハ「モンロウ」主義ノ如キ地方的協定ノ國際協約ノ效力ニ影響ヲ及スモノニアラス)ナル一項ヲ附加セムコトヲ提議シタルカ右ニ對シ佛國委員ハ右ノ如キ條項ヲ插入スルトキハ「モンロウ」主義ノ結果歐洲ニ於テ發生スル事件ニ付米國ノ來援ヲ期待シ得ヘカラサルコトト成ルヘシトテ强硬ニ反対シタリ

○「ウヰルソン」大統領ハ之ニ對シ「モンロウ」主義ハ聯盟規約ノ命スル義務ノ履行ヲ妨クルモノニアラス又米國カ規約ニ調印シ乍ラ「モンロウ」主義ヲ口實トシテ規約ノ命スル義務ヲ免レムトスルカ如キハ想像シ得ヘカラスト辯明シ

○「セシル」卿「オルランド」等ハ現ニ「モンロウ」主義ノ現存セルニ係ラス米國ハ歐洲ニ來援シタルニ非スマトノ趣旨ヲ述ヘテ大統領ノ所言ヲ裏書シタルカ

○佛國委員ハ若シ右ノ如キ條項ヲ插入セハ米國カ歐洲ニ來援セムト欲スルトキハ妨ナキモ來援ノ意思ナキ場合ハ此條項ニ依テ來ラサルコトヲ得ヘシト述ヘ其ノ主張ヲ固持シタリ

○最後ニ右米國案ヲ第二十條ニ插入スル方然ルヘシトノ議出テ此點ハ更ニ講究スルコトトナレリ

○備考  
右討議中注意スヘキハ該條項ノ插入ニ反対セルハ米國カ單ニ來援セサルヘシトノ懸念ニ基クモノニシテ討議ハ總テ其點ニ限ラレ亞米利加大陸ニ對スル他國ノ干與ヲ排斥スルノ點ハ全ク問題トナラサリシコト之ナリ

尙十一日夜引續キ會合ノ筈

## ○國際聯盟委員會（最終ノ會合）

一、日 時 四月十一日

一、内 容 起草委員ノ手ヲ離レタル聯盟規約案討議了（承前）  
尙前文（「ブレアムブル」討議ノ際人種問題ニ關シ帝國委員ノ爲シタル提議ニ付テハ別揭同問題記事參照スヘシ

## ○國際聯盟委員會ノ經過餘報

（四月十五日巴里發電）

一、聯盟規約修正ニ關スル既掲以外ノ重要事項

(一) 一定期間戰備禁止ノ件削除

○三月二十四日ノ委員會（同日及二十六日ノ記事中（二）参照）ニ於テ爲シタル帝國委員ノ提案（第十二條第一項ノ增補）ハ其ノ後起草委員ニ於テ考究ノ結果

(a) 停止（モラトリアム）ノ期間戰備ヲ禁スルハ其ノ以前ニ於テ秘密ニ準備ヲ爲スコトヲ獎勵スルコトトナリ結局侵略の下心アル國（Intending aggressor）ヲ利シ害心ナキ國（Innocent party）ヲ害スルコトトナル

(b) 戰爭ニ對スル直接準備ト繼續的準備ヲ區別スルヲ得サル爲メ「モラトリアム」ノ期間ニ於テ自衛上最小限度ノ準備ヲ爲シタル國民ニ對シ聯盟規約違反ノ口實ノ下ニ之ヲ攻擊スルヲ得セシムルコトトナル

(c) 規約第八條ハ一度各國政府ニ採用セラレタル軍備制限ハ理事會（カウンシル）ノ同意無クシテ變更シ得サルノ規定アリテ而モ本條ハ「モラトリアム」ノ期間ヲモ包含スルヲ以テ別ニ特記スルノ必要ナシ  
トノ理由ニ依リ本項ノ削除ニ付再考ヲ提議シタリ

○之ニ對シ牧野全權及「オルランド」氏等ヨリ日本提案ノ方戰爭ヲ防止セムトスル聯盟ノ根本觀念ニ合致スト論シタルモ  
○英國委員ハ各國カ第八條所定ノ兵額ヲ超エサル範圍ニ於テ軍備ヲ整フル爲メ「モラトリアム」ヲ利用シ得ルノ自信ハ各國ヲシテ平素右所定以下ニ其ノ兵額ヲ縮少セシムルノ好和的習慣ヲ獎勵スル所以ナリト說キ兵備縮少ノ見地ヨリ飽迄

## 本案ノ削除ヲ主張シ

三〇

- 多數英國委員ノ說ニ傾キタルヲ以テ「ウヰルソン」大統領ハ本邦委員ニ對シ其ノ主張ヲ固執セラムコトヲ請ヒ
- 牧野全權ハ之ニ對シ反對論者ノ云フ所ハ根據ナシト認ムルモ此際強ヒテ其ノ提案ヲ固持スルコトハ之ヲ避クヘシト述ヘ結局一度採用セラレシ本項ハ之ヲ削除スルコトトナレリ

### (二) 新草案第十五條第八項

新草案第十五條第八項（即「If the Council fails」譯文「理事會ニ於テ」以下）ハ起草委員會ヨリ本項ハ國家カ侵略ノ犠牲タリト信スル一方ノ爲メニ干戈ヲ執リテ起チ得ルノ權利ヲ認メタルモノナリトノ理由ニ依リ插入方ヲ提議シ採用セラレタルモノナリ

### (三) 新草案第二十條

新草案第二十條中ノ or understandings (若ハ協定) ノ二字ハ支那委員ノ提議ニ依リ插入スルコト・ナレリ

### (四) 新草案第二十六條

新草案第二十六條 no such amendment以下（譯文「該修正ハ」以下）ハ伯刺西爾委員ヨリ同國憲法ニ依レハ自國ノ批准セサル條約ハ效力ヲ生セサルコトヲ注意シ葡萄牙國委員ヨリモ同様ノ事情ヲ述ヘタル結果插入セラル、コト・ナリタルモノナリ

### (五) 案文確定

次ニ掲クル國際聯盟修正案文ハ委員會ノ關スル限り確定シタルヲ以テ右討議ノ基礎トナレル英文案ニ基キ佛譯文ヲ調製スルコト・ナレルカ右等準備整ヒ次第總會議ニ附スルコト・ナルヘシ

## ○國際聯盟規約

（四月十一日國際聯盟委員會最終決議）

締盟國ハ戰爭ニ訴ヘサルノ義務ヲ承認シ各國民間ニ公然正當且名譽アル關係ヲ定メ國際法ヲ以テ各國政府間ニ於ケル行動ノ實際的準則トスヘキ了解ヲ確立シ組織アル人民相互間ノ交渉ニ於テ正義並ニ總テノ條約上ノ義務ニ對スル絕對尊重ノ念ヲ維持シ以テ國際協調ノ進歩ヲ計リ併セテ國際間ノ平和及安寧ヲ確立セムカ爲茲ニ本國際聯盟規約ニ同意ヲ表ス

### 第一條

本規約附屬書列記ノ記名者並附屬書ニ掲ケラレ留保ヲナサヌシテ本規約ニ加盟シタルモノヲ以テ固有ノ聯盟員トナス該加盟ハ本規約ノ效力發生後二箇月以内ニ書記局ニ寄託セラレタル宣言書ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノトス  
右ノ事實ハ他ノ聯盟員全部ニ通牒セラルヘキモノトス附屬書中ニ掲ケラレナル國家、屬領地若ハ殖民地ニシテ完全ナル自治ヲ有スルモノハ總會三分ノ二ノ同意ニ依リ加盟ヲ許サレタルトキハ聯盟員タルコトヲ得但シ國際上ノ責務ヲ遵守スルノ誠實ナル意圖アルコトニ付有效ナル保證ヲ與ヘ且陸海軍ノ兵力及軍備ニ關シ聯盟ノ指定スル準則ヲ容諾スルコトヲ要ス

聯盟各員ハ脫退ノ意思通告後二箇年ニシテ聯盟ヲ脫退スルコトヲ得但シ脫退員ノ國際上及本規約ニ基ツク總テノ責務ハ脫退ノ當時ニ於テ完成セラレアルコトヲ要ス

### 第二條

本規約ニ基ク聯盟ノ行動ハ聯盟總會、聯盟理事會及常設書記局ニ依リ行ハルルモノトス

### 第三條

總會ハ聯盟各員ノ代表者ヲ以テ組織ス

總會ハ定期及必要ニ應シ隨時聯盟本部又ハ他ノ所定場所ニ會議ヲ開クモノトス

總會ハ其會議ニ於テ聯盟ノ行動範圍内ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル事項ヲ處理スル權能ヲ有ス

聯盟各員ハ總會議ニ於テ一票ヲ有シ且三名ヲ超エサル代表者ヲ出スコトヲ得

#### 第四條

理事會ハ亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西、伊太利及日本代表者並聯盟員タル他四國ノ代表者ヲ以テ組織ス

右四國ハ總會ニ於テ其適當ト認ムル所ニ從ヒ時々之ヲ選擇スルモノトス總會ニ於テ右四國代表者ヲ選定スルマテハ……

三ノ代表者ヲ以テ理事會員トス

理事會ハ總會ノ同意ヲ得テ恒久的ニ理事會ニ代表者ヲ出スヘキ國ヲ追加指定スルコトヲ得

理事會ハ亦總會ノ同意ヲ得テ總會ノ選擇ニ依リ理事會ニ代表者ヲ出スヘキ國ノ數ヲ増加スルコトヲ得

理事會ハ隨時必要ニ應シ又少クトモ毎年一回聯盟本部又ハ他ノ所定場所ニ會議ヲ開クモノトス

理事會ハ其會議ニ於テ聯盟ノ行動範圍内ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ處理スル權能ヲ有ス

理事會ニ代表者ヲ出サル聯盟員ハ特ニ自己ノ利益ニ關係アル事項ノ番理中理事會ノ如何ナル會議ニモ理事會員トシテ

列席シ得ル代表者ノ派遣ヲ招請セラルヘシ

理事會ニ代表者ヲ出セル各國ハ一票ヲ有シ且一名ヲ超エサル代表者ヲ出スコトヲ得

#### 第五條

總會及理事會ノ會議ニ於ケル決定ハ共ニ會議ニ代表セラレタル總テノ國ノ同意ヲ要ス但シ此ノ規約中ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ非ス

特定事項ノ調査ヲ目的トスル委員ノ任命ヲ含ム總會若ハ理事會會議ノ手續ニ關スル一切ノ事項ハ總會若ハ理事會之ヲ定ムヘク而シテ會議ニ代表セラレタル國ノ多數決ニ依リ之ヲ決スルコトヲ得

#### 第六條

總會及理事會ノ第一回會議ハ北米合衆國大統領ニ依リ招集セラルヘシ

#### 第七條

常設書記局ハ聯盟ノ本部ニ設置セラルヘシ

常設書記局ハ聯盟ノ本部ニ設置セラルヘシ

第一回ノ書記官長ハ附屬別表中ニ指名セラレタル者タルヘク以後ノ書記官長ハ理事會之ヲ任命シ總會ノ承認ヲ得ヘシ

常設書記局ノ書記官及屬員ハ書記官長之ヲ任命シ理事會ノ承認ヲ得ヘシ

書記官長ハ總會及理事會ノ總チノ會議ニ於テ其職權ヲ行フヘキモノトス

書記局ノ費用ハ萬國郵便聯合總理局ノ費用配分率ニ從ヒ聯盟員ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

#### 第八條

聯盟ノ本部ハ之ヲ「シエネヴァ」ニ設ク理事會ハ何時ニテモ聯盟本部ヲ他ノ場所ニ設立スルコトヲ定ムルヲ得

書記官ヲ含ム聯盟役員ノ地位若ハ聯盟ニ關聯スル役員タル一切ノ地位ハ男女等シク之ニ就クコトヲ得ヘシ

聯盟員ノ代表者及聯盟ノ役員ハ聯盟ノ事務ニ從事中外交官タルノ特權及免除ヲ享ク

聯盟若ハ其ノ役員若ハ其ノ諸會議ニ出席中ノ代表者ノ占有スル財產ハ不可侵タルヘシ

聯盟員ハ平和維持ノ爲ニハ自國ノ軍備ヲ其國家的安全並共同行動ニ依ル國際的義務履行ニ差支ナキ最低限度迄削減スルコトヲ必要ナリト認ム

理事會ハ各國ノ地理的地位及諸狀況ヲ參酌シタル上軍備削減ニ關スル方案ヲ作成シ之ヲ各國政府ノ考慮並實行ニ供スルシ  
此等方案ハ少クトモ各十年毎ニ再考及修正ヲ經ヘキモノトス

各國政府ニシテ此等方案ヲ採用シタル以上理事會ノ同意ナクシテ此等方案中ニ定メタル軍備ノ制限ヲ躊躇ユヘカラサルモノトス

聯盟員ハ民業ニ依ル軍需品ノ武器ノ製造カ極メテ反對スヘキモノナルヲ認ム執行委員會ハ如何ニセハ右製造ニ伴フ弊害ヲ防遏シ得ヘキカニ付献策スヘシ但シ自國ノ安全ニ必要ナル軍需品及武器ヲ自ラ製造シ得サル諸國ノ必要ニ對シテハ充分ノ考量ヲ加フヘシ

聯盟員ハ其ノ軍備ノ程度其ノ陸海軍計畫及軍事上ノ目的ニ適應セシメ得ヘキ其ノ諸工業ノ狀況ニ關シ充分ニシテ隔意ナキ情報ノ交換ヲ爲スヘキコトヲ期ス

### 第九條

第一條並第八條ノ規定ノ實施及一般ニ陸海軍ニ關スル問題ニ付理事會ニ付献策セシムル爲常設委員會ヲ設置スヘシ

### 第十條

聯盟員ハ總テ聯盟員ノ現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且ヘンコトヲ期スカル侵犯ノ威嚇若ハ危險アル場合ニ於テハ理事會ハ此義務ヲ遂行スルノ手段ニ付献策ヲ爲スヘシ

### 第十一條

戰爭若ハ戰爭ノ威嚇アル場合ニ於テハ直接聯盟員ニ影響アルト否トヲ問ハス總テ聯盟全部ニ關係アル事項タルコトヲ茲ニ宣言ス而シテ聯盟ハ萬國ノ平和ヲ確保セハカ爲賢明ニシテ有效ナリト認マラルヘキ行動ヲ執ルヘキモノトス  
國際關係ニ影響スル事態ニシテ國際的平和若ハ平和ノ基礎タル萬國間ノ良好ナル諒解ヲ攬亂セムトスル虞アルモノアルトキハ其ノ如何ナル場合タルヲ問ハス總テ之ニ就キ總會又ハ理事會ノ注意ヲ喚起スルハ聯盟各員ノ友誼的權利ナルコトヲ茲ニ併セテ宣言ス

### 第十二條

聯盟各員ハ其ノ相互間ニ紛争發生シ不調ニ歸セムトスル場合ニハ當該事件ヲ仲裁裁判若ハ理事會ノ審議ニ附スヘキコトヲ約シ尙仲裁裁判官ノ判決若ハ理事會ノ報告アリタル後三箇月ヲ經過スルニアラナレハ如何ナル場合ニ於テモ戰爭ニ訴ヘサルヘキコトヲ約ス

如何ナル場合ニ於テモ本條ニ依ル仲裁裁判官ノ判決ハ紛争附議後相當ノ期間内ニ又理事會ノ報告ハ同シク六箇月以内ニ爲スヘキモノトス

### 第十三條

聯盟各員ハ其ノ相互間ニ發生スルコトアルヘキ紛争ニシテ仲裁裁判ニ附スルヲ適當ト認メ且外交上ノ手段ニ依リ圓滿ニ解決スルコト能ハサルモノアル場合ニハ全事件ヲ仲裁裁判ニ附スヘキコトヲ約ス

條約ノ解釋若ハ國際的義務違反ヲ構成スヘキ事實又ハ斯カル違反ニ對スル補償ノ範圍並性質ニ關スル如キ紛争ハ一般ニ仲裁裁判ニ附議スルヲ適當トスヘキ事項ナルヲ宣言ス  
斯カル紛争ノ審理ノ爲ニ事件ヲ附議スヘキ仲裁裁判所ハ當事國ノ合意ニ依ルカ若ハ當事國相互間ニ現存スル何レカノ協約ニ規定セラレタル仲裁裁判所タルヘシ

聯盟各員ハ裁判所ノ下スコトアリ得ヘキ如何ナル判決モ誠心誠意之ヲ履行シ其ノ判決ニ服セル聯盟員ニ對シ戰爭ニ訴ヘサルヘキコトヲ約ス判決ヲ履行セサルモノアル場合ニハ理事會ハ該判決ヲ執行スル爲執ルヘキ措置ニ付提議スヘシ

### 第十四條

理事會ハ常設國際司法裁判所設置案ヲ作成シ之ヲ聯盟各員ニ提出シテ其ノ採用ヲ求ムヘシ

裁判所ハ紛争當事者カ之ニ附議スル一切ノ國際的紛争ヲ審理判定スルノ權限ヲ有ス

### 第十五條

聯盟各員ハ聯盟員間ニ國交斷絶ヲ來ス虞アル紛争發生セル場合ニ於テ該紛争ヲ前條ノ仲裁裁判ニ附セサルトキハ之ヲ理事會ニ附議スヘキコトヲ協定ス  
紛争各當事者ハ當該紛争ヲ委員會ニ附議スル爲之ヲ書記長ニ通告スルコトヲ得書記長ハ之カ充分ナル審査講究ニ必要ナル一切ノ準備ヲナス

此ノ目的ノ爲メ紛争當事者ハ出來得ル丈速ニ一切ノ關係事實及關係書類ヲ具シ當該事件ニ關スル陳述書ヲ書記長ニ提出スヘシ理事會ハ直ニ之カ公表ヲ命スルコトヲ得

理事會ハ紛争ノ處理ニ努メ其ノ努力效ヲ奏シタルトキハ當該紛争ニ關シ適當ト認ムル説明及解決條件ヲ具シ該事件ノ事實ニ關スル陳述書ヲ公表スヘシ

紛争事件ニシテ前記方法ニ依リ解決セラレサルトキハ理事會ハ全會一致又ハ多數決ヲ以テ紛争事實ノ陳述並該紛争ニ關シ公正妥當ト思料セラル、勸告ヲ記述セル報告ヲ作成之ヲ公表スヘシ

理事會ニ代表セラル、國家ハ何レモ紛争事實並之ニ關スル自己ノ斷案ニ付陳述書ヲ公表スルコトヲ得

理事會ノ報告カ紛争當事國中ノ一若ハ數國ノ代表者ヲ除ク理事會員ニ依リ全會一致ヲ以テ可決セラレタルトキハ聯盟各員ハ該報告ノ勸告ヲ應諾スル他ノ紛争當事國ニ對シ開戰セサルヘキコトヲ約ス

理事會ニ於テ紛争當事國中ノ一若ハ數國ノ代表者ヲ除ク理事會員ニ依リ全會一致ヲ以テ可決セラレタル報告ヲ得ルニ至ラサルトキハ聯盟各員ハ權利ト正義ヲ維持スルニ必要ト認ムル措置ヲ取ルヲ權利ヲ留保ス

紛争當事國ノ何レカ一方ニ於テ該紛争カ國際法上軍ニ同國ノ内政事項ニ起因スルモノナルコトヲ主張シ理事會之ヲ認メタルトキハ理事會ハ其ノ旨ヲ報告シ該紛争ノ解決ニ關シ何等ノ勸告ヲ爲サナルヘシ

理事會ハ本條規定ノ何レノ場合ニ於テモ爭議ヲ總會ニ附託スルコトヲ得紛争當事國ノ何レカ一方ヨリ要求アルトキ亦之ヲ附託スヘシ但右要求ハ紛争ヲ理事會ニ附議シタル後十四日以内ニ爲サル、コトヲ要ス

## 第十六條

何レノ聯盟員ト雖第十二條第十三條若ハ第十五條ノ規約ヲ無視シ戰爭ニ訴ヘタルトキハ其ノ事實ノミニ據リ他ノ聯盟員全部ニ對シ戰爭行爲ヲ行ヘルモノト看做サルヘク右ニ基キ他ノ聯盟各員ハ違反國ニ對シ直ニ一切ノ貿易若ハ金融上ノ關係ヲ斷チ自國民並他ノ何レノ國民ト規約違反國ノ國民トノ間ノ一切ノ交通ヲ禁止シ且規約違反國ノ國民ト他ノ何レノ國民（聯盟員タルト否トヲ問ハス）トノ間ノ一切ノ金融通商若ハ個人的交通ヲ禁遏スヘシ

右ノ場合ニ於テ理事會ハ聯盟各員ノ有スル實效アル陸軍力若ハ海軍力ノ如何ナルモノカ聯盟規約保護ノ爲使用セラルヘキ武力ニ對シ各別ニ貢獻シ得ヘキカニ付關係諸政府ニ對シ勸告スル義務アルモノトス

尙聯盟各員ハ本條ノ規定ニ基キ執ラルヘキ財政並經濟的措置ノ爲メ生スヘキ損失及不便ヲ最少限度ニ止ムルカ爲該措置ニ關シ聯盟員相互間ニ支援ヲ與フヘキコト及規約違反國ニ於テ聯盟ノ一員ニ對シ執リタル特殊ノ措置ニ對抗セムカ爲聯盟員相互間ニ支援ヲ與フヘキコト並聯盟規約保護ノ爲協同セル何レノ聯盟員ノ兵力ニ對シテモ自國領域通過ノ便宜ヲ供與スルニ必要ナル手段ヲ執ルヘキコトヲ約ス

聯盟員ニシテ聯盟規約ニ違反シタルモノハ理事會ニ於テ代表者ヲ出セル聯盟員全部（違反國ヲ除ク）ノ代表者ノ一致ノ投票ニ依リ將來聯盟員ヨリ除斥スヘキ旨宣言セラル、コトアルヘシ

## 第十七條

聯盟員ト非聯盟國トノ間若クハ非聯盟國相互間ニ於テ紛爭務生シタル場合ニハ當該非聯盟國ニ對シ理事會ノ正當ト認ム

ル條件ヲ以テ當該紛争處理ノ爲聯盟員ノ義務ヲ負擔セムコトヲ懲懲スヘシ當該非聯盟國ニシテ之ヲ受諾シタルトキハ理事會ノ必要ト認ムル變更ヲ加ヘテ第十二條乃至第十六條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ懲懲ヲ爲シタルトキハ理事會ハ直ニ紛爭事情ノ審査ニ着手シ當該事情ノ下ニ於テ最良ニシテ且ツ最モ有效ナリト認ムル行動ヲ勸告スヘシ

本條ノ懲懲ヲ受ケタル非聯盟國ニシテ當該紛争處理ノ爲聯盟員ノ義務ヲ負擔スルコトヲ拒ミ聯盟員ニ對シテ戰爭ヲ開始シタル場合ニハ斯ル行動ヲ執リタル國家ニ對シ第十六條ノ規定ヲ適用ス

當事國ノ雙方カ本條ノ懲懲ヲ受ケ當該紛争處理ノ爲聯盟員ノ義務ヲ負擔スルコトヲ拒ミタルトキハ理事會ハ戰鬪行爲ヲ防止シ紛争ヲ解決スルニ至ルヘキ手段ヲ講シ勸告ヲナスコトヲ得

#### 第十八條

聯盟各國カ將來締結スヘキ一切ノ條約又ハ國際協定ハ遲滯ナク之ヲ書記局ニ登錄シ出來得ル限り速ニ之ヲ書記局ヨリ公表スヘキモノトス一切ノ條約又ハ國際的協定ハ其ノ登錄ヲ經ルニ非スンハ拘束力ヲ生セサルモノトス

#### 第十九條

總會ハ聯盟員ニ對シ適用不能トナレル條約ニ付テ再考ヲ促シ又其ノ存續カ世界ノ平和ニ危険ヲ及ホス虞アル國際的事態ニ付テ考慮セムコトヲ促スコトヲ得

#### 第二十條

聯盟員ハ其ノ相互間ノ義務又ハ協定ニシテ聯盟規約ノ條項ニ抵觸スルモノハ總テ廢棄セラルムノトシテ本規約ヲ承認シタルコトヲ各自ニ承認ス

聯盟員ニシテ加盟以前ニ本規約ノ條項ニ抵觸スル何等ノ義務ヲ負擔シ居ル場合ニハ該聯盟員ハ直ニ斯カル義務ヲ解除スル爲メ措置ヲ執ルヘキモノトス

#### 第二十一條

本規約ハ平和維持ノ確保ヲ目的トスル仲裁裁判條約ノ如キ國際協約若ハ「モンロー」主義ノ如キ協定ノ效力ニ何等影響ヲ及ボスモノニアラス

#### 第二十二條

殖民地及屬領地中此次ノ戰爭ニヨリ從來之等ヲ支配シタル國家ノ統治ヲ離レ且其ノ住民カ近代世界ノ競爭激甚ナル狀況ノ下ニ於テハ尙未タ自立シ得サル地方ニ對シテハ此等住民ノ幸福及發達ヲ計ルハ文明ノ神聖ナル責務ナルコト並該責務遂行ニ關スル保障ハ之ヲ聯盟ノ規約中ニ包含セシメサル可ラサルコトノ原則ヲ適用スヘシ  
該原則ニ實效ヲ與フル最良ノ方法ハ斯カル人民ニ對スル後見ノ任務ヲ其ノ實力經驗又ハ地理的位置上最モ善ク該責任ヲ引取クルコトヲ得且之ヲ引受クルコトヲ甘諾スル先進國ニ依託シ此等先進國ハ聯盟ニ代リ受任國トシテ右後見ノ任務ヲ遂行スヘキコトナスニアリ

委任統治ノ性質ハ人民發達ノ程度其ノ領土ノ地理的位置其ノ經濟狀態其ノ他類似ノ事情ニ應シテ自ラ差異ナカル可ラス

從來土耳其帝國ニ屬シタル或ル團體ハ其ノ獨立國民トシテノ存在ニ對シ假承認ヲ受ケ得ル程度ノ發展ヲ爲セリ但シ此等團體ハ其ノ自立シ得ル時期ニ達スル迄ハ受任國ニ依リ與ヘラル行政上ノ策並幫助ニ服スヘキモノトス  
此等團體ニ對スル受任統治國ノ選定ニ就キテハ主トシテ該團體ノ希望ヲ考慮セサル可ラス

他ノ人民特ニ中央阿弗利加ノ人民ハ受任國ニ於テ其ノ地域ノ行政ニ付責任ヲ負ハサル可カラサル程度ニアリ尤モ受任國ハ施政上良心又ハ宗教ノ自由（公ノ秩序及道德ノ維持ノ爲ニスル制限ハ此限ニアラス）奴隸賣買武器及火酒類ノ取引ノ如キ惡弊ノ防遏並要塞或ハ陸海軍根據地ノ建設警察ノ目的及其ノ地域防衛以外ノ爲ニスル土民ノ軍事的教練ノ禁止ヲ保

障スヘキ條件ニ服シ又他ノ聯盟員ノ通商貿易ニ對シ均等ノ機會ヲ確保スルコト必要ナリ

又西南阿弗利加及或ル南太平洋島嶼ノ如キ地域ハ人口稀薄又ハ面積狭小ナルカ爲或ハ文明ノ中心ヲ距ルコト遠キカ爲若ハ受任統治國ノ領域ニ地理的ニ接近セルカ爲及其ノ他ノ事情ニ由リ受任國ニ於テ自己ノ領域ノ構成部分トシテ自國法律ノ下ニ統治スルヲ以テ最善トス但シ受任國ハ土着人民ノ利益ノ爲前項規定ノ保障ヲ與フルコト必要ナリ

委任統治ノ各場合ニ於テ受任國ハ理事會ニ對シ其ノ擔當地域ニ關スル年報ヲ提出スヘシ受任國ノ行使スル權力監督又ハ行政ノ程度ニシテ聯盟員ニ依リ豫メ協定セラレタルモノナキトキハ理事會ハ各場合ニ付明確ニ之ヲ定ムヘシ

諮詢受任國ノ年報ヲ受理検閱シ且委任條件ノ遵守ニ關スル諸事項ニ付理事會ニ獻策セシム目的ヲ以テ常設委員會ヲ設置スヘシ

### 第二十三條

聯盟各員ハ現ニ存シ又ハ將來約定セラルルコトアルヘキ國際規約ニ遵由シ

イ、自國內並工商業關係ニ付條約ヲ締結セル總テノ國家内ニ於テ男女並幼年者ノ爲ニ安善ニシテ人道的ナル勞働條件ヲ確保スルニ努メ此目的ノ爲ニ國際的機關ヲ設置(?)シ且維持スヘシ

ロ、其ノ管理下ニ在ル地域ノ土着住民ニ對スル公正ナル待遇ヲ確保スヘシ

ハ、(不明)取引及阿片其ノ他危險ナル藥品取引ニ關スル條約ノ實行ニ對スル一般的監督ヲ聯盟ニ委託スヘシ

ニ、共同利益上兵器及彈藥取引ノ監視ヲ必要トスル諸國トノ間ニ於ケル該品ノ貿易ニ對スル一般的監督ヲ聯盟ニ委託スヘシ

ホ、通信(?)及通過ノ自由並全聯盟員ノ商業ノ爲ニスル公正ナル待遇ヲ確保維持スルカ爲メ必要ナル施設ヲ爲スヘシ  
此點ニ關シ千九百十四年乃至千九百十八年戰役ノ間に於テ荒廢ニ歸シタル地方ノ特別ナル需要ハ之ヲ留意セサルヘカラス

ラス

### 二十四條

ヘ、疾病ノ豫防及監視ノ爲國際的關係アル事項ニ付必要ナル措置ヲ執ルニ努ムヘシ

### 第二十四條

一般條約ニ基キ既ニ設立セラレタル總テノ國際機關ハ當該條約當事國ニ於テ承諾シタル場合ニハ聯盟ノ管理下ニ置カルモノノトス

國際的利益ニ關スル事項制定ノ爲メ今後設ケラルヘキ國際機關並委員會ハ總テ聯盟ノ管理下ニ置カルルモノトス

國際的利益ニ關スル總テノ事項ニシテ一般條約ニ依リ規定セラレ然カモ國際的機關若ハ委員會ノ監督下ニ置カレサルモノニ付テハ聯盟事務局ニ於テ理事會ノ同意及必要ノ場合ニハ當事者ノ同意ニ基キ一切ノ關係情報ヲ蒐集シ且ツ之レヲ頒布シ其ノ他必要ナル若ハ希望セラルル其ノ他ノ援助ヲ與フヘシ

理事會ハ聯盟ノ管理ノ下ニ置カルル其ノ他ノ機關若ハ委員會ノ費用ヲ以テ事務局ノ費用ノ一部分トシテ之レニ包含セシムルコトヲ得

### 第二十五條

聯盟員ハ全世界ニ亘ル保健制度及苦惱者ノ苦痛輕減方法ヲ改良スルヲ以テ目的トスル正當權限アル國內的赤十字機關ノ創設ヲ勸奨シ且ツ促進スルコトニ同意ス

### 第二十六條

本規約ノ修正ハ其ノ代表者ヲ以テ理事會ヲ構成スル列國及其ノ代表者ヲ以テ總會ヲ構成スル列國ノ多數決ニ依リ批准セラレタルトキニ限り效力ヲ生ス該修正ハ之レニ對シ不同意ヲ表示シタル聯盟員ヲ拘束スルモノニアラス但シ如斯キ場合ニ於テハ該聯盟員ハ其ノ資格ヲ停止セラルルモノトス

## ○人種的差別撤廢交渉其後の經過

◎英國側トノ其ノ後ノ内交渉（四月十五日着電ニ依ル）

「スマツツ」海軍ハ急遽洪牙利方面ニ出張スルコトトナリタルヲ以テ牧野珍田兩委員ハ四月三日英國首相ヲ往訪シ本問題從來ノ曲折ヲ詳説シタル上「ヒューズ」氏ヲ勧誘シテ刻下ノ行憲ヲ開疏スル様其ノ盡力ヲ乞ヒタルニ同首相ニ於テモ我カ主張ニ對シ贊成ノ意ヲ表シ加奈陀及南阿兩首相ト協議ヲ重ネタル上十分盡力相試ムヘキ旨ヲ約諾シタリ爾來本委員等ニ於テモ亦直接ニ右兩首相並ニ已ニ歸佛ノ「スマツツ」氏等ト會商數回ニ及ヒタルモ彼等ノ盡力モ「ヒューズ」ヲ動カスニ至ラス一面牧野委員ハ倫敦「タイムズ」主筆「スチード」氏ヲ説キ「タイムズ」ノ勢力ヲ利用シテ「ヒューズ」氏ノ反省ヲ促サシムル等各般ノ手段ヲ盡シテ局面ノ展開ニ力メタルニ拘ハラス「ヒューズ」氏ノ周圍ニハ一團ノ強硬論者蟠踞シテ萬一日本ノ要求納レラルカ如キ場合ニ於テハ濱洲委員ハ斷然巴里ヲ撤退スヘシトノ決意ヲナスニ至リタルヤニ仄聞セリ現ニ四月十一日南阿首相「ボータ」將軍カ牧野委員ニ向ヒ「嚴ニ責我間ノ極端ナルカ」「ヒューズ」ハ狂人ナリト評スルノ外ナシ云々（"Strictly between ourselves, I think that he is mad."）ト述懐シタル處ヨリ察スルモ此間ノ消息ヲ知ルニ難カラス此ノ事情ニ顧ミ妥協ノ絶望ナルコトモ早ヤ疑フ納レサルト同時ニ一面聯盟委員會ノ議事若々進行シテ四月十一日ノ會合ヲ以テ規約全部ヲ議了スヘキ形勢ナルヲ以テ已ムヲ得ス愈々我カ提議ヲ提出スルコトニ決定スルニ至レリ尙不此ノ間本邦委員等ハ說得ノ爲メ今一應「ヒューズ」ニ面會ヲ求メタルモ病氣ノ故ヲ以テ辭シタリ然ルニ十一日ノ總會ニハ出席シ居リタルヲ見レハ多分避ケタルモノト認ム濱洲ニ於ケル本人ノ位地ハ近頃動搖シ内閣ノ維持困難ナル際日本ノ提議ニ同意スルトキハ遠カラサル總選舉ニ於テ反對黨ニ利用サルルコトヲ恨ル結果頑強ニ反對ヲ固執スル所以ナルコトハ各方面ノ聞込ミ一致スル處ニシテ英國政府モ濱洲ノ戰爭中ニ於ケル功績ニ顧ミ手控スル事情モアリ又「ヒューズ」ノ爲人大

局ヲ看ル政治家ニ非ス全ク勞働黨ノ首領ニ相應セル人物ニシテ此ノ人ヲ相手トシタルハ本件交渉上尠カラサル不便ヲ覺ヘタリ反之「スマツツ」「ボータ」（南阿）「ボーデン」（加奈陀）等ハ誠意ヲ以テ「ヒューズ」ヲ說得シ本件ヲ纏ムルコトニ勗メタルコトハ多トスル處ナリ

## ○國際聯盟委員會最終會合（四月十一日）ニ於ケル人種差別撤廢問題

（四月十五日着電）

### （一）牧野男ノ提案

國際聯盟規約前文ニ挿入スヘキ我案文ニ關シ英國側トノ内交渉ノ成行ハ前電所報ノ通リナルモ飽迄我主張ヲ宣明シ置ク爲メ四月十一日夜最終ノ國際聯盟委員會ニ於テ規約案各條ノ討議ヲ終リ前文ノ討議ニ戻ルヲ待テ

by the endorsement of the principle of equality of nations and just treatment of their nationals

（譯文）

各國民ノ平等及其ノ所屬各人ニ對スル公正待遇ノ主義ヲ是認シ

ノ案文ヲ提議シ先ツ牧野委員ヨリ左ノ通陳述シタリ、（原文末尾ニアリ）

「此ノ問題ニ關シテハ余ハ已ニ委員會ニ提出スルノ機會ヲ有シタルモ夫ハ他ノ形式ニ於テ又異ナレル意義ヲ以テセルモノナリ此ノ問題ハ人類ノ著シキ一部分殊ニ余カ代表スル國民ニ取リテハ甚々重要ニシテ又關係スル所大ナルノ理由ニ依リ余ハ再度之ヲ諸君ノ考慮ニ託スルヲ以テ余ノ義務ナリト思惟ス

余ノ所見ニ就テハ已ニ前回明ニスル所アリタルヲ以テ今次ノ機會ニ於テハ出來得ル限り之ヲ簡單ニセムトス此ノ聯盟ハ正義遂行暴力打破ノ世界ヲ構成セムコトヲ目的トシ最高ノ裁判所タラムコトヲ企圖ス聯盟ハ社會的改革ニ對シテ規定スル所アルト共ニ未タ進歩セサル人民ノ安寧ト利益トヲ顧慮シ其ノ統治ヲ受任國ニ託セムトシツツアリ過去ニ於ケ

ルヨリモ一層高キ道徳的標準ニ依リ國民及人民ノ共通ノ同意ニ依リ相互間ノ關係ヲ規律スルコト並世界ヲ通シテ一層正當ナル正義ヲ行ハムコトア計畫シツツアリ之等ノ思想ハ深ク一般人心ヲ感動セシタ五大陸ニ散在セル多種人民ノ有スル共通ナル感情ヲ旺盛ナラシメタリ聯盟ハ（不明）ヲ生シ各人民カ其ノ當然ト認ムル正當ナル要求ニ就テノ意識ヲ強カラシメタリ

最强キ人類感情ノ一ナル「國民」ニ關スルノ意識ハ國際的事件整理ニ際シテ正當ニ認メラレムトスルニ方リ新タニ惹起サレタリ被壓制的國民ノ不平ト密接關係ヲ有シテ人類ノ大ナル部分ニ取リ深キ憤恚ノ種トシテ尙依然トシテ存在スルモノニ人種的差別ノ非違アリ輕侮セラルトノ觀念ハ永ク或國民ノ不平ヲ釀生シタリ今以テ各人民及國民ニ對スル正義ノ原則ヲ以テ將來國際的關係ノ基礎ヲ宣言セルハ偶々之等人種ノ正當ナル此ノ熱望ヲ高ムルニ至リ今ヤ之等人種ハ此非違ノ撤廢ヲ要求スルヲ以テ其ノ正當ナル權利ナリト認ムルナリ

此ノ事業カ現在ノ狀態ニ達スルヲ得シハ實ニ世界人類ノ意見カ今次之ヲ提議スル諸政府ヲ援助シタルカ故ニシテ此ノ企圖ノ成功ヲ永ク保有スル爲ニハ屢變更ヲ免レサル諸國政府ノ援助又ハ行爲ヨリモ更ニ多ク關係諸人民カ前文中ニ明ニセル崇高ナル理想ノ準據及維持ニ俟ツ所アリト言フヘシ聯盟中ニ在ル各人民ハ將來此ノ事業ヲ爲シ遂クヘキ責務ヲ有ス而シテ之カ成功ヲ確實トナスカ爲ニハ各人民間ニ相互的信賴ノ密接ナル調和ノ存スルヲ必要トス

此ノ條件ヲ以テ必要不可分ナリトセハ余ハ今次世界ノ新組織ニ於ケル將來國際的關係ノ基礎トシテ「各國民ノ平等及其ノ所屬各人ニ對スル公正ナル待遇」ノ一原則ヲ確立セムコトハ正ニ純理ニ適合スルモノト思惟ス若シ今此ノ合理的ニシテ且ソ正當ナル要求ニシテ拒絶セラレムカ強ヲ利害ヲ有スル之等人民ヨリ觀レハ是レ自己ノ素質ト地位トニ對スル反影ナリト認ムルニ至ルヘク規約ノ精神タルヘキ公平ト正義トニ對スル彼等ノ信念ニ動搖ヲ免レサルヘシスカル心事ノ一度構成セラル、時ハ之等人民ヲシテ多種ノ條項ニ豫見セル有事ノ際ニ於ケル軍事上ノ寄與ヲ初トシテ諸種ノ責任ノ遂行ヲ喜ハシメサルニ至ルヤモ計リ難クスクリシテ或ハ最悲シムヘキ狀態ヲ創造スヘキノ恐ルヘキ危險ア

人類行動ノ原因ノ一ナレハナリ  
余ハ眞面目ニ述ヘムト欲ス政治的關係ノ特別ナル時期ニ於テ此ノ問題ノ斯ノ如キ危險ナル發展ノ現實的意義ヲ了解スルハ或ハ不可能ナルヘキモ實ニ余ハ獨リ此ノ問題ノ將來ノ結果如何ニ就キ多大ノ危惧ヲ抱クモノナリ

余カ提議スル前文中ノ修正ハ單ニ聯盟諸國家ノ人民間ニ於テ遵守スヘキ（殷）行動ヲ規定セムトスルニ他ナラス如何ナル國民ノ內事ヲモ侵害セムコトハ此ノ修正ノ企圖スル所ニ在ラス單ニ將來ノ國際的交通ニ於ケル一目的ヲ規定セムトスルモノナリ此ノ原則ヲ實行スルノ事業ハ正當ナル權力者ノ爭フ可カラサル權限ニ屬ス此ノ修正ハ吾人ノ意思ト全然一致スルモノニ非ルモ之レ多數人民ノ見解ヲ一致セムトスル企圖ニ出ツルモノニシテ之レ現時國際關係ノ多様ナル狀態及事實ノ十分ナル考案ノ結果ナリ

## （二）論 議

### イ、英「センル」卿反對

然ルニ「センル」卿ハ如斯文句ヲ挿入スルハ全ク無意義ナルカ如シ何等意味アリトセハ重大ナル反對アルヲ免カレス抑モ外國人ノ入國ニ關スル問題ハ全然内國問題ナリ各國民ノ平等主義ハ元ヨリ自分ノ贊成スル處ナルモ之ヲ規約中ニ挿入スルトキハ延イテ婦人問題（前日ノ會議ニ於テ女權運動者ノ希望ヲ聽取シタリ）ニ關スル規定等ヲモ挿入セサル可カラサルニ至ルヘク此種ノ問題ハ事態上國際聯盟確立後ノ活動ニ俟ツヘキモノナリ日本カ現ニ聯盟ニ於テ五大國ノ班ニ列スルノ事實ニ鑑ミ待遇ノ優劣ハ本聯盟ノ關スル限り問題トナラス云々ト述フ

ロ、之ニ對シ牧野珍田委員ニ於テ數次補足又ハ辯駁ヲ試ミタル末「ウヰルソン」氏ハ議場ニ向ヒ意見ノ陳述ヲ求メタルニ

伊國「オルランド」氏ハ日本ノ提案ハ吾人ノ向ハムトスル理想ヲ表明スルモノニシテ苟モ如斯提議ニ對シテハ何人モ之ニ同意ヲ表セサルヲ得サルヘシトテ賛意ヲ表シ

ニ、佛「ブルジオア」「ラルノルド」賛成

次テ佛國「ブルジオア」氏ハ全然「オルランド」氏ト同意意見ニシテ本件ノ主義ニ對シテハ反對スルノ餘地ナシト述へ同シク佛國「ラルノルド」氏モ日本ノ新提案ハ原則ヲ記述スルモノニシテ何等直チニ實行ヲ要求スルモノニアラスト從テ之ニ同意ヲ表スルニ何等困難アルコトナシト云ヒ

ホ、希「ベニゼロス」賛成

希臘「ベニゼロス」氏ハ自分カ義ニ宗教及人種ニ關スル提議ハ共ニ規約ヨリ取除クヲ適當トスヘシトノ意見ヲ表示シタル爲日本ノ最初ノ提案ハ不成立ニ終リタルモノニシテ右等日本ノ提案ニ對シテハ天下周知ノ困難アリタルモ今回ノ提議ハ全然趣ヲ異ニシ各國民平等ノ主義ヲ表明スルモノニシテ之ニ反對スルヲ得ス日本ハ聯盟ノ一員タルノミナラス大國ノ地位ヲ占ム而シテ牧野男ノ宣言ニ據ルモノ本提案ハ何等特殊ノ義務ヲ課スルモノニアラスト述ヘ

ヘ、支那委員賛成

支那委員モ亦我提案ニ賛成ノ由ヲ述ヘタリ

ト、波蘭「ドモウスキ」反對

波蘭「ドモウスキ」氏ハ本案ハ主義上反對セサルモ規約案文中何等規定ナキ事項ニ關シ前文ニ言句ヲ掲クルカ如キハ規約ノ構成上反對セサルヲ得ストノ反對意見ヲ述ヘタリ  
チ、牧野委員ハ前文ハ大體ノ精神ヲ掲ケタルモノニシテ各條項ノ規定ヲ豫見スルモノニ非スト反對シ  
リ、米「ウヰルソン」

最後ニ「ウヰルソン」大統領ハ本件ハ平靜ニ取扱フヘキ問題ニシテ總會議ニ於テ論議スルコトハ之ヲ避ケ度シト述ヘタリ

### (三) 採決

#### イ、贊否ノ數

茲ニ於テ牧野ヨリ本問題ニ關スル會議ノ意旨ヲ知ル爲贊否ヲ問バレ度キ旨ヲ述ヘ大統領ハ我提案賛成者ニ舉手ヲ求メタルニ議長(「ウヰルソン」)以外ノ出席者十六名中十一名之ニ應シタリ即チ佛國委員二名伊國委員二名希臘支那塞爾比葡萄牙「ナエック・スローヴアック」及我全權二名之ナリ賛成ヲ表セサリシハ英米波蘭伯刺西爾羅馬尼ノ各委員五名トス

ロ、全會一致ヲ要スルヤノ論議

茲ニ於テ大統領ハ本件提議ハ全會一致ヲ得サルニ依リ不成立ト認ムルノ他ナシト述ヘ牧野委員ハ之ニ對シ之迄會議ノ問題ニ就キテハ多數決ニ依リテ決定シタルコトアリト大統領ノ注意ヲ促シ又他委員ヨリ多數ニテ聯盟所在地ヲ「ジエネバ」ト決シタルニ非ラヌヤトノ陳述出テタルモ大統領ハ本件ノ如キ重要ナル事件ノ決定ニ就キテハ從來トモ全會一致(脱)尠クトモ反對者ナキコトヲ要スルノ趣旨ニ依リテ本委員會ノ議事ヲ取扱ヒ來レル旨ヲ説明セリ  
ハ、牧野男ノ留保並希望

最後ニ牧野委員ハ日本ハ其ノ主張ノ正當ナルヲ信スルカ故ニ機會アル毎ニ本問題ヲ提起セサルヲ得ス又本夕自分等ノ爲セル陳述及ヒ贊否ノ數ハ之ヲ議事錄ニ掲ケラレタシト述ヘ大統領ハ其ノ旨ヲ了承セリ

(四) 本件ニ對スル英米側ノ態度  
要スルニ當夜ハ一般ニ我主張ノ極メテ穩當ナルヲ認メ「セシル」卿ノ所述モ何等首肯スルニ足ルモノ無ク寧ロ一種板挾ノ境遇ニ立タル苦衷ヲ表白セルノ感ヲ抱カシメタリ又米國委員ニ於テハ英國側ノ同意ヲ得隨テ本件ノ爲メ激烈ナル

政論ヲ惹起セサルヘシトノ豫想ヲ以テ我提議賛成ノ一條件トシタルハ内交渉ノ曲折ニ照ラシ否ムヘカラサル事實ナリト雖既ニ一旦我主張ニ對シテ主義上ノ同意ヲ與ヘタル今日ニ於テ其ノ態度ヲ豹變スルノ苦境ハ之ヲ看取スルヲ得タリ「セシル」卿ノ如キモ裏面ニ於テハ殖民地側トノ妥協ヲ求ムル爲メ自ラ相當ノ盡力ヲ試ミタル事實ハ既報ノ通リニシテ要スルニ英米側ニアリテハ内心我立場ヲ諒トシナカラ各自其ノ國情ニ顧慮シ表面上反対ヲ表セサルヲ得サル極メテ困難ノ地位ニアリタルコトハ會ノ席上ニ於ケル大統領・「ハウス」大佐及ヒ「セシル」卿ノ態度ニ徵シテモ之ヲ看取スルヲ得タル處ニシテ此邊ノ事情ハ本件全體ノ成行キヲ判斷スルニ當リ留意スヘキ事情ト思考ス

## 損害補償委員會

### ○損害補償委員會第一分科會其ノ後ノ情況

#### (一) 四月一日開催スヘカリシ分科會一日延期

四月一日ニハ損害補償委員會第一分科會第二十七次會合アル筈ニテ最高幹部ノ回答如何ニ依リテ議論ハ續行セラルヘキコトヲ豫期シ同日委員ハ總員出席シ殊ニ佛國ヨリハ珍シクモ大臣格ノ委員出席シタル處議長ハ最高幹部ノ回答ヲ一時間前ニ受領シ本分科會ノ議事ハ二十四時間延期スヘシトノ旨ナリシヲ告ケテ散會セリ

#### (二) 會議不進行ニ關スル伊國「クレスビー」ノ談

同日委員ナラサル伊國「クレスビー」出席シ居リテ森委員ニ左ノ如ク語レリ

佛國政府カ損害計數ノ提出ヲ拒絶スル所以ハ其ノ計數ヲ如何ニ大ニスルモ公衆ヲ満足セシムルニ足ラス如何ニ小ニスルモ聯合國ノ承認ヲ得ル能ハス故ニ寧ロ獨逸トノ講和條約ニハ單ニ損害ノ種類及評價方法ノミヲ承認セシメ其ノ金額ハ實査ノ上確定スヘシト規定セシムルコト得策ナリトノ政治上ノ理由ニ基ク佛國藏相ノ議論カ内閣ニ勝ラ占メタル結果ナリ之ニ對シ第一分科會ノ議長ハ英國政府ニ勧メテ四總理會議ノ問題ニ上セ四總理會議ハ之ヲ英米伊佛ノ財政大臣會議ニ委任シタル處遠ニ英米兩國ハ出席スル能ハサル旨ノ電話ニ接シ右大臣會議モ流會トナレリ故ニ四總理會議ハ他ニ解決ノ道ヲ考ヘ居ルナラム云々

#### (三) 四月二日ノ分科會無期延期

更ニ四月二日午後三時森委員出席シタル處議長ハ又最高幹部ノ内命アリテ追テ通知スルマテハ休會ノ外無キヲ告ケタリ

### ○損害補償委員會第二分科會第二十七、二十八次會合

一、日 時 四月三日、四月五日

一、内 容 敵國ヲシテ賠償ニ充ツル爲引渡サシムヘキ船舶ノ範囲及引渡ノ方法ニ就テ討議ス(承前)

甲、米國委員ノ提案

米國委員ハ各聯合國及與國ノ捕獲セル敵船ハ捕獲ノ手續及方法ノ如何ニ拘ラス各國個別的ノ所有ト確定シ之ニ對スル代價ト敵國ヨリ受クヘキ賠償トヲ相殺スヘキ案ヲ提出セリ

其ノ目的ハ米國カ國會ノ決議ヲ以テ敵船ノ所有權ヲ確保セムトスルモノニシテ右提案ニ對シテハ英佛ノ強烈ナル反対アリ賛成者一人セ無ク

乙、分科會ノ決議

會議ハ結局英國ノ提案ニ基キ大體

(イ) 敵國國旗ヲ掲揚シ又ハ之ヲ掲揚スル權利ヲ有スル船舶

(ロ) 敵國人ノ所有ニ屬シ又ハ敵國人ノ支配ノ下ニ在ル中立國人ノ所有ニ屬スル船舶

(ハ) 敵國又ハ中立國ニ於テ敵國人ノ爲ニ建造中ノ船舶

ハ聯合國及與國ヘ集合的ニ讓渡セシムヘキコトニ決セリ而シテ其ノ分配ハ別ニ決定スヘク又捕獲船舶ニ對スル所有權ノ當否ハ國ノ(脱)可キモノト了解セラレ居ルカ米國ハ右決議ニ對シ留保ヲ爲セリ

○損害補償委員會第十四次會合

一、日 時 四月七日

一、内 容

甲、議長ヨリ四月七日中ニ賠償委員會報告ヲ提出スヘキ旨最高會議ヨリ訓令ヲ受ケタルコトヲ通告ス

乙、各分科會ノ報告ノ審議

(一) 第一分科會ノ報告ハ殆ド原案ノ儘可決承認(後出(第五二頁)損害補償委員會第一分科會報告參照)

(二) 第二分科會ノ報告ハ分科會自身ノ承認未遂ノ爲四月八日迄附議ヲ延期ス

(三) 第三分科會ハ報告未提出

丙、白國等ノ優先賠償確認請求

最後ニ白耳義委員ハ大戰ニ於ケル白耳義ノ犠牲ノ大ナルコト及白耳義ノ回復ニ關スル聯合諸國ノ協同宣言ヲ援用シ優先賠償ヲ受クルノ權利ノ確認ヲ求メ塞爾比亞羅馬尼委員モ之ニ倣ヒタルモ議長ハ斯ノ如キ問題ヲ本委員會ニ附議スルモ徒ニ議論ヲ交フルニ過キス何等ノ效果ヲ收ムルコト能ハサルヘキヲ述ヘタリ

○損害補償委員會第十五次會合

一、日 時 四月八日

一、内 容 第一分科會提出第一假報告ヲ附議承認ス

該報告中重ナル項目左ノ如シ

(一) 敵國ノ奪取セル物件ニシテ現存スルモノハ直ニ返送セシム

(二) 被害物件ト同様ノ物件カ敵國領土内ニ存在スルトキハ聯合國ニ於ケル急迫ノ必要ヲ充タス爲聯合國共同委員會定ノ上之ヲ引渡サシム

(三) 前記ノ外豫備條約調印後十八ヶ月又ハ二ヶ年以内ニ滿テシメ得ヘキ流動資產ヲ「百億「マルク」」(「マルク」ハ獨逸法定金量ニヨル)ト見積リ其ノ内ニ金銀、船舶、外國有價證券及聯合國ニテ需用スル輸出品ヲ包含ス

(四) 千九百二十一年一月以後ハ證明ナレタル賠償要求總額ニ達スルマテ聯合國共同委員會ノ決定スル所ニ依リ年々分割支拂ヲナサシム

賠償ノ爲ニスル敵國ノ課稅一人割カ聯合國ノ中ニテ國債ノ爲ニスル最高課稅一人割ニ達セサル間ハ右委員會ニ於テ敵國ノ支拂能力カ賠償要求額ニ及ハサルコトヲ決定スルヲ得ス

(五) 聯合國中ニ希望者アルトキハ敵國ヲシテ現物ヲ供給シテ賠償ニ充テシムルコトヲ得

(六) 敵國ヲシテ賠償債務ニ對シ五分利附金貨持參人拂「マルク」公債ヲ發行セシム（此ノ公債ノ償却ニヨリ賠償ノ義務ヲ果スコトナルノ理ナリ）

(七) 賠償支拂ヲ監視スル爲常設國際機關ヲ設ク

## ○損害補償委員會第一分科會報告

（四月七日損害補償委員會第十四次會合乙參照）

損害補償第一分科會ノ報告ニシテ總會第十四回ニ於テ可決シ直ニ總會第一報告トシテ講和總會議最高幹部ニ提出シタル所左ノ如シ

### 損害補償委員會第一分科會報告

#### 第一編 要償ノ目的タル損害種目

（以下各條ハ採用ヲ經タルモノニシテ諸國ノ留保ハ備考ニ附記スルモノナリ）

#### 第一部 個人損害

##### 種目A 不動產

###### 第一章 各交戰地帶ニ於ケル兩軍ノ爲ニ蒙リタル損害

第一條 私人（自然人及法人）及國家以外ノ公共團體ニ屬スル陸上並海上ノ不動產ノ破壞毀損並減價

###### 第二條 （一）使用セラレタル手段

破壞毀損並減價ハ交戰行爲又ハ侵略ノ事實ノ結果タルコト即  
イ、陸上海上ニ於ケル砲擊又ハ飛行機ニ依ル砲擊

ロ、軍隊ノ任意的又ハ非任意的行動（宿泊等ヲ含ム）

ハ、防禦攻擊及之ニ關係アル手段（溢水等ヲ含ム）

ニ、魚形水雷及敷設水雷

ホ、敵ノ使用探伐及探掘ヨリ生スル毀損

ヘ、微發及權利ノ剝奪等

###### 第三條 （二）破壞又ハ毀損ノ目的物

A、土地、森林、果樹園、農植地、鑛脈、鑛山、鑛坑、及採石場、道路、運河、一般鐵道、電線及船渠（電話、電信、電力）水道、水管、下水道其他微細ノ工作物

B、私人ノ一切ノ建設物並國有以外ノ公共建設物建物並記念碑等美術的傳來物ヲ含ム

###### 第二章 第一章ニ規定セル以外ノ損害ニシテ聯合國並敵國ニ於テ生シタルモノ

#### 第四條 不動產ニ關スル損害

A、敵國領土ニ於テ敵國官憲若ハ人民ノ命令シ又ハ實行セル行爲ニ依ルモノ

B、敵國領土或ハ被侵略地若ハ被占領地ニ於テ押收徵發差押及ヒ差押財產ノ處分整理ニ關スル法律ノ適用若ハ敵國官憲ノ行爲ニ依ルモノ

#### 種目B 動產

###### 第一章 各交戰地帶ニ於テ兩軍ノ爲ニ被リタル損害

#### 第五條 (二)損害ノ原因

上記第一章第一條(一)ニ列舉セル一切ノ行爲並ニ權限ノ有無ニ拘ラス一切ノ撤去、盜取、強制賣却沒收並ニ之ニ類スル手段

### 第六條 (二)損害ノ目的物

(A)私人ノ建造物及ヒ國有以外ノ公共建造物ノ裝具及ヒ備品、機械、器具、家具、衣類、下著其他各種ノ身廻リ品、美術品、原料品、商品、各種ノ家畜及ヒ獸類、收穫物、加工シ若ハ加工セナル生産品、糧食、繪畫、畫像、特許及商標記錄其他一切ノ文書

(B)海上及ヒ國內湖川ヲ航行スル商船漁船其他一切ノ船舶並ニ其裝具及ヒ積荷

### 第二章 聯合國並ニ敵國ニ於テ發生シタル第一章所掲以外ノ損害

#### 第七條 動產ニ對スル損害

(A)敵國領土内ニ於テ敵國官憲又ハ人民ノ命令シ又ハ實行セル行爲ニ依ルモノ

(B)敵國領土ニ於テ若ハ侵略或ヒ占領セラレタル領土ニ於テ押收、徵發、差押及ヒ差押財產ノ整理處分ニ關スル法律ノ適用若ハ敵國官憲ノ行爲ニ依ルモノ

#### 種目C 諸種ノ利益

### 第一章 各交戰地帶ニ於テ兩軍ノ爲ニ被リタル損害

#### 第八條 (一)損害ノ原因

右種目(A)及ヒ(B)各第一章(一)ニ引用セル一切ノ原因並ニ各種ノ不法又ハ不公平ナル判決及ヒ侵略又ハ占領セル領土ノ現行法律ノ廢棄又ハ停止

#### 第九條 (二)損害ノ目的

(A)各種ノ證書、有價證券及ヒ利札

#### (B)労働若クハ役務ノ徵發

(C)侵略若クハ占領セラレタル領域ノ移民ニ對スル食料ノ供給輸送及救濟ノ義務履行ノ爲メ國家以外ノ公力ノ支出セル一切ノ費用

(D)製造ノ特別ナル過程、特許、若クハ特殊ナル方法ノ暴露、若クハ使用ニ依リ工業所有權ニ蒙リタル損害

(備考)本條ノ適用ハ實際可能ノ範圍ニ止ムトノ留保ノ下ニ承認ス

(E)商業帳簿若クハ會計帳簿及ヒ公私ノ通信並ニ記錄其他一般ニ公ノ性質ヲ有セサル文書又ハ報道ノ了知並ニ此等文書及ヒ報道ノ使用ニヨリ商業上蒙リタル損害、斯ノ如キ文書又ハ報道ノ知悉ニ依リ新タナル競争者ノ出現ニ依リ蒙リタル損害

(備考)(D)ト同一留保ノ下ニ承認ス

(F)戰鬪行爲若クハ敵ノ執リタル手段ノ直接結果トシテ且ツ新ナル收入財源ニ據ル保障ヲ得ルコトナクシテ財產權ノ行使又ハ職業ノ實行或ヒ勞働ノ機會若クハ勞働ノ正當ナル報酬獲得ノ機會ノ全部又ハ一部ニ障害ヲ來シタルニ依リ其障害ノ繼續スル期間蒙リタル損害

### 第二章

#### 第十條 右種目B第二章ニ於ケルト同様ノ損害

#### 種目D 財政上ノ取立

### 第一章 各交戰地帶ニ於テ兩軍ノ爲メニ蒙リタル損害

第十一條 第二條ニ列記セル事實ノ直接結果タル貨幣ノ破壊若クハ紛失、敵國カ各種ノ貨幣ニ依リテ賦課シタル租稅、賦課金、戰時取立金、科料、敵ノ犯シタル貨幣ノ窃取、但シ預金殘高ヲ移轉シ及資產、債權、公債、其他ノ證券ニ變形セル場合ヲ含ム敵カ個人及團體ニ課シタル公債強制應募及ヒ(不明)的ノ行爲ニ依ル銀行券債券其他支拂用具ノ發行僞

## 造變造若クハ減價

## 第二章

第十二條 右種目B及ヒCノ第二章ニ於ケルト同様ノ損害  
種目E對人的損害

第一章 各交戰地帶ニ於テ兩軍ノ爲ニ蒙リタル損害

第十三條 戰爭ノ事實（陸上、海上若クハ空中ヨリスル攻撃及戰鬪行爲ノ一切ノ結果）ノ爲非軍人タル犠牲者若クハ之ニ代位スル者ノ蒙リタル損害

- (A) 生存配偶者若クハ孤兒尊族卑族若クハ其代位者ニ對スルモノ
- (B) 不具ト成レルモノ死傷者若クハ病者ニ對スルモノ

第十四條 敵ノ實行シ又ハ命令セル殘虐暴行若クハ虐待ノ犠牲ト成リタル非軍人若クハ之ニ代位スル者ノ蒙リタル損害

- (A) 射殺セラレ若クハ虐待ノ結果死亡セル人ニ對スルモノ
- (B) 敵ノ爲聯合軍ノ砲火ニ曝サレタル人ニ對スルモノ

(C) 收監、追放、留置若クハ避難ノ結果トシテ生命又ハ健康ニ害ヲ蒙リタル人ニ對スルモノ

(D) 強制勞働ノ結果トシテ致死的其ノ他一切ノ奇禍ヲ蒙リ療疾トナリ又ハ病ニ罹リタル人ニ對スルモノ

第十五條 公私能力又ハ名譽ヲ毀損スル一切ノ行爲ヨリ生スル損害

第十六條 生命健康若クハ就業能力ニ害ヲ蒙ラサルモ自國ノ利益ニ反スル勞働又ハ職業ニ從事スルコトヲ強制セラタル人ノ蒙リタル損害

## 第二章 兩軍ノ交戰地帶ニ於ケル聯合國又ハ敵國ニ於テ生シタル損害

- 第十七條 留置セラレタル非軍人ノ生命健康若クハ就業能力侵害ヨリ生スル損害
- 第十八條 左記ノ者ノ蒙リタル損害
  - (A) 軍事工場ノ爆發犠牲者
  - (B) 軍事工場ニテ從業中事變ノ犠牲トナリタル者

## 第二部 國家ノ損害

- 第一章 右第一部ニ掲ケタル一切ノ損害ニシテ國家カ其ノ非軍事的財產若ハ固有ノ財源ニ蒙リタルモノ
- 第十九條 但個人及國家以外ノ團體ニ對スル損害ノ要償權ト重複スルヲ避クルコト尙左記各條ノ損害ヲ含ム
- 第二十條 侵略又ハ占領ノ結果國家ノ負擔セサルヲ得サルニ至リタル非常經費但ヘノ損害及之ニ包含セラレサルモノニ限ル

(備考) 英國ハ本條ヲ承認セス

- 第二十一條 印紙及政府專賣品ノ略取移轉若ハ法定價格以下ノ廉賣ヨリ生シタル損失費占領若ハ交戰地帶ニ於ケル政府ノ諸稅其ノ他ノ收入徵收ノ不能ヨリ生シタル損失但シ徵稅費ノ減少ニ依リ相殺セラレサリシ程度ニ限リ又國家カ該損害回復ノ用ニ供シタルヘキ課稅物件カ個人要償權ノ認容ニ依リ新タニ創造セラレサル範圍ニ限ル
- (備考) 英日葡三國委員ハ本條ヲ承認セス米國委員ハ意見ヲ留保ス

- (註) 本邦委員カ本條ヲ承認セサリシ理由ハ羅馬尼提案（三月二十四日損害補償第一分科會第二十次會合報告講和調書其五第五四頁參照）ハ其ノ意義廣汎ニ過キ戰爭トノ關係間接ニ過クルノミナラス他ノ損害種目トノ關係重複ヲ來スノ處アルヲ以テ提案者ノ再考ヲ促ス爲メ反對シタルナリ
- 第二十二條 避難民立退人ニ對スル應急手當並ニ戰鬪行爲若ハ敵ノ執リタル手段ノ直接結果トシテ財產權ノ行使職業ノ

不實行若ハ一般ニ勞働ノ機會若ハ勞働ノ正當ナル報酬所得ノ機會ノ全部又ハ一部ヲ奪ハレタル凡テノ人ニ對スル應急ノ手當

第一十三條 被侵略地若クハ被占領地住民ニ對スル食料ノ供給輸送若クハ救濟ノ爲國家又ハ國家ノ計算ニ於テ且其ノ委任ヲ以テ救濟ニ關與セル團體又ハ個人カ各種ノ形ニ於テ支出シタル經費

## 第二章 國家若ハ其ノ領土又ハ殖民地ノ經費

### 第二十四條

(甲) 戰爭ノ犠牲トナリタル軍人若ハ其ノ代位者ニ對スル各種ノ恩給手當及ヒ資金

### 第二十五條

(乙) 戰鬪事實ノ犠牲者若ハ其ノ代位者ニ對スルモノ

(A) 寡婦、孤兒、卑族、尊族若ハ其ノ代位者

(B) 瘟疾者、病者及ヒ廢兵

### 第二十六條

(二) 敵ノ實行シ又ハ指圖セル殘虐行爲、暴行若ハ虐待ノ結果トシテ生命又ハ健康ニ害ヲ被リタル俘虜ニ對スルモノ

### 第二十七條

(乙) 國家ノ俘虜救濟費、動員ヲ受ケタルモノ、家族手當費

### 第二十八條

戰爭狀態ニ基因スル聯合諸國一切ノ經費又ハ負擔

### 第二十九條

聯合諸國ニ於ケル敵人俘虜(將校及ヒ下士卒)並ニ被留置者ノ給養費

## 第二編 損害評價方法

(左記可決條項中諸國ノ留保有ルモノハ備考ニ其ノ旨ヲ附記ス)

### 第一部 總則

第一條 損害ノ種類如ヲ何問ハス同一ノ損害ニ對シ二重ノ支拂ヲ爲スノ結果ヲ生スルカ如キ請求權ヲ許容スヘカラサルコトヲ一般ニ承認ス

第二條 敵國カ其ノ責ニ任スヘキ行爲ヨリ生シタル被害ニ就テハ要償ノ範圍ハ該行爲ノ其ノ際ノ自然的及ヒ必然的結果ヲ包含スヘシ

第三條 直接特定ノ立證方法若ハ統計的一般的立證方法ニ屬スル何等カノ手段ニ依リ合理的確實性ヲ以テ評價スルコト能ハサル請求ヲ許容スルコトヲ得ス

第四條 請求ハ當事者ノ受取勘定ノ部ニ存スル一切ノ價格ヲ控除セル純損害ニ付テノミ之ヲ爲スヘシ

第五條 損害價格ノ直接證據ノ欠缺セル場合若ハ其ノ他充分ナル理由アル時ハ計算並評價上統計的方法ニ依頼スルコトヲ妨ヶス但證明及確認上適當ナル方法ヲ適用スヘシ

第六條 動產タルト不動產タルトヲ問ハス被害物件ノ回復費ハ右被害物件ニ代ヘテ更ニ高價ナル若ハ價值多キ性質ノ物件ヲ得ルノ費用ニ及フモノニアラス又從來ヨリモ大規模ナル再建ニ必要ナル費用ニ及フモノニアラス

第七條 請求權ニハ合理的確實性ヲ有スル信用シ得ヘキ證憑ヲ具備スルコトヲ要ス但斯ノ如キ證憑ヲ認容スヘキ特別ナル形式ニ關シテハ先以テ當該國カ之ヲ決定スルモノトス

### 第二部 評價ノ方法

第八條 敵國ヲシテ賠償セシムヘキ損害ハ被害國タル聯合諸國ニ於テ各自國ノ分ニ付夫々之ヲ申立て且評價スルモノトス

第九條 要償支持ノ目的ヲ以テ右ノ如クシテ定メタル損害ノ評價ハ以下各條ニ定ムル一定ノ通則ニ準據スヘシ

第十條 以下定ムル所ノ通則ハ敵國ニ對スル要償ニノミ之ヲ適用シ必シモ聯合諸國間又ハ各國家ト其ノ人民トノ間ノ關係ヲ羈束スルモノニアラス

第十一條 前諸條ノ損害ノ申立及評價ハ聯合諸國ノ確認ヲ得ルニ至ル迄ハ確定的タルコトナカルヘシ

第十二條 損害ノ評價ニ當リテハ要償權者ヲシテ若シ敵國カ聯合諸國ニ課シタル戰爭狀態ヨリ生スル損害ヲ蒙ラサリシトセハ存シタルヘキ狀況ト成ルヘク一致スル狀況ニ置クコトヲ主眼トスヘシ

第十三條 評價ハ要償權ノ原因タル行爲ノ一切ノ自然的必然的結果ヲ包羅スルモノタルヘシ

(備考) 本條及第十四條第十五條第十七條ハ第一部總則中之ニ相當スル條項ノ主義ヲ再ヒ承認セルモノニアラスモ其

ノ適用ヲ變更スルノ意ニアラス

第十四條 損害種目ノ分類ニ關シ要償ノ申請及評價ニ關シ如何ナル手續ヲ要スルコトアリトスルモ損害ニ對シ二重ノ支拂ヲ受クルコトハ其ノ全部タルト一部タルトヲ問ハス絶對ニ強要スヘカラス

第十五條 請求ハ被害ノ實在及額ニ關スル直接證據若ハ其ノ他ノ適當ナル證據或ハ信用シ得ヘキ證據ニ依リテ立證セラル・コトヲ要ス而シテ證據ノ舉用シ得ヘキ形式ト條件トヲ決定スルハ一一ニ聯合諸國ノ權限ニ屬ス

第十六條 評價ハ各當事國ノ適當ト認ムル貨幣ヲ以テ表示スヘシ且之カ爲敵國ノ支拂ニ使用スヘキ貨幣ノ單位ニ何等ノ決定ヲ與フルモノニハアラス而シテ各國ハ計算ノ基礎トナシタル爲替ノ率ヲ表示スヘシ

第十七條 要償額ハ破壞セラレタル財產若ハ物件カ動產タルト不動產タルトヲ問ハス同等ノ品質及價值ヲ有スル他ノ財產ニ依リ補充スルニ必要ナル額ヲ超ユルコトヲ得ス

但シ本條ノ規定ハ物價ノ騰貴ニ基ク價值增加ニ言及スルモノニアラス又破壞セラレ若ハ毀損セラレタル財產若ハ物件

ニ對シ新タル財產若ハ物件ヲ以テ補充スルコトニ言及スルモノニアラサルハ勿論ナリ

第十八條 債權ノ補充若ハ修復ノ可能ナル動產及ヒ不動產ニ對シ海上又ハ陸上ニ於テ爲サレタル破壞毀損其ノ他一切ノ損害ハ平和締結ノ日ニ於ケル債權ノ補充若ハ修復ノ見積價額ニ依リテ評價スヘシ但シ此規則ヲ適用スルニ依リテ被害者ニ市價ノ變動ヨリ生スル危險ヲ課スル恐アル場合ニハ右損害ハ以下規定スル如キ購入ニ依リ現實ノ補充行ハレタル場合ヲ除キ喪失若ハ損害ノ時以後ニ於ケル合理的期間内ノ價格ニ依リ評價スヘシ

第十九條 再建補充若ハ修復ノ費用ハ出來得ル限り戰前ノ相當價格ニ適當ナル係數(Coefficient)ヲ付シテ之ヲ算出ス

右係數ハ財產ノ各種目毎ニ材料勞力及ヒ其ノ他考慮スヘキ一切ノ要求前條所定ノ日ニ於ケル市價ニ準據シテ之ヲ算出ス

第二十條 再建、補充又ハ修復ノ爲メ平和締結ノ日以前ニ勞力ヲ雇用シ又ハ購買ヲナシタル場合ニ於テハ實際ノ支出額ニ依リテ評價スヘシ

第二十一條 同一財產並ニ物件カ繰返シ又ハ繼續シテ損害ヲ蒙リタル場合ニ於テハ再建、補充又ハ修復ノ爲メ實際ニ支出セル勞銀及購入費ハ凡テ評價中ニ算入スルコトヲ要ス

第二十二條 再建、補充並ニ修復ノ不能ナル動產又ハ不動產ニ蒙リタル損害ハ同財產カ平和締結ノ日ニ於テ有シタルヘキ價格ニ依リテ之ヲ評價ス但シ殘存ノ部分ニ付テハ其ノ割合ニ應シ評價格中ヨリ控除スルコトヲ要ス

第二十三條 形式ノ如何ヲ論セス貨幣ノ徵收並押收(公債強制應募ヲ含ム)或ハ貨幣價值ノ表示セラレタル財產ノ徵收又ハ押收ニ依リ蒙リタル損害及被侵害地住民若ハ被拘禁市民救濟等ノ爲メ經費ヲ支出セルニ依リ生シタル損害ハ當該請求ノ現品價額ニ損害ノ日ヨリ平和締結ノ日迄ノ間年六「パーセント」ノ利子ヲ附シテ評價ス但シ敵國臣民ト聯合諸國臣民トノ間ノ戰前契約ヨリ生スル相互ノ債權債務ニ付テハ其ノ決済ノ方法ハ別ニ之ヲ定ムルモノトス

第二十四條 有價證券ノ押修喪失又ハ破壞ヨリ生スル損害ハ千九百十四年ノ初六ヶ月間ニ於ケル取引所ノ平均相場ヲ基

基礎トシテ評價ス千九百十四年七月一日以降ニ發行セラレタル有價證券ノ場合ニアリテハ其ノ發行價額ニ依ル但シ其ノ價額ハ千九百十九年初三ヶ月ノ平均相場ヨリモ低キコトヲ得ス此外若シ所有者カ該有價證券ヲ引續キ所有シ居タリトセハ平和締結ノ日迄ニ取得スルコトヲ得ヘカリシ利札利子未拂金收入ノ價額ヲ附加スヘシ

(備考) 英國及日本ノ委員ハ本條ヲ承認セス

第二十五條 一切ノ財產ノ行使ノ全部又ハ一部ノ障碍ヨリ生スル損害ハ損害ノ期間中損害財產ノ平均所得又ハ收入ニ依

リ評價ス其ノ期間ハ障碍ノ繼續スル間トシ或ハ講和條約締結ノ日迄タルコトアルヘク或ハ其日以後該障碍停止ヲ確保スルニ必要ナリト思考セラルヘキ合理的期間タルコトアルヘシ評價ハ戰前三曆年三營業年度並ニ三季節ノ平均純所得又ハ收入ヲ基礎トシ之ニ各場合及各時期ニ應シ適當ナル係數 (coefficient) ヲ附スルニ依リテ之ヲ行フ評價ニ方リテハ

損害全部又ハ一部ヲ相殺シタルヘキ一切ノ眞收入財源並ニ補助金ト當事者ノ現存收入トノ合計額ヲ差引クヘシ

第二十六條 職業ノ行使若ハ勞動ノ機會及勞動ニ依ル正當ナル報酬獲得ノ機會ノ全部又ハ一部ノ障害ヨリ生スル損害ハ被害期間ニ於ケル當事者ノ平均賃銀又ハ報酬ニ依リテ評價ス其ノ期間ハ該障害ノ繼續スル間トシ講和締結ノ日迄タルコトアルヘク或ハ其ノ日以後該障害停止ヲ確保スルニ必要ナル期間トシテ判断セラルヘキ合理的期間タルコトアルヘシ評價ハ戰前三ヶ年ノ平均賃銀若ハ俸給ヲ基トシ之ニ各場合及季節ニ應シ適當ナル係數ヲ附スルニ依リ之ヲ行フ評價ニ當リテハ損害ノ全部又ハ一部ヲ相殺シタルヘキ一切ノ眞收入財源及補助金ト當事者ノ現存收入トノ合計ヲ差引クヘシ

第二十七條 營業企業若ハ職業ノ組織破壊ニ基ク損害ハ該組織復舊費ヲ標準トシテ評價ス

第二十八條 製造ノ特別ナル方法ヲ敵國カ了知スルニ至リタルニ依リ工業所有權ニ蒙リタル損害若ハ帳簿通信及私的性質ヲ有スル各種ノ文書及報道ヲ敵國カ了知スルニ至ルニ依リ蒙リタル商業上ノ損害ハ聯合諸國間ニ協定セラルヘキ特別ナル規則ニ準據シテ評價ス

第一分科會ハ損害ノ種目並ニ評價方法ノ第一回審議ヲ完結スルニ當リ左ノ決議ヲ採用ス

「既ニ採用セラレタル原則及決議ヲ採用スルニ當リ第一分科會ハ將來追加決議ノ採用ヲ排除スルモノニアラス又既ニ承認セラレタル是等ノ條項ヲ以テ一切ノ場合ヲ網羅スルモノト思考スルモノニアラス」

## 責 任 委 員 會

### ○ 責 任 委 員 會

◎ 戰爭責任問題（特ニ獨帝處分問題）ニ對スル日本委員ノ態度ニ付米國大統領ノ斡旋  
イ、「ウヰルソン」氏ノ覺書交付

四月十日「ウヰルソン」大統領ハ我牧野全權ヲ來訪シ戰爭責任問題ニ關シ懇談シタル旨ヲ告ケ本件ニ關スル日本委員ノ留保ニ關スル覺書ヲ閱讀シ能ク其ノ趣旨ノ有ル所ヲ了解シ篤ト考量ヲ重ネ三國ノ首相トモ熟議ヲ遂ケタルカ獨逸國前皇帝ノ如ク其ノ當局者ニ於テ莊嚴ナル國際條約ヲ破リ白耳義ノ中立ヲ侵スニ當リ十分之ヲ制止スルノ權力ヲ具有シタルニ拘ラス少シモ之ニ干涉スルコトナク其ノ犯行ヲ承認シタルモノハ到底之ヲ不問ニ附スルコト能ハサルニ依リ別紙覺書ノ如ク五大國ノ裁判官ヨリ成ル特別裁判所ニ於テ之ヲ審判スルノ必要ヲ認メ同大統領及ヒ前記三國首相ノ署名ヲ了シタル右ノ覺書ニ依リ本件ヲ措置スルニ於テハ日本ノ懸念セラルル形式上ノ困難ヲ除クヲ得ヘキモノト考ヘラルニ付同大統領ハ前記三國首相ノ依頼ニ基キ日本全權ノ同意ヲ求ムル旨ヲ述ヘタリ

ロ、牧野全權ノ答辯

之ニ對シテ牧野全權ハ日本委員ノ覺書（前調書第六三頁參照）ハ主トシテ委員ノ専問的考究ノ結果ヲ陳述シタルモノナルカ日本國ニ於テハ十數世紀ノ久シキニ瓦リ（脱）涉外行為ニ關スルコトトスルモ原案若ハ修正案ノ儘ニテハ國家ノ元首ニ責任ヲ歸スルコトヲ甚タ不穩ナリトスル次第ナルコトヲ告ケタルニ

ハ、「ウヰルソン」

米國大統領ハ日本國ハ勿論英、佛等ノ如ク立憲制度ノ君主國ハ實際ニ於テ君主ハ不可侵ニシテ責任ヲ負ハサル儀ナレハ

本件ノ如キモ決シテ右等ノ諸國ニ適用ナキモノト思考セラル旨ヲ述ヘ且ツ本件成立ノ場合ニハ白耳義政府ヲ原告トシ  
テ事件ヲ提起セシムベク裁判所ハ多分約六週間ノ後之ヲ開クコトニ成ルベク何レ立派ナル裁判官ヨリ組織セラル特別  
裁判所ノコトナレハ其ノ審判モ亦タ適當ナルモノナルヘシ但シ和蘭國ニ於テ果シテ獨逸國前皇帝ノ引渡ヲ承諾スルヤ否  
ヤニ付テハ自分一個トシテハ疑ナキ能ハスト述ヘラレタルニ付

4、牧野全權ハ日本ハ距離遠隔ナレハ或ハ裁判官派遣ノコトハ間ニ合ヒ兼ヌルヤモ計リ難キ旨ヲ述ヘタルニ  
ホ、米國大統領ハ此等ノ問題ハ篤ト實際ニ付可然措置スヘキモノト思考スル旨ヲ述ヘタリ

5、日本委員ノ同意

牧野全權ハ西園寺侯ト既ニ著巴シ居ラルニ付一應相談ノ上回答スヘシト答ヘ大統領トノ會談ヲ終リタルカ其ノ後牧野  
全權ハ西園寺侯ト協議ノ上右別案ニ同意ヲ表スルコトナシ同侯ノ署名ヲ得タル上別紙覺書ヲ米國大統領ニ返戻セリ

ト、米國大統領ノ牧野全權ニ提示シタル覺書ハ大要左ノ如シ

#### OUTLINES SUGGESTED WITH REGARD TO RESPONSIBILITY AND PUNISHMENT.

1. All persons guilty of crimes under the law of war to be tried by military tribunals in usual way and sentenced, if convicted, to the usual punishments. In case crime was committed against nationals of only one of belligerents, trial to be by the military tribunals of that belligerent. In case crime was against nationals of several of belligerents, trial to be by military tribunal made up out of personnel of military tribunals of belligerents affected. Accused in every case to be entitled to name his own counsel.
2. Request to be made of Holland to deliver Ex-Kaiser into the hands of the Allied and Associated Powers for

#### 右譯文

##### 責任及處罰ニ關スル提議綱要

1、戰爭ニ關スル法規ニ於テ有罪タルヘキ者ハ凡テ軍事裁判所ニ於テ普通ノ手續ヲ以テ審判セラルベク若シ之カ有罪ト決  
セラレタルトキハ普通ノ處刑ヲ宣告セラルヘシ犯罪ニシテ交戰國中ノ唯一ノ國民ニ對シテ犯サレタル場合ニ於テハ審判  
ハ該交戰國ノ軍事裁判所ニ於テ行ハルベク又若シ犯罪ニシテ交戰國中ノ數國民ニ對シテ犯サレタル場合ニ於テハ審判ハ  
當該關係交戰國軍事裁判官ヨリ組織セラルヘキ軍事裁判所ニ於テ行ハルヘシ如何ナル場合ニ於テモ被告ハ自己ノ辯護人  
ヲ任命スルコトヲ得

1)、前獨帝ヲ特別裁判所ノ審判ニ付スル爲聯盟諸國ヘ引渡方和蘭國ニ對シテ要求スヘシ右裁判所ハ米英佛伊日五國ヨリ各  
々一名宛任命スヘキ五名ノ判事ニ依テ組織サルヘシ前獨帝ヲ裁判ニ付セムトスル罪名ハ刑法上ノ犯罪ト稱スルコトナク  
國際道徳及條約ノ神聖ニ對スル最大ノ犯罪ト稱スヘシ而シテ之ニ科セラルヘキ處罰ハ國際協約ノ義務ノ森嚴ト及國際道  
徳ノ實效トヲ證示スル爲法廷ニ於テ國際政策ノ最高勳因ヲ考量シ之ヲ決定スヘキモノトベ

## 交 通 委 員 會

### ○交通委員會第二十一次會合

一、日 時 四月三日

二、內 容 港、河川、鐵道ニ關スル總括的約款案審議(承前)

前々回來審議中ノ總括的約款案ニ關シ

(1) 前顯交渉委員第十九次交通委員會甲參照)ヨリ經濟委員會側委員協議ノ結果ヲ報告ス

(11) 航行自由ノ件

豫備條約ニ挿入スヘキ約款案中航行ノ自由ニ關スル規定トシテ

Under reserve of restrictions concerning the exercise of maritime coasting-trade, the subjects, property, and flags of the (a) states shall, in respect of charges, facilities, and in all other respects, be treated on a footing of perfect equality in the ports of an inland navigation service to the (b) states, no distinction being made to the detriment of subjects, property and flags of the (a) states, between the latter and the subjects, property and flags of the (b) state itself or of the state whose subjects, property and flags enjoy the most favourable treatment. There shall be no impediment to the movement of persons or ships other than those arising from prescriptions concerning police, customs, sanitation, emigration or immigration or the importation or exportation of prohibited goods.

Such reasonable and uniform provision shall not unnecessarily impede traffic.

ナル一箇條設ケラレタルカ經濟委員會海運分科會ニ於テ日本委員ノ主張ニ依リ敵國ノ沿岸貿易ヲ聯合國船舶ニ開放セシムルノ主義一日採用セラレタルニ付交通委員會ニ於テモ同一ノ趣旨ヲ以テ前記規定ヲ修正スヘキ様日本委員ヨリ主

張シタル處米國其ノ他多數國ヨリ反對出テ結局佛國委員ヨリ折衷案トシテ該條ノ冒頭ア Under reserve of the maintenance of the conditions existing before the war regarding the exercise of maritime competition ト修正方ヲ提議シ其ノ通過ヲ見タリ（獨リ米國委員ハ豫備條約ニ基ク此種ノ敵國義務ハ五年後ニ至リ變更ヲ加ヘラ或ハ敵國ニ於テ互惠主義ヲ要求シ得ルノ地位ニ立ツコトトナルヤモ計リ難ク然ルニ米國ハ沿岸貿易不開放主義ヲ執リ居ルニ付斯ル義務ヲ敵國ニ課スル事ニ同意ヲスルコトヲ得ストテ反対セリ尙獨逸ハ戰前互惠開放主義ヲ採用シ居タリ）

### (II) 國際河川ノ件

羅馬尼委員ノ提議ニ基キ國際河川ニ關シテハ全然水流ニ依リ航行スル部分 (part of these rivers where navigation is exclusively fluvial) ニハ敵國ハ聯合側沿岸國ヨリ特別ノ承認ヲ得ルコトナクシテ該沿岸諸國ノ港ノ間ニ定期航路ニ依リ旅客並ニ貨物ノ運送ヲナスコトヲ得ストノ規定ヲ可決セリ

### (四) 「チエツク、スローヴァツク」鐵道案

「チエツク、スローヴァツク」鐵道案ヲ再議シ（前回ノ記事(ロ)參照）英國委員ヨリ原案ノ四線要求ヲ二線ニ減少スヘキコト並ニ是等鐵道線路ニ對シ行政權ヲ認ムヘカラナルコトヲ主張シ米國委員モ此說ニ加ハリタル爲メ本問題ハ次回迄延期トナル

## ○交通委員會第二十二次會合

一、日 時 四月五日

一、内 容 港、河川、鐵道ニ關スル總括的約款案審議（承前）

### (二) 航行自由ノ件（承前）

前回ノ記事(二)ニ關シ四月三日ノ經濟委員會ニ於テ英米側ノ主張ニ依リ敵國沿岸貿易ノ開放主義覆ヘサレ單ニ最惠國待遇主義ヲ敵國ニ課スルコトトナリタル結果本日ノ交通委員會ニ於テ米國委員ヨリ前顯修正規定ヲ原案ニ復舊セシムベシト主張シ日本委員ヲ除クノ外全會之ニ贊同シタルカ爲メ我主張ハ乍遺憾終局ニ於テ不成功ニ終ハレリ

### (1) 「チエツクス、ローヴァツク」鐵道案可決

前回延期トナリタル「チエツク、スローヴァツク」ノ敵國鐵道使用ニ關スル要求ヲ可決ス

◎附記、本日ノ會議ヲ以テ講和豫備條約ニ挿入スヘキ約款案全部議了ス其中

港、河川、鐵道ニ關スル講和條約中ニ挿入スヘキ議定條款（四月五日議定）中重要事項左ノ通り

### 第一章 總則ニハ

敵國ハ其ノ領土内ニ於テ鐵道、河川及運河ニ關シ聯合諸國ノ旅客貨物、船舶、車輛等ノ自由通過ヲ承認シ且ツ之ニ對シ其ノ敵國ノモノト均等ノ取扱ヲナスヘキコトヲ記載シ

### 第二章 航行ノ章下ニ

一、海上沿岸貿易ニ關スル事項ヲ除キテ聯合諸國ノ國民財產及船舶ハ敵國ノ港及國內ノ公水ニ於テ敵國ノモノト全然均等ノ取扱ヲ受クヘキコト

二、敵國ニ於ケル自由區域ハ戰前ニ於テ存在シタル狀態ヲ維持スヘキコト

三、「エルビ」「オーデル」「ヒーメン」「ダニユーブ」ノ四川ヲ國際河川トシ且ツ其ノ區域ヲ定メ（「ダニユーブ」川ハ「ウルム」ヨリ下流全部）又敵國ハ聯合諸國ヨリ告知アリタル日ヨリ三ヶ月内ニ國際河川港ニ登録シタル船舶及曳船其ノ他國際河川ニ必要ナル諸材料ニシテ戰時損害回復ノタメ引渡サレタルモノヲ聯合諸國ニ讓渡スヘキコト

四、「エルビ」河ハ獨逸聯邦四名、「チエツク、スローヴァツク」共和國二名及英佛伊白各一名ヅ、ノ代表者ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ、「オーデル」河ハ波蘭、「プロシア」、「チエツク、スローヴァツク」共和國、英、佛、丁抹、瑞典各二名ノ代表者ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ、「ヒーメン」河ハ或沿岸國ヨリ國際聯盟ニ要求シタル場合ニ或沿岸國ノ代表者一名及國際聯盟

ノ指定スル他ノ沿岸國ノ代表者三名ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ屬スルモノトスルコト

五、「ダニユーブ」河歐洲委員會ハ戰前ノ權限ヲ再得シ且同委員會ハ一時英、佛、伊、(不明)、羅馬尼各一名ノ代表者ヨリナルモノトシ又「ダニユーブ」河歐洲委員會ノ管理權下ニアル地點ニ對シテハ沿岸獨逸聯邦二名其ノ他ノ沿岸國一名及將來同歐洲委員會ニ於テ代表者ヲ選出スヘキ各沿岸國ノ代表者一名ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ屬ス可キモノトスルコト

六、「ライン」河ハ和蘭瑞西英國伊太利白耳義各二名及沿岸獨逸聯邦佛蘭西各四名ノ代表者ヨリ成ル中央委員會ノ管理ニ屬スヘキモノトスルコト且同委員會ハ其ノ本部ヲ「ストラスブルグニ」設置スルコト又敵國ハ佛蘭西ニ對シテ其ノ告知アリル時ヨリ三ヶ月以内ニ「ライン」河航行ノ爲ニ指定セラレ且獨逸港ニ登錄シタル船舶及曳船ニシテ戰時損害回復ノ爲引渡サレタルモノヲ除キ其ノ殘部ニ對シ獨逸海運會社ノ株券ヲ讓渡スルコト更ニ又佛蘭西ハ其ノ國境ノ西端ニ貫流スル「ライン」河ノ兩河域ニ連河ノ給水及灌溉又其ノ他ノ目的ヲ以テ「ライン」河ヨリ引水シ且獨逸國ノ河岸ニ於テ前條ノ權利行使ノ爲必要ナル工事ヲ施ス權利及河川營利ノ工事ニ依リテ生シタル動力ノ獨占權ヲ獲得スルコト白耳義ハ「ライン」「ミユーズ」運河改良ノ爲「ライン」ヨリ引水シ更ニ白耳義政府カ講和條約調印ノ後二十五年以内ニ「ルールロールト」ヨリ上流ノ「ライン」「ミユーズ」運河ノ開鑿ヲ決定シタル場合ニハ獨逸國中央委員會ノ承認ノ後白耳義政府ニ告知セラレタル設計ニ從ヒテ其ノ領土内ノ河域ヲシントクスルノ義務アルコト更ニ又獨逸國ハ前條ノ佛蘭西ノ權利ヲ保障スル爲佛蘭西國境ノ對岸「ライン」河ノ右岸ニ之ト平行スル運河支流ヲ開鑿セサルコト又「ライン」河ノ右岸ノ地域ニ於テ佛蘭西カ中央委員會ノ承認ヲ得テ設置セムトス(脱)礦石ノ調查設置等ノ爲ニ必要ナル支持權及通過權ヲ承認スルコト

瑞西國モ中央委員會ノ承認ヲ得テ請求ヲナス場合ニハ獨逸國ハ瑞西國カ同國及其ノ他ノ國ノ國境ヲナス河域ニ對シ前同上ノ權利ヲ有スルコトヲ承認スルコト更ニ又獨逸國ハ「ライン」中央委員會カ「モーゼル」河ニ就テハ「ルクセンブルグ」大公國ノ政府ノ承認ノ下ニ佛蘭西「ルクセンブルグ」ノ國境ヨリ「ライン」河ニ至ル河域、「ライン」河ニ就テハ瑞西國政府ノ承認ノ下ニ「バール」ヨリ「ゴンスタンス」湖ニ至ル河域、「ライン」河及「モーゼル」河改良聯絡等ノ爲開鑿セラレタル平行ノ運

河溝渠並條約ニ依リテ規定セラレタル「ライン」河ノ他ノ河域ニ就テモ管轄權ヲ擴張スルコトニ對シテ異議ヲ提出セサルコト

七、獨逸國政府ハ「チエック、スロー・ヴァーク」共和國ニ對シテ九十九年ノ間「ステッテン」及「ハンブルグ」ノ自由區域ヲ租貸スヘキコト其地域ノ限界管理使用條件借地料等ニ關シテハ獨逸國「チエック、スロー・ヴァーク」共和國、大不列顛國各一名ノ代表者ヨリ成ル委員會ニ依リテ之ヲ決定スヘキコトヲ規定シ

### 第三章鐵道ノ章下ニハ

一、聯合諸國ノ貨物ハ敵國ノ鐵道ニ依リテ露國ヲ通過スル場合其ノ諸掛ニ對シテハ敵國ノ各鐵道ニ依リ運送セラルル同種ノ貨物ニ適用セラルル最(不明)ノ取扱ヲ受クヘキコト

二、敵國ハ聯合諸國ニ所屬スル線路ニ於テ貨物ヲ誘導シ得ヘキ器具ヲ具備スル車輛ヲ買入レ且ツ敵國ノ線路ニ於テ同貨物ヲ貨車ニ積ミ込ミ得ヘキ車輛ヲ備フヘキコト

四、獨逸國ハ「チエック、スロー・ヴァーク」共和國ト「アドリアチック」海トノ自由交通ノ爲メ「ブレスフルグ」ヨリ「モーラ、バースチュル」Maura-Paresztrurヲ通過シ「フューネ」ニ至ル線路及ヒ「モーラ、バレスチュル」Maura-Paresztrurヨリ「ブラグル」Pragerhofニ對シタル支線「ブジユリス」Budurusヨリ「リンツ」Linzヲ通過シ「トリエスト」ニ至ル線路「クラゲンフルト」Klagenfurtヨリ「タルピオ」Tarvioニ至ル支線ニ於テハ同共和國ノ列車ノ通過ヲ承認スヘキコトヲ規定シ

### 第四章爭議ノ決定及修正ノ章下ニハ

本議定條款ノ解釋適用ニ關シテハ利害關係國間ニ爭議ヲ生シタル場合ニハ國際聯盟ハ規定スル條款ニ依リテ之ヲ決定スルコト又國際聯盟ハ本條款ノ修正ヲ勸奨スルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ

## ○交通委員會第二十二次會合

一、日 時 四月六日午前

## 一、内 容 最高會議へノ報告文案決議

決議済約款案ト共ニ最高會議ニ提出スヘキ報告文案ヲ決議シ多少ノ修正ヲ加ヘテ可決ス依テ既ニ報告済ノ四個ノ一般的協約案（即自由通過、國際港、國際河川及國際鐵道ニ關スル協約案）調査準備ノ時日ヲ各國委員ニ與フル爲メ四月二十四日迄休會ノ筈

## ◎附 記 講和豫備條約插入約款案ノ提出

交通委員會ハ四月五日ヲ以テ講和豫備條約ニ插入スヘキ約款案全部ヲ議了シタルカ右約款案ハ四章六十一條ヨリ成リ之迄逐次報告シタル各種問題ノ約款案ヲ總括シタルモノニシテ同委員會ノ構成及成績等ヲ記述シタル報告書ト共ニ七日最高會議ニ之ヲ提出セリ本月二十四日ヨリ委員會ヲ再開シ先ツ講和條約ニ依リ主權若クハ行政權ヲ移轉スヘキ地域内在ニル港、河川、鐵道ノ問題ヲ審議シ次テ自由通過、港及河川、鐵道ニ關スル四箇ヲ一般的約約ノ討議ニ移ル筈ナリ

## ◎追補（四月十三日巴里發電）

## （一）國際港ニ關スル件

國際港ニ關スル一般的約約第三條（講和調書其四第九〇頁參照）ニ於テ沿岸貿易ニ關シテハ（不明）港ヲ其ノ所屬國ニ於テ普通港ト同一ニ見做シ得ヘキコトヲ規定シ居ルニ付帝國委員ハ國際港ハ通商貿易ノ精神ニ基ク新制度ナルコトヲ理由トシテ二國際港間及國際港ト普通港間ニ於ケル沿岸貿易ノ相互的開放ヲ主張スル積リナルモ今日迄ノ情勢ニ照ラシ奏功ノ見込ミナシト豫測セラル

## （二）青島及山東鐵道ニ關スル支那側ノ底意

交通委員會ニ於ル支那側ノ態度並英國委員ノ内話等ヨリ推察スルニ支那ハ青島及山東鐵道ヲ國際制度ノ下ニ置クノ提議ヲ爲サムトノ底意ヲ有スルモノノ如ク且支那側ニ於テハ右提議ニ付米國側ノ支持ヲ負フコト或ハ何等詰合ヲ着ケ居ルニハ非スマトモ疑ハル節ナキニ非ス旁本問題ヲ交通委員會ニ於テ討議スルハ我方ニ取り極メテ不利ト思考セラルニ付愈々斯ル提議出ツルニ際シ青島問題カ未タ最高會議ニ於テ一般的の決定ヲ經ナル場合ニハ右ノ事情ニ鑑ミ同委員會ニ於テ事件ヲ討議スルハ其ノ當ヲ得ストノ主張ヲ爲シ一方英佛トモ努メテ聯絡ヲ取リ我カ主張ヲ支持セシムル様盡力スル賦ナリ

## 財政委員會附賠償財政聯合委員會

### ○新財政委員會第一分科會第十次會合

一、日 時 四月二日

一、出席者 森、菊地兩委員

一、議 長 森委員

一、内 容

#### 甲、戦前債務決済問題(經濟委員會トノ聯絡)

議長ハ戦前債務決済ノ問題ニ付經濟委員會ト共同審議ノ任ニ當ルヘキ本委員會ノ代表者米佛伊及希臘ノ四國委員ハ至急佛國商務大臣ヲ經由シ經濟委員會當該分科會ト聯絡ヲ講スヘキ旨ヲ命ス

#### 乙、起草委員會ノ修正案及追加案審議(承前)

##### (一) 第九條修正案附議

前回懸案トナレル第九條ノ修正案ヲ議ス(前調書第九七頁(七)参照)

##### (イ) 修正案ノ内容

第九條「一九一四年八月一日前獨逸帝國政府並獨逸各聯邦政府ノ發行セル公債並同日前此等政府ノ保證ノ下ニ獨逸地方團體並會社ノ發行セル公債社債ヲ所持スル聯合諸國並中立國々民ハ此等債權ノ利拂ヒ並債務ニ關シ同一公債ノ他ノ所持者ニ對シ優先權ヲ取得スヘシ但當事者ニ於テ此等ノ證券カ一九一四年八月一日前ニ聯合國並中立國民ノ資產タリシコトヲ證明スルコトヲ要ス國際財政委員會ハ斯ノ如キ所有權所在ニ關スル證據ノ提出セラレタル場合ニ之ヲ受領シ且本案ニ規定スル條項ヲ實行スルニ必要ナル一切ノ方法ヲ執ルヘシ」

選擇案トシテ提出セラレタル第九條別案左ノ如シ

「一九一四年八月一日前獨逸帝國並其ノ聯邦ノ政府ニヨリ發行セラレタル公債社債ノ所有者ハ一九一四年八月一日以後ニ發行セラレタル同種ノ一切ノ公債社債ノ所持者ニ對シ優先權ヲ取得ス」

(ロ) 採決

討論ノ結果議長ハ左ノ順序ニ於テ採決ス

- 一、第九條兩案ヲ共ニ削除スルノ可否、削除説ハ英、米、日、伊四國其他ハ削除ヲ否トス
- 二、第二案即チ選擇案ハ賛成者ナシ
- 三、第一案ノ賛成者ハ佛、白、希臘、塞爾、波蘭
- 四、第二案ニ對スル修正説

羅馬尼委員ハ左ノ修正説ヲ提出ス

(A) 優先權取得者ノ範圍ヨリ中立國々民ヲ除クコト

(B) 千九百十四年八月一日前發行ヲ各國トモ戰前ノ發行トスルコト

(ハ) 解決延期

各修正説提出ニ付テハ尙考究スヘキ點アリシヲ以テ本條ノ解決ヲ再ヒ延期ス

(二) 追加案第十條附議

(イ) 内容

〔講和條約ヨリ發生スル獨立政府ノ金錢債務ノ仕拂ハ凡テ柏林支拂ノ金貨(馬克)、倫敦支拂ノ金貨(磅)、紐育支拂ノ米國金貨(弗)及巴里支拂ノ金貨(法)ヲ以テス可シ債權者ハ其ノ任意ヲ以テ之等ノ貨幣中隨意選擇スルコトヲ得

本條ノ目的ノ爲ニハ右貨幣ハ互ニ千九百十四年八月一日ニ於ケル法定重量並品位タルモノト定ム

(ロ) 論議

- 之ニ對シ伊國委員ハ羅馬拂「リラ」ノ追加ヲ主張セルモ
- 議長ハ之ヲ容ル、時ハ其ノ例ニ倣フモノ續出ス可シ依テ何人モ異論ナカルヘキ磅並弗ノ二種ニ限局スルヲ可トスヘシト提議ス
- 佛國委員之ニ反對シ法ノ維持ヲ主張シ
- 英國委員ハ議長提議ニ賛成ス
- 菊地委員ハ聯合國ヲシテ多數貨幣中隨時選定セシムル時ハ敵國ニ對シ支拂資金準備上過重ノ負擔ヲ謀スル結果トナルヲ恐レ又事實トシテ大部分ノ決済ハ倫敦及紐育ヲ以テ足ル可シ依テ公平並實際ノ見地ヨリ議長ノ提議ニ賛成スト述フ
- (ハ) 本條亦未決ノ儘ニテ散會ス

○新財政委員會第一分科會第十一次會合

一、日 時 四月三日

一、出席者 森、菊地委員

一、議 長 森委員

甲、第十條伊佛修正案可決

第十條 伊佛國委員ハ修正案ヲ提出シ可決シタル處左ノ通

「講和條約ヨリ發生スル獨逸政府ノ債務ノ支拂ハ別段ノ規定無キ限り總テ金馬克ヲ以テ表示セラルヘシ各支拂期ノ前

合理的の期間内ニ聯合國財政委員會ハ獨逸政府ニ對シ當該支拂國ニ於テ聯合諸國ニ支拂フヘキ貨幣ヲ通告スヘシ獨逸ノ支拂フヘキ金貨馬克ト右通告セラレタル貨幣トノ爲替ハ一九一四年一月一日現在法定重量並品位ニ依テ計算セル

當該貨幣ノ平價ニ依リ決定スヘシ復興又ハ新興セル國ニ關シテハ其ノ貨幣ノ金ノ重量並品位ハ聯合國財政委員會ノ承認ノ留保ノ下ニ將來決定セラルヘキ新貨幣ノ法定重量並品位ニ依ルモノトス」

## 乙、諸問題回答案第二讀會

### (二) 獨國債務辨済順位問題

之ヨリ本分科會第一問題ノ回答案即チ第一條乃至第四條(三月二十二日本分科會記事參照)ノ第二讀會ニ移リ第二條請求權ノ順位ニ關スル各國ノ意見(三月二十四日本分科會記事乙、參照)ヲ備考トシテ附記スルコトシ可決ス

### (二) 割讓地ト獨逸公債トノ關係及割讓地内官有財產ノ處分

次ニ第二問題割讓地ト獨逸公債トノ關係及割讓地内ニ於ケル官有財產ノ處分即チ第一條乃至第四條(三月二十四日本分科會記事甲參照)ノ第二讀會ヲ開キ曩ニ日本委員ニ於テ第四條全部削除ヲ贊成スル際「歐洲ニ於ケル」ノ文字削除ニハ反對ナリトノ留保ニ關シ英國委員ハ此處ニ日本委員ニ贊成ノ動議ヲ提出シ採決ノ結果日、英、米國ノ贊成アリシヲ以テ之ヲ備考ニ附記シ其ノ他ハ既決議ノ通可決ス

### (三) 第七、八、九次本分科會決議條項

終リニ本分科會三月二十六日第七次、三月二十七日第八次、三月三十一日第九次

會合決議第一條乃至第八條ノ第二讀會ニ移リ

(A) 英國委員ハ第一條財政經濟上ノ國際機關ヨリ獨逸ノ代表權ヲ排除スル規定ハ支那ニ於ケル場合ハ或ハ其ノ規定ヲ今一層廣クスルノ必要アルヤモ知レサル故暫ク留保スヘキヲ議了(?)

### ○新財政委員會第三三次會合

(B) 第七條第一項第四、要求期間六ヶ月内ヲ一年ニ訂正  
(C) 其ノ他既揭ノ通可決

一、日 時

四月五日

一、出席者

森、菊地兩委員

一、内 容

### 甲、第一分科會及第四分科會報告附議

#### (一) 議長ノ宣言

議長ハ第一分科會及第四分科會ヨリ報告ヲ受領セルヲ以テ本日本委員會ニ附議シ確定案トナシ四月七日最高會議ニ提出スヘシト宣言ス

#### (二) 第一分科會報告附議

第一分科會報告ヲ附議ス此ノ報告ハ第一分科會議十一回マテ審議可決ノ條項ヲ以テ内容トシ左ノ諸點ヲ除ク外凡テ既揭ノ原案ノ通り可決ス

一、第二條及第三條(三月二十六日第一分科會記事甲參照)ハ賠償委員會ト交渉中ニテ留保アリタルモ其ノ交渉未了ノ爲今回ノ報告中ヨリ削除ス

二、第四條第三項(A)ヲ左ノ如ク修正ス

「獨逸政府ハ獨逸ヨリ塊洪國政府ニ對スル貸附ニ關聯シ擔保又ハ再擔保トシテ獨逸帝國銀行ニ移轉セラレタル金ヲ本條約調印ヨリ一箇月以内ニ聯合國ニ引渡スコトヲ約ス」

三、第七條第一項「公共企業」ノ次ニ「若クハ利權」ヲ插入ス

四、第九條ハ英米日伊四國ハ本條全部ノ削除ヲ主張セル旨ヲ附記シテ承認シ羅馬尼委員ノ修正説ハ撤回ス（本分科會四月二日ノ記事参照）

五、四月三日ノ本分科會（甲）ヲ以テ可決セル佛國修正案ハ理論上並實行上ノ瑕疪アルヲ以テ之ヲ削除シ四月二日本分科會（乙）ノ（二）第十條ヲ復活シテ之ニ代ヘムコトヲ提議ス而シテ伊太利委員ハ第十回會議ニ於ケル「リラ」ヲ追加セムトスル修正意見ヲ固執セサル旨ヲ述ヘタリ

然レトモ森委員ハ右第十條ハ依然トシテ支拂資金準備上ノ缺點ヲ有ス佛國修正案（脱）幣中選擇ヲナスコトヲ得ト爲サムコトヲ提議ス

佛國委員亦之ニ贊同シタルニ付森委員モ報告日時切迫ノ事情ニ鑑ミ讓歩シテ其ノ反對意見ヲ撤回ス依リテ英國委員ノ修正説可決セラル

### （三）第四分科會報告附議（國際聯盟財政部權能）

第四分科會報告ヲ附議ス本報告ハ第四分科會第三回會議迄ニ審議セル國聯盟財政部ノ機能ヲ其ノ內容トス本委員會ハ文面上ノ修正ヲ加ヘテ之ヲ可決ス

### 乙、戰前債務決済問題

戰前債務決済ノ問題ハ經濟委員會トノ聯合委員會ニ一任シ本委員會ニテ再議ノ必要ナキコトトセリ（三月十五日新財政委員會第一次會合參照）

丙、以上本日ノ決議ヲ以テ獨逸トノ講和條件案ハ一先ツ終了セルヲ以テ追テ通報アル迄休會トナレリ

### ○財政委員會總會報告

四月五日財政委員會第三回總會ニ於テ可決シ四月七日最高會議ニ提出シタル總會報告大要ハ前掲屢次ノ報告ノ通リナルモ尙條文ノ整理、文句ノ修正等多少ノ變更アルニ付茲ニ其ノ全文ヲ掲クレハ左ノ如シ（四月十七日巴里發電報ニ依ル）

委員會ハ此等條項ヲ挿入スヘキ條約ノ他ノ部分トノ關係ヲ特ニ考量スヘキコトヲ注意シテ此等附錄ヲ條約起草委員會ニ送附有ラムコドヲ建議ス

財政委員會ハ獨逸トノ豫備條約中ニ挿入スヘキ財政條項案ニ付キ審議セル結果ヲ附錄A及ヒBトシテ提出ス此等務項中或モノハ満場一致ニテ採用セラレタリ斯ル場合ニハ其條項ニ對シテハ何等ノ備考又ハ説明ヲ附セス委員會ニ於テ満場一致ヲ得ルコト能ハサリシトキハ委員會ノ審議ヲ經タル條文トシテ之ヲ掲ケ該案ニ對スル各國ノ意見ヲ備考ニ附記セリ之レ最高會議ノ希望スル議事方法ト信シタレハナリ

### 附 錄 （A） 第一分科會提出

第一條 獨逸トノ講和條約ニ於テハ豫備條約又ハ追加條約ハ休戰中獨逸ト聯合諸國トノ間ニ締結シタル協定ニ依リ發生セル賠償其ノ他一切ノ負擔ヲ支辨セシムル爲獨逸帝國及ヒ其聯邦ノ一切ノ資產及ヒ收入ニ對シ第一順位ノ先取權ヲ設定スヘシ

前項ニ依リテ設定セラレタル第一順位ノ先取權ハ講和條約締結以後ニ於テ獨逸帝國管理權ノ下ニ在ルヘキ人民（自然人及ヒ法人）ノ資產及ヒ收入ニモ及フモノトス

第二條第一項 前條ニ依リテ設定セラレタル取先權ハ第二項ノ留保ヲ條件トシ左ノ順位ヲ以テスヘシ

（A） 休戰中ニ於ケル聯合國占領軍ノ（維持ニ關スル）總經費

（B） 講和條約調印後ニ於ケル占領軍ノ（維持ニ關スル）總經費

（C） 休戰條約豫備條約若ハ追加條約ニ依リテ決定セラルル賠償金總額

（D） 休戰條約豫備條約若ハ追款（？）スルニ至ル其ノ他一切ノ債務

第二項 休戰中ノ協定ニ基ク獨逸ニ對スル供給ニ要シタル費用ノ支辨ニ付ラハ最高經濟會議ノ決定シ又ハ決定スヘキ程度及條件ヲ以テ優先權ヲ保有ス

備考「總經費」ニ贊成セルハ米、英、日（委員總計六名）「維持ニ關スル總經費」ニ贊成セルハ佛、伊、波蘭、白耳義、羅馬尼、希臘、塞比亞、「チエツク、スローヴアツク」（委員總計十名）

優先權ノ順位ニ關スル投票ニ於テ前掲A、B、C、Dノ順位ニ贊成セルハ米、英、佛、日本及希臘（委員總計九名）C、A、B、Dノ順位ニ贊成セルハ伊國、白耳義、波蘭、羅馬尼、塞比亞、「チエツク、スローヴアツク」（委員總計七名）

第三條 前各條ノ規定ハ講和條約調印ノ日ニ於テ聯合國ノ權内ニ在ルヘキ敵國ノ資產ヲ處分スルコトヲ得ヘキ各聯合國ノ權利ヲ妨クルコトナシ

第四條 前各條ノ規定ハ聯合諸國カ夫々獨逸ト開戦シタル以前ニ於テ獨逸帝國其聯邦又ハ獨逸人民カ當時所有セル財產ニ對シ聯合國又ハ其ノ人民ノ爲ニ適法ニ設定シタル擔保ヲ害スルコトナシ

備考 米國ハ投票權ヲ棄棄セリ其ノ他委員ニ付テハ全會一致可決セリ

第五條 第一項、獨逸領土ノ割譲ヲ受クヘキ聯合諸國ハ第二條ニ定ムル特例ヲ別トシテ左記各號ノ支拂義務ヲ引受クルモノトス

（一）一千九百十四年八月一日現在ノ獨逸帝國公債中千九百十一年、千九百十二年、千九百十三年ノ三會計年度平均ニ依リ全帝國ノ收入額ニ對スル當該割譲地ノ收入額ノ割合ヲ以テ按分シタル額

本號ノ收入額ノ範圍ハ割譲地ノ比較的支拂ノ（不明）公平ニ表示スルモノトシテ國際財政委員ノ認ムル處ニ依ル

（二）一千九百十四年八月一日現在ニ於ケル當該割譲地所屬聯邦ノ公債中前號ノ方法ニ依リ按分シタル額  
第二項 右各號ノ按分額ハ國際財政委員會ニ於テ之ヲ査定スヘシ而シテ償却ニ依リテ公債ノ總負擔額カ減少シタルト  
キハ其ノ割合ニ應シテ時ニ減額セラルモノトス

備考 米國、英國、日本及希臘ハ本條冒頭ニ「歐洲ニ於ケル」ノ文字ヲ插入スルコトヲ希望セリ

第六條 千八百七十一年獨逸ハ佛國公債ノ引受ヲ全然拒絶シタルノ事情ニ鑑ミ佛國ハ「アルサス、ローレン」ニ就テハ

### 第一條ノ支拂義務ヲ免ルヘシ

唯波蘭ノ場合ニ於テハ國際財政委員會ノ意見ニ依リ波蘭殖民計畫トシテ獨逸及普魯西政府ノ探レル方策ニ由來スルモノト認メラルヘキ公債ノ處分ハ第一條ノ算定額中ヨリ除外スヘシ

第七條 獨逸領土ノ割譲ヲ受クル國ハ其ノ領土内ニ存スル獨逸帝國政府及聯邦ノ一切ノ財產ヲ取得スヘク之カ爲ニ割譲國ニ對シテ支拂ヲナシ若ハ其ノ貸方勘定ニ計上スルカ如キ義務ヲ負フコトナカルヘシ

備考 佛國、日本、白耳義、希臘、波蘭、羅馬尼、塞爾比、「チエツク、スローヴアツク」（合計十委員）ハ依然トシテ獨逸ニ對スル何等ノ支拂義務ヲ負フコトナカルヘシトノ說ヲ主張シ米國英國及伊國（合計六委員）ハ其ノ削除ヲ主張セリ

第八條 備考ニ關シテハ第八條トシテ左ノ規定ヲ設クルコトヲ希望セリ

歐洲以外ニ於ケル獨逸帝國ノ領土又ハ屬國ニ對シテ責任ヲ有スルニ至ルヘキ聯合諸國ハ帝國債タルト地方債タルトヲ問ハス何等公債ニ關スル義務ヲ負擔スルコトナカルヘシ

第九條 獨逸政府ハ聯合諸國、奧匈國、勃牙利、土耳其又ハ是等諸國ノ屬領若ハ前露西亞帝國ニ於テ監督權又ハ行政權ヲ行使シ其ノ他活動ヲナス委員（コンミッショニ）、國立銀行、代理（エーベンシース）、其ノ他國際的性質ヲ有スル各種ノ財政經濟上ノ機關ニ關シ條約協約又ハ協定等ニ依リ自己又ハ其ノ國民ニ附與セラレタル代理權一切ヲ放棄スヘシ  
備考 英國及日本ハ特ニ支那ニ關シ後日本條ノ範圍ヲ擴張スル修正案提出ノ權利ヲ留保ス

第十條 （一）獨逸政府ハ土耳其政府紙幣第二回及其後ノ發行ニ對スル保證トシテ土耳其公債管理評議會（The Council of Administration of the Ottoman Public Debts）ノ名ニ於テ帝國銀行ニ預託セラレタル正金ヲ本條約調印ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ聯合諸國ノ指定スル當局者ニ引渡スコトヲ約束ス  
（二）獨逸政府ハ土耳其政府紙幣第一回發行ニ對スル保證トシテ土耳其公債管理評議會ノ名ニ於テ時々預託セラレタル獨逸大藏省證券ニ規定セラレタル正金ヲ以テスル支拂義務ヲ十二年以内ニ毎年履行スルノ義務ヲ承認ス

(三) 獨逸政府ハ一九一五年五月五日ノ協定ニ依リ土耳其公債管理評議會ヨリ土耳古政府ニ對スル貸付金ノ殘額トシ

テ帝國銀行ニ預金セル金ヲ本條約調印ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ聯合國ノ指定スル當局者ニ引渡スコトヲ約ス  
送附セル金銀ノ額ニ對シ有スル權利ヲ聯合諸國ニ移轉スルコトヲ約ス

(四) 獨逸政府ハ一九一九年五月支拂ハルヘキ土耳其内國公債元利償還資金トシテ一九一八年十一月土耳古大藏省ニ

タル金ヲ本條約調印ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ聯合國ニ引渡スコトヲ約ス

(五) 獨逸政府ハ獨逸銀行團ノ埃匈國政府ニ對スル貸附金ニ關聯シ擔保又ハ再擔保トシテ獨逸帝國銀行ニ移轉セラレ

タル金ヲ本條約調印ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ聯合國ニ引渡スコトヲ約ス

(六) 獨逸政府ハ一九一八年十一月十一日ノ休戰條約第十五條ニ掲ケラレタル「アカレスト」條約及「ブレスト、リトヴィスク」條約及其ノ追加條約ニ於テ獲得セル利益ノ放棄ヲ確認ス

獨逸(脱)一九一四年八月一日以來他ノ諸國又ハ國民殊ニ波蘭、芬蘭及「バルチツク」諸邦トノ間ニ締結シタル條約ニ

依リ獲得セル一切ノ利益ヲ放棄スヘシ  
獨逸政府ハ前記諸條約ニ依リ受領シタル一切ノ現金手形其ノ他ノ有價證券又ハ物品ヲ羅馬尼政府又ハ聯合諸國ニ引

渡スヘシ

(七) 本案ニ依レハ交付セラレ又ハ支拂ハル可キ現金有價證券及一切ノ物品ハ將來聯合諸國ノ決定スヘキ方法ニ從テ  
聯合諸國之ヲ處分スルモノトス

第十一條 休戰條約財政條項ニ違背シ獨逸政府又ハ獨逸人民ノ爲シタル財產ノ讓渡又ハ質入ハ無效トス之ニ依リテ生シ  
タル損害ニ付テハ獨逸政府其ノ責ニ任ス可キモノトス

備考 本條ノ維持ニ贊成セルハ佛、塞耳比、「チエツク」、波蘭、希臘、羅馬尼、(合計七委員)本條全部ノ削除ニ贊成セ  
ルハ米、日、英、白、伊(九委員)

第十二條 聯合諸國ノ人民ハ本條約調印後ニ於テ對人的タルト對物的タルトヲ問ハス獨逸ニ於テ差別的租稅又ハ公課ヲ

渡スヘシ

賦課セラルルコトナシ又獨逸人民一般ニ適用セラレサル法令又ハ行政處分ニ依リ何等ノ負擔又ハ制限ヲ加ヘラルコト  
ナカル可シ

第十三條 本條約調印ヨリ一年以内ニ於テ關係聯合國ハ何レモ獨逸政府ニ對シ獨逸及其ノ同盟國カ聯合國ニ割譲スル領

土内ニ於テ公共起業權ニ付獨逸國民ノ權利及利益ヲ獨逸政府ニ於テ取得スヘキコトヲ要求シ且右要求後六ヶ月以内ニ  
斯ノ如キ權利及利益ノ一切ヲ聯合諸國ニ引渡スコトヲ要求スルコトヲ得

獨逸政府ハ前項ニ依リ權利ヲ失ヒタル其ノ國民ニ賠償ヲ責任ヲ負フヘシ而シテ聯合諸國ハ該賠償ヲ支拂ハレタル殘額

ヲ獨逸政府ノ勘定ニ計上スヘシ但シ各場合ニ於テ支拂ハレタル額ニ付キ聯合國ノ承認アルコトヲ條件トシ且其ノ範圍  
内ニ限ル

第十四條 獨逸政府ハ埃匈國、勃牙利、土耳其ノ諸政府ニ對シ有スル支拂又ハ債還ノ請求權殊ニ戰時中此等ノ諸國ト締  
結セル契約ノ履行ノ結果トシテ現在又ハ將來發生スヘキ請求權ヲ總テ聯合諸國ニ移轉スル義務ヲ負フヘシ

備考 「チエツク」委員カ本問ニ關シ覺書ヲ提出スルコトヲ留保セル外滿場一致ニテ可決ス

第十五條 一九一四年八月一日前、獨逸帝國政府並獨逸各聯邦政府ノ發行セル公債並同日前之等政府ノ保證ノ下ニ獨逸

團體並會社ノ發行セル公債社債ヲ所持スル聯合諸國並中立國民ハ此等公債ノ利拂並償還ニ關シ同一公債ノ他ノ所持者  
ニ對シ優先權ヲ取得スヘシ但當事者ニ於テ之等ノ證券カ一九一四年八月一日前ニ聯合國並中立國々民ノ資產タリシコ

トヲ證明スルコトヲ要ス國際財政委員會ハ斯ノ如キ所有權所在ニ關スル證據ノ提出セラレタル場合ニ之ヲ受領シ且本  
條ニ規定スル條項ヲ實行スルニ必要ナル一切ノ方法ヲ執ルヘシ

備考 本條贊成國ハ佛、白、希臘、波蘭、羅馬尼、塞爾比、「チエツク」合計八委員本條全部ノ削除ヲ主張セルハ米、  
日、英、伊國合計八委員

第十六條 講和條約ニ依リ發生スル獨逸政府ノ金錢債務ノ支拂ハ總テ柏林ノ金貨馬克倫敦支拂ノ金貨磅紐育支拂ノ金貨

弗及巴里支拂ノ金貨法ヲ以テスヘシ

債權者ハ各支拂期ニ於テ充分ナル豫告期間ヲ置キテ之等ノ金貨中選擇ヲ爲スコトヲ得

本條ノ目的ノ爲ミニハ右各貨幣ハ互ニ一九一四年一月一日現在ノ法定重量並品位タルモノト定ム

(一) 國際聯盟ノ執行委員會ニ對シ若ハ海陸軍部ヲ包括スル聯盟ノ總會ニ對シ財政部ニ諮詢アリタル財政問題ニ付助言ヲ爲ス

伊國委員ハ巴里ノ語ノ次ニ羅馬拂金貨「ソラ」ヲ附加スヘキコトヲ希望セリ

#### 附錄(B)第四分科會提出

財政委員會ハ國際聯盟ノ中央財政部設置ノ主義ヲ採用シ且ツ其ノ機能ハ左ノ如クナルヘキヲ審議セリ

(二) 國際聯盟ノ執行委員會ニ對シ若ハ海陸軍部ヲ包括スル聯盟ノ總會ニ對シ財政部ニ諮詢アリタル財政問題ニ付助言

ヲ爲ス

國際聯盟ハ原則トシテ財政部ノ意見ヲ徵スヘシ然レトモ例外ノ場合ニ於テハ聯盟ハ自ラ進ンテ行フノ餘地ヲ有スヘキ

モノトス

(二) 國際聯盟ノ注意ヲ喚起スルコト必要ナリト認ムル財政問題ヲ調査シ之ニ關シ聯盟ノ執行委員會ニ建議ス

(三) 國際爭議ニ付生スル財政問題ノ場合ニ於テハ裁判所ニ提出スル爲決定ノ目的タルヘキ要點ヲ起草ス

備考 財政部ハ獨リ法律上ノ手續ニ關シ助言ヲ與フルニ止マラス裁判所ニ對シ和解ヲ建議スルノ權限ヲ附與セラル

コトヲ希望ス

(四) 國際聯盟ニ於テ國際財政委員會ヲ設置スルコトヲ決定セル場合ニハ該委員會ヲ指名シ且ツ聯盟ノ命スル所ニ從ヒ

之ヲ監督ス

(五) 國際的利害關係ヲ有スル財政問題ノ討議ノタメ國際會議ヲ召集ス此會議ニハ聯盟ニ屬セサル國家ノ代表者モ參加

セシムルコト有ルヘシ

(六) 其他聯盟ニ於テ委員會ニ附與セラルヘキ一切ノ權限若ハ機能ヲ行フ

### ○新財政委員會第四分科會第四次會合

一、日 時 四月十二日

一、出席者

日本側ヨリ深井、巽兩委員

一、內容 第一次會合報告中甲ノ(1)(2)(3)（講和調書其五第九七頁參照）並之ニ關聯セル佛國提案附議

右佛國提案ハ敵國ヲシテ戰費ノ賠償ヲ爲サシメサルコトニ決定シタル場合ニ對スル豫備的考考ニシテ聯合國ノ戰爭ニ因ル經費ヲ諸國共同負擔トシ之カ爲ニ共同管理局ヲ設ケ決済期間中右各國ニ於テ一律ノ生產稅郵便電信電話並旅行稅(?)ヲ課シ（稅率ハ課稅課目ニヨリ一分又ハ五厘トス）敵國ニ於テハ三倍ノ稅率ヲ以テ同種ノ稅ヲ課セシメ以上諸稅收入總額ヲ國際聯盟財政部ニテ認メタル各國戰費ノ額ニ比例シ聯合國與國及中立國ニ分配セムトスルニ在リ英米ハ其ノ審議ヲ好マス結局以上ノ諸問題ハ豫備條約決定後延期スルコトナレリ

### ○賠償財政聯合委員會

（四月二十七日巴里發電）

聯合國領土（被占領地及割讓セラルヘキ地域）内ニ流通スル敵國貨幣ノ問題考究ノ爲賠償財政兩委員會ノ代表者ヨリ成ル聯合委員會組織セラレ森委員長ニ推サレ三月二十九日ヨリ四月十四日迄ノ間ニ六回ノ會議ヲ重ね決議セル處左ノ

**甲、被占領地及割譲地ニ於ル敵國貨幣問題**

(以下括弧内數字ハ各門ヲ通シテノ番號ナリ)

**第一門、敵國ノ爲メ一時占領セラレタル地域ニ流通スル敵國貨幣**

(一) 諸敵國ハ聯合國被占領地域住民(公私人)若クハ俘虜及被拘禁非軍人ノ所持スル敵國貨幣、徵發證券其ノ他一般ニ敵國貨幣ヲ以テ表示シタル「クレディット」ヲ關係聯合國ノ選擇スル處ニ從ヒ磅、法又ハ弗ヲ以テ金ノ評價若クハ夫レ以上當初敵國ノ課シタルト同一率ニ依リ償却スルノ義務ヲ負フヘシ

**備考** 本項ニ付伊太利委員ハ左ノ留保ヲナス

(A) 敵ノ支拂ニ使用スヘキ貨幣中ニ「リラ」ヲ加フルコト

(B) 聯合委員會ハ貨幣以外廣タ「クレディット」ニ關スル調査ノ使命ヲ有セサルコト

(1) 敵國カ強制的ニ流通セシタル貨幣ノ總額ヲ聯合國ニ於テ回収スル爲ニ要シタル一切ノ經費及負擔ハ敵國之ヲ償還スヘシ但シ休戰成立ノ日ヨリ前記條件ヲ以テ敵國カ償却ヲ實行スルニ至ル迄ノ間年六歩ノ利子ヲ加算スヘキモノトス

**第二門、侵略地ニテ發行セラレタル強制通用貨幣**

(II) 敵ノ占領セル聯合國領土ニ於テ特ニ其ノ目的ヲ以テ敵ノ創設シタル機關ニ依リ發行セラレタル銀行券其ノ他ノ通貨ノ額面價格ノ總額ハ敵國ニ於テ關係聯合國ノ選擇スル處ニ從ヒ磅、法又ハ弗ヲ以テ金評價ニ依リ各關係聯合國ニ償還スル義務ヲ負フヘシ但シ既ニ賠償委員會ノ採用セル原則ニ基キ他ノ種目トノ重複ヲ避クヘキモノトス

前項ノ規定ハ Cassa Veneta dei Prestiti ノ發行セル「コラ」、羅尼亞銀行 Banque Générale Roumanie ノ發行セル「ロウマ」、Li Société Générale de Belgique 部ノ發行セル白耳義「フラン」及波蘭馬克(一波蘭馬克ハ千九百十四年一月一

日ニ於ケル獨逸金貨一馬克ト同一割合トス)並ニ Ober Ost 「ルーブル」(一オーベル、オスト、ルーブルハ千九百十四年一月一日ニ於ケル獨逸金貨一馬克ト同一割合トス)ニ適用スルモノトス

**備考** 本項ニハ左ノ留保者存ス

(A) 伊太利委員ハ敵ノ支拂ニ使用スヘキ貨幣中ニ「リラ」ヲ加フルコトヲ要求ス

(B) 無國委員ハ都市ノ商業會議所發行證券ニ適用スヘキ集ヲ別ニ提出スヘキコト

(C) 白耳義委員ハ本項ニ關シ別ニ意見書ヲ提出スルコト

(D) 日本委員ハ金ノ評價ヲ以テ償還セシムルコトハ條件附ニ失ストノ意見ヲ留保ス

(四) 都市又ハ地方團體等ニ於テ形式ノ如何ヲ問ハス被占領地ニ於テ紙幣其ノ他ノ貨幣ヲ發行シ後日償却ノ爲メ其ノ紙幣ノ呈示セラル、ニ及ヒ制規ノ發行額ヲ超過スル場合ニ於テハ獨逸ハ其ノ超過額(僞造ニ係ルモノヲ含ム)ヲ償還スヘシ但獨逸法權ノ下ニアル會議所ニ於テ發行セラレタルコトヲ證明シ得ルモノニ付テハ此限ニアラス

本項ノ償還義務額決定ニ付テハ別ニ獨逸ノ償還義務ノ規定アル右貨幣ヲ以テ支拂ヒタル戰時賦課金又ハ罰金等ヲ計算ニ加フルモノトス

**備考** 本項ハ被占領地ノ地方團體及商業會議所發行證券ニ適用ス

(五) 敵國ハ塞爾比及「モンチネグロ」人民カ敵國官憲ニ對シ dinars 並 perpers ヲ以テ爲シタル支拂ノ總額ニ對シ塞爾比及黑山國ノ國定貨幣ノ名目價格ト五十「パーセント」ノ減價ヲ以テ敵ノ專斷的ニ定メタル價格トノ差額ヲ償還スル義務ヲ負フヘシ

**備考** 本邦委員ハ要償ノ理由ニ疑アルヲ以テ棄權セリ

伊太利委員亦棄權セリ

**第三門、割譲地ニ流通スル敵國貨幣**

(六) 以前敵國ノ一部タリシ地域ニシテ現ニ聯合國ニ屬スル領土ノ内ニ流通スル敵國銀行券ニ付テハ敵國ハ聯合國ニ對シ各利害關係國代表者ヨリ成ル混合委員會ノ定ムル割合ニ依リ金又ハ其ノ同價物ヲ以テ償却スル義務ヲ負フ  
備考 伊太利委員ハ權限問題ヲ理由トシ棄權セリ

其ノ他本項ニ付テハ左ノ留保ヲ伴フ

(A) 佛國委員ハ適用權限ヲ埃匈國ニ限ルヘシトス

(B) 塞爾比委員ハ第一問及第二問ノ償還權ハ本項ノ償還權ニ優先スルモノトス

(C) 本邦委員ハ償還率決定委員會ハ聯合委員會タルヘキモノト主張ス

乙、埃匈銀行ノ銀行券並羅馬尼銀行券等ニ關シ聯合國最高會議ニ對スル建議案

次ニ聯合委員會ハ各關係國ノ協議ニ基キ聯合國最高會議ニ對スル建議案ヲ左ノ通決議セリ

第一、聯合國委員會ハ左ノ事項ヲ審議セリ

(A) 埃匈銀行ハ一九一八年十月三十日舊埃國瓦解以後ニ於テ從來埃匈國ニ流通シタルト同一様式ノ銀行券ヲ不法

ニ引續キ印刷發行シタルコト

(B) 現在ニ於テハ獨リ維納ニ於テノミナラス新ニ「ブダベスト」ニ於テモ右銀行券ノ發行ヲ繼續シ居ルコト

(C) 右ノ如キ狀態ニテ一九一八年十月三十一日現在三〇、〇〇〇、〇〇〇、「クローネ」一九一九年二月末ニハ三七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇「クローネ」一九一九年二月末ニハ三七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇「クローネ」ヲ越エ今ヤ將ニ四〇、〇〇〇、〇〇〇、「ムローネ」ニ達セコトス

(D) 右銀行券ハ舊埃匈國ヨリ分離セル領土ニ侵入シ斯クシテ漸次間接ニ關係諸國ノ負擔ヲ加ヘツゝアルコト  
依テ建議スル處左ノ如シ

聯合國最高會議ハ特別緊急ノ事項トシテ左ノ目的ヲ達スルニ必要ナル一切ノ處置ヲ執ルコト

第一條 今日迄流通セルト同様ノ形式ヲ備フル埃匈銀行ノ各種銀行券ノ印刷原板ヲ維納及「ブダベスト」ニ於テ差押フルコト

第二條 埃匈銀行各種舊樣式ノ銀行券ノ印刷及發行ヲ禁止スルコト

第三條 維納及「ブダベスト」ノ埃匈銀行及其ノ支店ノ庫中及獨逸系埃匈牙利及匈牙利ノ大藏省ノ庫中ニアル印刷濟未發行ノ舊樣式ノ銀行券ヲ捺印ノ目的ヲ以テ押收シ破壊スルコト

第四條 以上各種方策ノ效果ヲ完ウスル爲メ左ノ事項ヲ監督スル聯合國委員會ヲ設置スルコト

(A) 印刷濟未發行ノ舊樣式銀行券ノ全部又ハ一部ノ捺印

(B) 獨逸系埃匈牙利ニ於ケル特種銀行券ノ印刷

第二、聯合國委員會ハ

(A) 獨逸カ羅馬尼占領中羅馬尼銀行ノ銀行券ノ形ヲ以テ總額二十二億五千萬「レイ」ヲ越エル紙幣ヲ發行セルコト  
加之其ノ帳簿ノ示ス處ニ依レハ柏林ニ於テハ一億一千一百萬「レイ」ノ印刷濟銀行券ヲ所藏スルコト(中略)ヲ考量

シ聯合國最高經濟會議ハ特別緊急事項トシテ左ノ手段ヲ執ルヘキコトヲ決議ス  
羅馬尼銀行ノ仲介ヲ以テ羅馬尼ニ於テ發行シタル銀行券ノ印刷ニ使用セラレタル圖案、寫真板、模型及原板ヲ敵國ニ於テ差押フルコト右紙幣ニ對等スル硬貨ノ鑄造ニ使用セラレタル圖案、原板、鑄造機ヲ差押ヘ尙又敵國地域ニ保藏セラル、右銀行券及硬貨ヲ差押フルコト

(B) 右羅馬尼ニ關スル建議ヲ波蘭ノ場合即チ敵國カ特ニ其目的ヲ以テ創設シタル caisses de prêts ノ發行シタルシ  
波蘭「マルク」及 Ober Ost 留之レニ對等スル硬貨ニモ準用ス

(C) 尚聯合委員會ハ敵國政府カ其ノ一時占領シタル伊太利領土内ニ於テ Cassa Veneta dei Prestiti ト稱スル一機關ヲ設立シ之レヲ通シテ銀行券ヲ發行シ該地域内ニ強制通用セシメタル事實ヲ考慮シ又埃匈銀行舊樣式銀行券及

羅馬尼銀行券ノ發行ニ使用セラル、原板ノ押收並ニ未發行券ノ差押ニ關スル建議ニ顧ミ且ツ右ハ建議實行確保ノ爲メ聯合國委員ヲ維納及「ブダベスト」ニ派遣スル事ヲ豫想スルニアリ該派遣委員ノ組織セラレタル時ハ「カツサ、ヴエネタ、デイ、プレスチチ」ノ未發行券全部ヲ差押ヘ且ツ其ノ製造用原板一切ヲ押收スルコトモ之ニ命令スヘキモノト認ム

## 經濟委員會

### ○經濟委員會

一、日 時 四月四日

#### 一、内 容 平和假條約挿入決定事項

當日ノ經濟委員會ニ於テ分科會ノ報告ヲ本トシ平和假條約中ニ挿入スヘキ事項トシテ一應ノ決定ヲ經タルモノ第九六頁以下記載ノ通リ但シ從來會議ノ經過ニ顧ミルトキハ最終決定マテニハ尙幾多ノ變更ヲ見ルコト・思考セラル

備考、獨逸ノ沿岸貿易ニ關スル件

獨逸沿岸貿易ニ關シテハ海運分科會ニ提出セラレタル英佛側原案ニ對シ日本委員ヨリ聯合國船舶カ獨逸ノ沿岸貿易ヲナシ得ル様改正案ヲ提出シ其ノ同意ヲ得タル處其ノ後英國委員ヨリ右特權ハ一定年限ノ後獨逸ヨリ相互的待遇ヲ要求セラル、虞アルヲ以テ其ノ際之ヲ削除スルニ便ナラシムル爲獨立ノ一ヶ條トナスコトヲ主張シ左ノ提案ヲナセリ

Ships and boats of Allied and Associated states shall be entitled to carry passengers and goods and engages in towage between (既) or more ports in Germany and in this traffic shall enjoy all the rights and privileges enumerated in Article I hereof

Article I hereof

其後經濟委員總會ニ於テ英米委員ヨリ沿岸貿易ニ對シテハ各(股)ハ之ヲ自國船ニ保留シ居ルヲ以テ獨逸ニ片務的ニ其開放ヲ強フルハ妥當ヲ缺クノ嫌アリトシ討議ノ末左記條文(B) (Shipping) 中 Art. III. ノ條約案ニ結著シタル次第ナリ但最惠國待遇ヲ約束セシムル場合ニハ本邦船舶モ獨逸ニ於テ沿岸貿易ヲ營ミ得ルコト疑ナキモノ、如シ

## COMMERCIAL RELATIONS.

## A. Customs Duties.

## Regulations and Restrictions.

Conditions affecting commerce and industry of the Allied and Associated Powers in Germany.

1. Germany undertakes that the goods, the produce or manufacture of any one of the Allied or Associated Powers, imported into German territory as determined by the Peace Conference, from whatsoever place arriving shall not be subjected to other or higher duties or charges (including internal charges) than those to which the goods, the produce or manufacture of any other such state or of any other foreign country are subjected.

German Government will not maintain or impose any prohibition or restriction on the importation into German territory as defined above, of goods, the produce or manufacture of the territories of any one of the Allied or Associated Powers from whatsoever place arriving, which shall not equally be extended to importation of like goods, the produce or manufacture of any other such State or any other foreign country. (660)

2. Germany further undertakes that in the matter of regime applicable no discrimination against the commerce of any of the various Allied and Associated Powers shall be made, even by indirect means such as customs route or procedure, conditions of paying ? duties, tariff classification or interpretation, or operation of monopoly.
3. In all that concerns exportation, Germany undertakes that goods, the natural products or manufactured articles exported from German territory to the territories of any one of the Allied or Associated Powers shall not be

subjected to other or higher duties or charges (including internal charges) than those paid on the like goods exported to any other such state or to any other foreign country.

No prohibition or restriction shall be imposed on the exportation of any goods sent from German territory to any one of the Allied or Associated Powers which shall not equally be extended to exportation of the like goods, the natural products or manufactured articles sent to any other such state or to any other foreign country.

4. Every favour, immunity or privilege in regard to importation, exportation or transit of goods granted by Germany to any Allied or Associated Power or to any other foreign country shall immediately (?) and unconditionally, without reciprocity and without compensation, be extended to all the Allied or Associated Powers.
5. Duties and charges relating to importation into or exportation from Germany shall be without discrimination or preference, direct or indirect, based on the flag of ownership of the carrying vessel or air-craft, on the original or immediate place of departure of the vessel or air-craft, or its ultimate or intermediate destination, on whether any intermediate port through which goods are imported or exported is a German port or a port belonging to any foreign country, on the particular frontier across which they enter, or on whether they are imported or exported by sea or by land or by air.
6. (Transitory Exceptions).

- (a) By way of exception to the preceding provisions and for a period of five years from the date of ratification of the preliminaries of peace, natural or manufactured products which originate in and are imported from the territories of Alsace and of Lorraine united to France, shall, on importation into German customs territory, be except from all customs duty. French Government shall fix each year by decrees, communicated to German Government, nature and amount of products which shall enjoy this exception. Amount of each product which shall be

R2

thus sent annually into Germany shall not exceed average amounts sent annually in the years of 1911—1913.

Further, during the period referred to, Germany undertakes to allow free export from Germany and the free reimport into Germany except from all customs duties and other charges (including internal taxes) on yarn, tissue and other textile material or products of any kind and in any condition, sent from Germany into the territories of Alsace and of Lorraine to be subjected there to any finishing process, such as bleaching, dyeing, printing, mercerisation, gassing, twisting, dressing &c.

(b) During a period of one and half years from the date of the ratification of the preliminaries of peace natural or manufactured products which originate in and are imported from Polish territories which before the War were a part of Germany, shall, on importation into German customs territory, be exempt from all customs duties.

(c) The Allied and Associated Powers reserve the right to require Germany to accord freedom from customs duty on importation into German customs territory, to natural products and manufactured articles which originate in and are imported from the Grand-duchy of Luxemburg, for the period of five years from the ratification of the peace preliminaries.

The nature and amount of products which shall enjoy the benefits of this regime shall be communicated each year to the German Government.

The amount of each product which shall be thus sent annually into Germany shall not exceed the average of the amounts sent annually in the years of 1911—1913.

7. During the first six months following the ratification of the Treaty of Peace, duties imposed by the German Government on imports from the Allied and Associated Powers shall not be higher than the most favourable duties which were applied to import into Germany on July 31, 1914.

During a further period of thirty months after the expiration of the first period, this disposition shall continue to be applied exclusively with regard to products which, being comprised in section A of the first category of German customs tariff of December 25, 1902, enjoyed at the above mentioned date rates conventionalised by treaties with the Allied or Associated Powers, with the addition of all kinds of wines and vegetable oils, whether they were subject of special convention before July 31, 1914 or not.

8. The Allied and Associated Powers reserve right to apply to German territory occupied by their troops a special customs regime as regard imports and exports.

#### B. Shipping.

##### ARTICLE 1.

Ships and vessels of all kinds, belonging to the Allied or Associated States, shall enjoy in all German ports the full national treatment. In particular, ships and boats of any one of the Allied or Associated States shall be entitled to transport goods of any description and passengers to or from any ports or places in Germany, to which German ships may have access, under the conditions which shall not be more onerous than those applying in the case of the national ships, and shall be treated on a footing of equality with the national ships, as regards port and harbour facilities and charges of every description, including facilities of stationing, loading and unloading, and duties and charges of tonnage, harbour pilotage, lighthouse, quarantine and analogous duties and charges of whatsoever nature, levied in the name or for the profit of the government, public functionaries, private individuals, corporations or establishments of any kind.

Obligations imposed upon Germany by the foregoing article to accord the national treatment to the ships and

vessels of the Allied or Associated States, shall include obligation to grant to those ships and vessels treatment at least as favourable as that accorded to the ships and vessels of any other nation, and shall exclude any differential treatment, direct or indirect, to the detriment of the ships and vessels of the Allied and Associated States.

#### ARTICLE 3.

As regards fishing, coasting-trade and towage, ships and boats of the Allied and Associated States shall enjoy, even in German territorial waters, treatment accorded to the ships and boats of the most favoured nation.

#### ARTICLE 4.

German Government agree that, notwithstanding any stipulation contained in the convention relating to the North Sea fishery, all rights of inspection and police shall, in the case of fishing boats belonging to the Allied Powers, be exercised solely by ships belonging to those Powers.

#### ARTICLE 5.

In the case of ships and (不<sup>(64)</sup>国) belonging to the Allied or Associated States, all classes of certificates and documents relative to ships, which were recognized as valid by Germany before the war, or which may hereafter be recognized by Germany as valid and as equivalent to the corresponding certificates issued to German vessels (不<sup>(64)</sup>国).

Similar recognition shall be accorded to certificates and documents, issued to their ships by those governments of the new states, whether they have participated or not. Such certificates and documents will be issued in conformity with general principles observed in the principles of the maritime States.

#### ARTICLE 6.

Ships of any Allied or Associated States which have no sea coast, shall be registered at some one specified place,

situated in its territory, which place shall serve as their port; the H. C. P. agree to recognize the international validity of the flags, flown by the ships so registered.

#### C. Unfair Competition.

##### ARTICLE 1.

German Government engage themselves to take necessary legislative and administrative measures to protect produce or manufacture of any one of the Allied or Associated States from all forms of unfair competition in arbitral transactions.

German Government undertake to repress and prohibit, by seizure and by other appropriate remedies, importation, exportation or sale or offering for sale in the interior, of all goods bearing on themselves or their usual girdle or wrapping any marks, names, devices or descriptions whatsoever which are calculated to convey directly or indirectly a false indication of type, kind, nature or special characteristics of such goods.

German Government undertake to respect any laws or any administrative rules, judicial decisions given in conformity with such laws, in force in any Allied or Associated State and duly communicated to it by the proper authorities, defining or regulating right to any regional appellation in respect of wine or spirits produced (不<sup>(65)</sup>国) region belongs, or conditions under which use of any such appellation may be permitted against them, and importation, exportation, sale and offering for sale of products or articles, bearing appellation inconsistent with such law or order, shall be prohibited by the German Government by those measures, prescribed in the preceding article.

#### D. In General.

If the German Government engage in the international trade, it shall not in respect thereof (不<sup>(66)</sup>国) be deemed to

have any of the rights, privileges or immunities or all sorts.

#### ARTICLE 2.

Forgoing stipulations shall be subject to revision by the council of the League of Nations, but this revision shall not take place before the expiration of period of 5 years from the ratification of the Treaty of Peace.

### ○新經濟公會

#### 1. 政 略 國際經濟委員會

前敵國內聯合國民取扱條約案決定

當日經濟委員會ハ決定セラル前敵國內ニ於ケル聯合諸國民ハ取扱ニ關ベル條約規定案次ハ通ハ但シ本件ハ最後確定迄ニ多少ハ變更ナシテ即時アリ

(666)

#### TREATMENT OF NATIONALS OF THE ALLIED AND ASSOCIATED POWERS IN EX-ENEMY COUNTRIES

1. States which have been at war with the Allied and Associated Powers undertake.—
  - (a) Not to subject the nationals of the Allied and Associated Powers to any prohibition in regard to the exercise of occupation, profession, trade and industry which shall not be equally applicable to all aliens without exception.
  - (b) Not to subject the nationals of Allied and Associated Powers in regard to the rights referred to in paragraph (a) to any regulation or restriction which might contravene directly or indirectly the stipulations of the said paragraph, or which shall be other or more disadvantageous than those which are applicable to alien nationale of the most favoured nation.
  - (c) Not to subject the nationales of the Allied and Associated Powers, their property or interests to any charges, taxes or imposts, direct or indirect, other or higher than those which are or may be imposed on their own nationals or their goods or interests.
  - (d) Not to subject the nationals of the Allied and Associated Powers to any restriction which was not applicable to the nationals of such Powers of the 31st July, 1914.
2. The nationals of the Allied and Associated Powers shall enjoy in the territory of the States which have been at war with them a constant protection for their persons and for their property and interests.
3. The States which have been at war with the Allied and Associated States undertake to recognize any new nationality which has been or shall be acquired by their nationals under the laws of any of the Allied and Associated States, and in accordance with the decisions of the competent authorities of those states pursuant to nationalization laws or under treaty stipulations, and to regard such persons as having in consequence of acquisition of such new nationality, in all respects served their allegiance to their countries.
4. The Allied and Associated Governments may appoint consuls-general, consuls, vice-consuls, and consular-agents in the towns and ports of the states which have been at war with them. Governments of the last mentioned states undertake to approve designation of the consuls-general, consuls, vice-consuls, and consular-agents, whose names shall be notified to the said governments and to admit them to exercise their functions in the usual form.

(667)

○新 經 濟 委 員 會

(四月十日巴里來電)

一、内 容 支那ニ於ケル獨逸人ノ財產清算問題ニ關スル條約案

該條約案ハ次ノ如ク決定ス

「支那ニ於ケル獨逸人ノ財產即動產不動產ニ關スル權利ニシテ差押財產管理人支那官憲其ノ他領事館カ賣却又ハ清算ヲナシ若ハ現ニ清算中ニ係ルモノニ就キ右財產ノ買取人又ハ相續人若ハ權利繼承人ニ對シテ請求ヲナスコトヲ得ス  
右賣却又ハ清算ノ收得金ハ管理保管等一切ノ費用等ヲ控除シタル上獨逸政府ニ歸屬セシメラレ其ノ賠償金中ニ算入セラルヘシ

前項ノ規定ハ支那領土ノ全部ニ及フモノトス即外國居留地上海共同租界及北京ニ於ケル公使館區域ヲモ包含ス」

(備考) 右條約案ハ經濟委員會ニ於テ決議シタルモノナリヤ來電中ニハ何等記載ナシ

國 際 勞 勵 法 委 員 會

○國際勞勸法問題其後ノ経過

(甲) 四月一日五國外務大臣會議席上ニ於テ英國案ニ關シ牧野全權ノ爲シタル陳述

第三讀會ヲ終リタル國際勞勸法制ニ關スル協約案(英國案)ハ四月一日五國外務大臣會議ニ上リタルカ其ノ際牧野全權ハ本協約ノ本邦ニ對スル拘束ヲ出來得ルタケ少クセム目的ヲ以テ (イ)我國工業及勞勸狀態ノ特殊ナルコト (ロ)協約案ニ付我委員ノ留保セル廉アルコト及 (ハ)第十九條ニ對スル修正案ヲ提議スル積リナルコトヲ述ヘタリ

(乙) 協約案(英國案)第一二十三條乃至第三十四條及第十九條ニ關スル帝國委員ノ修正交渉

(四月十六日巴里發電ニ依ル)

協約案案第二十三條乃至第三十四條ニ關シテハ帝國ノ產業狀態カ歐米ニ於ケル根本的ニ事情ヲ異ニスルヲ以テ此等諸條適用ノ結果自然外國ト帝國トノ間ニ特ニ多數ノ國際紛爭ヲ生スルノ虞アルニ付帝國政府ニ於テハ右諸條ニ對スル同意ヲ一律留保スルカ若シ留保ノ餘地ナキ場合ニハ我國ノ勞勸立法ニ對シ他國ヨリ干涉ヲ受クル餘地無キ様修正ヲ加ヘ置カムコトヲ欲シタルカ我全權ニ於テハ既ニ協約案カ委員會ニ於テ第三讀會ヲ經タル後ナルノミナラス大體ノ形勢及英國委員トノ内相談等ニ依リテ察スルニ總會議ニ於テ右様ノ除外ヲ提議スルモ殆ント成功ノ望ナクシテ却テ他國委員ニ甚タ好マシカラサル感情ヲ與フルニ止マルヘシト觀測シタル結果寧ロ第十九條ノ規定ニ適當修正ヲ加ヘシメ同條ニ依リ我方カ蒙ルヘキ拘束ヲ充分ニ輕減シ我工業及勞勸ニ甚タシキ打擊ヲ與フルカ如キ事態ヲ生セシメサル様取計フコトニ依リテ前記ノ趣意ヲ達ス

ルノ外他ニ良法ナシト認メ此ノ方針ニ依リ豫テ我立場ニ最モ同情ヲ有セル英國委員ト前後數回ニ互リテ意見ノ交換ヲ爲シタル上最初ハ日本ノ如キ特殊ノ國柄ノ關スル限り勞働總會ノ決議ニ係ル協約ヲ批准スルニ當リ其ノ實行ヲ一定ノ期間（十年以内）猶豫スル旨ノ條件ヲ附スルコトヲ得ルコト、ナス様修正案ヲ作リ之ヲ總會ニ提出シタル場合ニ於テ大體英國委員ノ賛成ヲ得ルコトニ打合セ成リタルカ其ノ後ニ至リ英國委員ハ右ノ如キ修正ハ餘リニ甚シク協約ノ趣旨ヲ變更スルコト、ナリ其ノ通過無キニ付左記ノ如キ形式ヲ以テ單ニ猶豫期間ノミナラス其ノ他必要ナル特殊ノ條件ヲ總會ニ提議シ之ヲ採用セシムル餘地ヲ作り置キ萬一之ニ反スル決議ヲ見タル場合ニハ本國ノ議會又ハ權限アル機關ニ於テ之ヲ拒絕スルニ付法理上ハ勿論道義上充分ノ理由ヲ備フルコト、ナス方却テ有利ナルベク此ノ方法ナラハ因襲ノ關係上英國側ニテモ賛成スル所ナリトノ提議ヲナスニ至レリ

右英國委員ノ提議ハ左ノ如シ

第一、次ノ一項ヲ第十九條ニ關スル「アロトヒーメ」シテ規定スルヒュ

In framing any recommendation or draft convention of general application, conference shall have due regard to those countries in which climatic conditions, imperfect development of industrial organizations or other special circumstances make industrial conditions substantially different, and shall suggest modifications, if any, which it considers may be required to meet case of such countries.

第二、第十九條第五項中 meeting of conference ノ次<sup>6</sup>左記文句ヲ加ヘムヒュ

or if it is impossible to do so within period of one year, then at the earliest possible moment and in no case later than 18 months from the end of meeting of the conference.

依テ本邦委員ニ於テ考究ノ上右ノ外實效アル方法ナシト認メ之ニ同意シ英國委員ノ盡力ヲ依頼シタル結果英國委員ノ發議ニ依リ四月八日佛國勞働局ニ於テ日英兩國委員ノ外佛米白伊ノ委員又ハ委員代理人ヲ集メ右ノ外二三ノ修正案提議方ヲ打

合セタル處之ニ對シ今更ラスカル修正案ヲ出スハ不穩當ナリトノ反對論モ出テタレトモ英國委員本邦委員ヨリ詳細説明シタル結果漸クニシテ大體ノ同意ヲ得更ニ後述スルカ如ク四月十一日ノ總會ニ於テ他ノ修正ト共ニ英國委員ノ提案トナリテ現ハレ無事通過ヲ見ルニ至レリ

### (丙) 四月十一日ノ聯合與國總會議

一、日 時 四月十一日

(甲) 國際勞働法制常設ニ關スル協約案(英國案)ノ討議

イ、本案可決(修正案ト共ニ)

四月十一日聯合與國總會議ヲ開キ國際勞働法制常設機關設置ニ關スル協約案ヲ討議ニ附シタルカ國際勞働法委員會ノ議長タリシ米國委員「カンバース」歸國後ニ付英國委員ニシテ且全權ナル「バーンズ」ハ委員會ヲ代表シテ本案ニ關スル報告ヲ爲スト共ニ前項(乙)記載日英委員間ニ於ケル非公式ノ打合ノ結果四月八日雙方ノ同意ヲ得タル二個ノ修正案及別英國側ヨリ發案セル重要ナラサル一個ノ修正ヲ合セ共ニ議場ニ報告シ其ノ採用ヲ提議シタリ

右ニ對シテ演説討議アリタル後本案ハ修正案ト共ニ可決採用セランタリ

ロ、留保

玖馬、巴奈馬、「ボソビヤ」等ハ該案第三十七條ニ關シ留保ヲ爲シ

ハ、條文修正

又英領殖民地ハ本協約加入ニ關スル規定カ國際聯盟ノ協定ト協調ヲ保ツ様條文ノ修正方ヲ「ドラフトイング、ヨム

「ヲ」ニ委任スヘキ趣旨ノ提議ヲ爲シ採用セラル

(備考) 英領殖民地加入意思

(印度其ノ他二三英領殖民地モ本協約ニ加入スル積リナル旨ヲ其ノ全權ヨリ牧野全權ニ語レリ)

(乙) 右ノ外講和條約ニ挿入スヘキ労働條件ニ關スル九ヶ條ノ原則モ併セテ議場ニ報告セラレタルモ探決ニ至ラサリキ(本項ニ付テハ後掲記事丁、参照)

(丙) 勞働大會ヲ本年十月華盛頓ニ於テ開催スルノ件

本日ノ會議ニ於テ「ウヰルソン」大統領ハ本年十月労働大會ヲ華盛頓ニ於テ開クノ件ヲ承諾シ(講和調書其四第一〇六頁(三)ノ(イ)参照)且同時ニ總會議ハ右ニ關シテ各關係國政府ニ(脫)任命方ヲ要求スル手續ヲ事務局ヲシテ爲サシムルコト並該委員ハ直ニ其ノ事業ニ著手スルコトヲ決議シタリ  
而シテ右ニ關スル準備委員會ハ倫敦ニ於テ凡ソ六月ノ未開會シ十月ノ總會ノ五ヶ條ノ議案(前掲巴里平和會議ノ經過ニ關スル調書其四、一〇六頁(四)参照)ニ關スル各國政府ノ回答ヲ編輯スル外諸般ノ打合ヲ爲スコトトナルヘク英國ヨリハ「サー、マルコルム」佛國ヨリハ「フォンライン」白國ヨリハ「マンハイム」出席スルコトニ決定シタル趣ナリ而シテ此ノ準備ニ關シテハ先ツ四月十四日十五日佛國勞働省ニ日英米佛伊白及瑞西ノ七國代表者書合シ非公式ノ打合ヲナシ更ニ五月六日ヨリ倫敦ニ於テ引續キ打合會ヲ開キ各國政府ニ對シ回答ヲ求ムヘキ質問書ノ用式ニ付協議スルコトニ決定シタルヲ以テ本邦側ヨリハ不取敢囁囁託ヲ其ノ局ニ當ラシメ吉坂及郷ヲ其ノ補助タラシムルコトニ取計ヒ居ル趣ナリ

○附註 玖馬委員等ノ留保ニ就テ

委員會ニ於テ協約案討議ノ時ヨリ玖馬委員ハ同案第三十七條ニ依レハ小國ハ必シモ常時代表セラルモノニ非サルヲ以テ其ノ權利ヲ確保シ得ル様修正アルニ非サレハ同意シ難キ事ヲ述ヘ同案最終採決ノ際右ノ留保ヲ附シテ

賛成シ度キ旨申出テ議長ハ之ヲ承諾シ難キ旨ヲ述フルヤ該委員ハ協約全部ニ反對ナル旨ヲ宣言シタルカ後三月二十日夜ノ會議(講和調書其五第一三五頁参照)ニ於テ態度ヲ翻シテ賛成者トナリタル次第也然ルニ同委員ハ四月一日ノ總會議ニ於テ再ヒ憲法上ノ理由ニ依リ第三十七條ニ關シテ留保スル旨ヲ宣言シ其ノ旨會議錄ニ記入ヲ求メ中南米諸國ノ全權之ニ附和シタルカ同會議ニ於テ該協約案採決ノ際議長「クレマンウソ」ハ右留保ニ關シ何等云フ所無ク瞬時ニシテ可決ヲ宣言シタル次第ニテ玖馬以下諸國ノ留保カ如何ニ取扱ハルルヤハ未タ判明セス尤英國委員「バーンズ」ノ意見ニテハ各國ハ協約中ノ個條ニ對シ留保ヲ爲シツツ協約ヲ調印スルコトハ容認シ難キニ付玖馬以下諸國トシテハ自ラ憲法上ノ困難ヲ解決シテ協約ニ加ハルカ若クハ協約ニ入ラサルカノ二途ヲ選フノ外方法無カラムトノコトニテ條約起草委員長「フロマジヨー」モ亦(不明)ノ條件ニ就テハ留保ヲ附シテ調印スル事ハ容認シ難カルヘシトノ意見ナル由

(丁) 講和條約ニ挿入スヘキ労働條件ニ關スル九ヶ條ノ原則ニ關スル件

(四月十六日及十七日巴里發電)

(二) 九ヶ條ノ原則ヲ講和條約ニ挿入スヘキヤノ問題

講和條約中ニ挿入スルノ目的ヲ以テ三月二十二日迄ニ國際労働法委員會ニ於テ可決シタル労働條件ニ關スル九ヶ條ノ原則(講和調書其四第一〇七頁(四)及同頁綜合案並調書其五第一二七頁乙及第一三七頁参照)ナルモノハ即時ニ例外ナク實行ノ義務ヲ負ハシムルモノニ非シテ今後開カルヘキ國際労働會議ニ於テ之カ實行ニ關スル規定ヲ決スルヲ俟チテ相當ノ措置ヲ爲スコトヲ要スル趣意ナルカ既ニ本年十月開會ノ華盛頓會議ノ議題ヲ定メタル外(講和調書其四第一〇六頁(三)ノ(ロ)参照)更ニ斯カルモノヲ決議シ講和條約ニ挿入セムコトヲ求ムルコトノ可否ニ付テハ委員會ニ於テモ議論アリタル處ナリ然レトモ右ハ兎ニ角米佛伊等ノ委員ヨリ當初提出シタル議案ニ係リ且三月上旬委員會ノ休會期間中英佛伊

白各國ノ労働者仲間ヨリ委員ニ對シ労働ニ關スル具體的條件ノ議決ヲ迫リタル結果此等ニ對シ何トカ始末ヲ付クル必要アリ茲ニ於テ其ノ議定シタル原則カ如何ナル形式ニ於テ講和會議ニ採用セラルニヤニ付テハ委員會トシテハ判然タル決定ヲ爲サヌシテ條件其ノモノニ付討議ノ上既報ノ如キ結果トナリタルナリ英國委員「バーンズ」カ國際労働法制常設機關設置ニ關スル條約案ト共ニ右九ヶ條ノ原則ヲ四月十一日ノ聯合與國會議ニ報告シタルモ其ノ採決ヲ提議スルニ當リテハ<sup>ハナダ</sup>協約案(華盛頓會議ノ件及其ノ準備ニ着手ノ件ヲ含ム)ノ採用ノミヲ(缺脱)研究セサリシ次第ナリ

(1) 九ヶ條ノ原則修正ニ關スル旨英米委員ノ非公式交渉

而シテ勞働條件ニ關スル九ヶ條ノ原則ニ就テハ本邦委員ハ其ノ後更ニ英米委員ト非公式ノ會議ヲナシ該原則カ不日講和總會議又ハ最高會議ニ於テ確認セラルルコトアルヘキニ鑑ミ豫メ必要トスル修正ヲ考究決定シ置クコトトナシ種々打合セヲ爲シタリ而シテ其ノ際我方ヨリ再三除外例ヲ挿入セムコトヲ主張シタレトモ原則中ノ或モノニ付特ニ或國ノ爲ニ除外例ヲ設クルコトハ困難ナルヲ以テ寧コ原則ノ全體ニ至リ特別ノ事情アル國ハ相當ノ變更ヲ加ヘ得ル餘地ヲ設ケ置ク様前文ヲ修正スルコトニ話シ合フニ至リ更ニ其ノ文句ニ就キ討議シタル結果原則ノ適用方法ノミナラス原則其ノモノニ對シ變更ヲ加フルコト及其ノ變更ハ勞働會議ニ於テ決定スルニアラシテ當事者タル國家カ自ラ之ヲ決スルコトトナス點ハ我方ニ於テ強ク主張シタル結果漸クニシテ承諾セシメ即チ左記「ブレアンブル」ノ如キ修正案トナリタリ尙第八ニ就テハ英米側ヨリ廢棄ヲ申出テ段々話合ノ上是亦修正ヲ加ヘ左記第八條ノ如ク文句ヲ改メ各條ノ順序モ變更ノ上左記ノ如ク決定セリ

(11) 以上ニヨリ決定セラレタル九ヶ條ノ原則修正案左ノ如シ

With a view to bringing about, at the earliest possible date, a general improvement of conditions of labour, the High Contracting Parties declare their acceptance of following principles, subject to such modifications, in case of parti-

cular countries, as are necessary in view of substantial differences of industrial conditions resulting from imperfect development of industrial organization, climatic conditions, or other special circumstances. They engage, after consideration of recommendation to be made by International Labour Conference as to their practical application, to take all possible steps to secure realization of these principles or of what are, in the case of countries where the special circumstances aforesaid obtain, approximately equivalent principles.

1. Labour worker should not be treated merely as a commodity or article of commerce.
2. Every worker should be secured living wages, that is wages adequate to maintain reasonable standard of life.
3. Right of association for all lawful purposes of both workers and employers should be recognized.
4. Hours of work in industry should be based upon eight hours a day or 48 a week.
5. Every worker should be secured a weekly rest which should include Sunday whenever possible.
6. In order to safeguard their education and physical development,
  - (a) employment of children under the age of fourteen years in industrial and commercial occupations should be prohibited.
  - (b) employment of young persons between the ages of fourteenth and eighteenth in such occupations should be allowed only on condition that their education (technical or general) be continued, and that work itself be not prejudicial to their physical development.
7. Equal pay should be given to women and to men for work of equal value in quantity and quality.
8. Foreign workers lawfully admitted into any country should be accorded same conditions in respect of their work, and they and their families should be accorded same treatment under the social insurance laws as the nationals of the

country.

9. Each state should make provision for system of inspection in which women should take part in order to ensure enforcement of the laws and regulations for protection of workers.

大正八年五月三十日調

### 千九百十九年巴里講和會議ノ経過ニ關スル調書（其七）

（自四月十六日至四月二十一日）